

第4回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会

日時：平成29年11月28日（火） 午後3時～午後5時30分

場所：都筑区役所5階 特別会議室

議事次第

1 開会

2 議題

- (1) 第3回委員会会議録の確認について【資料2】
- (2) 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申（案）に関する意見交換【資料4】
- (3) 区民文化センターニュース 第4号の発行について【資料5】

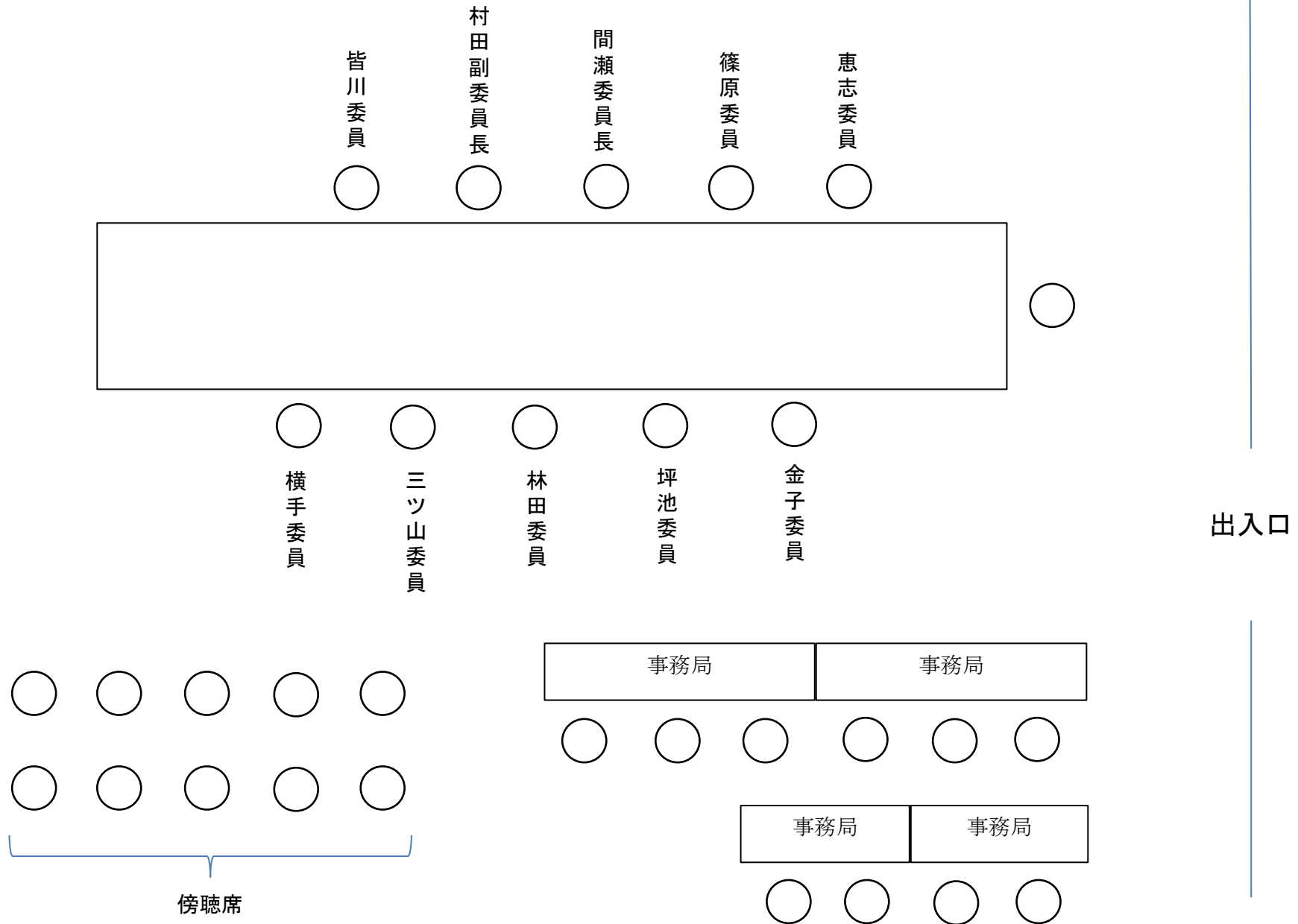
3 事務連絡

資料目次

資料1	第4回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表
資料2	第3回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録
資料3	現在寄せられているアイデア等について
資料4	横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申（案）
資料5	都筑区 区民文化センターニュース 第4号（案）

第4回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表
平成29年11月28日（火）午後3時～午後5時30分 都筑区役所5階特別会議室

資料1



第3回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録	
日 時	平成 29 年 10 月 2 日 (月) 午後 3 時～午後 5 時 45 分
開催場所	都筑区役所 5 階 特別会議室
出席者	<p>【委員】 間瀬勝一委員長、村田輝雄副委員長、恵志美奈子委員、金子進委員、篠原慎一委員、坪池栄子委員、中村雅子委員、林田育美委員、三ツ山一志委員、皆川健一委員、横手美枝子委員 (11 名中 11 名、委員は五十音順)</p> <p>【事務局】 都筑区長、都筑区副区長、都筑区区政推進課長、文化観光局文化振興課長、株式会社地域計画研究所 ほか関係職員</p>
欠席者	なし
開催形態	公開 (傍聴者 3 名)
議 題	1 第 2 回委員会会議録の確認について 2 第 2 回区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの実施報告について 3 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申 (たたき台) に関する意見交換 4 区民文化センターニュース 第 3 号の発行について
決定事項	本日出された各委員の意見を事務局にてまとめ、答申 (案) を作成し、次回委員会にて示す。
議 事	<p>開会</p> <p>(間瀬委員長) それでは、定刻となりましたので、ただいまより「第3回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会」を始めさせていただきます。</p> <p>9月10日に、2回目のアイデアミーティングがありました。ご見学された皆様、お疲れ様でした。本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入る前に、条例に基づく定足数の確認について事務局より報告をお願いします。</p> <p>(企画調整係長)「横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」の第6条第2項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」と定められております。本日の出席委員数は、現在定数 11 名のうち 10 名でございます。篠原委員は遅れて出席される予定です。よって、出席委員数は半数以上ですので、本会が成立していることを報告します。なお、事前にお渡しさせていただいた席次及び資料で変更のあった資料につきまして、皆様のお手元にお配りしておりますので、差し替えをお願いします。また、本会議については「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」第 31 条に基づき、原則公開と定められております。本日は傍聴人が 3 名いらっしゃっています。</p> <p>(間瀬委員長) 条例に基づき本委員会が成立していることが確認できました。</p> <p>それでは、これより議事に入ります。まず、第 2 回委員会会議録の確認</p>

について事務局より説明をお願いします。

1 第2回委員会会議録の確認について

(企画調整係長) 資料2をご覧ください。事務局において第2回の会議録をまとめさせていただきました。恐れ入りますが、修正がございましたら本日事務局までお申し付けください。なお、本会議録につきましては確定後、前回配付しました会議資料と併せてホームページ等において公開しますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

(間瀬委員長) では、確認をしていただき、本日の会議の終了までに事務局に申し出てください。それでは次に、9月10日に開催された、第2回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの実施報告について、事務局から説明をお願いします。

2 第2回区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの実施報告について

(地域計画研究所) 資料3について説明

(間瀬委員長) アイデアミーティングで出されたアイデアや意見について、説明いただきました。これに対するご意見がありましたらお願いします。

(各委員) 意見なし

(間瀬委員長) 後ほど何か思い付かれましたら、そのときにおっしゃってください。では、続きまして前回の議論に基づいて事務局が答申のたたき台を作成してきていますので、それに沿って進めていきたいと思えます。まずは、都筑区の区民文化センターのコンセプトと施設の運営・管理に関する部分について30分程度議論し、皆さんにそれぞれ1回以上はご発言いただきたいと思えます。その後、休憩を挟んでから、施設構成について1時間程度議論します。今回の議論をもとに事務局にて修正していただき、答申の案として、最終回の委員会に臨みたいと思えます。では、はじめに、事務局から答申のたたき台について、説明をお願いします。

3 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申(たたき台)に関する

意見交換

(区政推進課長) 資料5について説明

(全体の構成について/区民文化センターのミッション、ミッションの実現に向けて重要な方針について 等)

ミッションの実現に向けて重要な方針では、委員の皆様のご意見から「施設を柔軟に使っていく姿勢を取り込んでいく」ということが大事なのではないかということを感じまして書かせていただきました。

文化事業の提供・展開のところについては、第2回委員会ではいくつかの柱を提示させていただきましたが、今あえて特徴をつける必要はないのではないかというご意見がありました。区民の皆様が使われていく中

で、基本的役割の中から、都筑にとって特徴的な取組が出てくるのではないかというように考えまして、現時点では区民文化センターの役割として定められている6つの基本的役割を書かせていただいております。

(間瀬委員長) いま説明のありました、資料5の8・9ページの「区民文化センターのミッション」と「ミッションの実現に向けて重要な役割」について議論をしたいと思います。

(村田副委員長) 先ほどアイデアミーティングの報告がありました。皆さん、みなきたウォーク側にエントランスを設けてアプローチする形がいいと言っている。そのように答申していくのか。あの12,000㎡中でどのようにしてエントランスを設けたらいいか、キャパは3,000㎡でどういうものにするのか、そこが漠然としている。アイデアミーティングの意見の中でも取り入れられるもの、取り入れられないものと色々あると思いますが、果たして答申としてうまくマッチングしていくかどうか。これを全部入れていくとなると、限られた3,000㎡というスペースの中にコンパクトに納まるのかどうか、少し心配しているところです。

(三ツ山委員) 市民の方が参加して、それぞれの想いをたくさん出されている。それをどこでどうやって整理するのか。整理をしてしまうと、がっかりする市民の方もいらっしゃるでしょう。こういう中で、「この部屋はこれしか使えない、というものではない」ということを考えてみます。つまり、一つの部屋が「こういう使い方もできるだろう」ということについて考えます。「多様性」という言い方をしていますが、やさしく言うと、「その部屋をどのように使うかというところの柔らかさ」。いずれにしても、場所は区切らなくてはいけない。その区切られた場所は、用途が出てくることもあるでしょうが、そこに多分この都筑の区民文化センターの特徴が出てくるかなと思います。もしかしたら、用途が定まっていない茫洋とした部屋が、使う人間たちの机の出し方とか壁の置き方によって凜とするかもしれない。最初から凜とするのではなくて、ある程度茫洋としているのですけれど、照明など、そこに後付するものによって、何かが訴えられるような、そういう施設づくりもあると思います。用途を聞きながら、それに応えて場をつくっていくという意味で、この施設の運営者は、やはり専門的な経験、知識がないと、それをできないだろうなと思って聞いていました。

(横手委員) 私も同じように考えました。最初に林田さんが言われた「都筑区らしい」というのは、アイデアミーティングで色々な意見が出て、それを全部取り込むのは面積も金額も無理だと思いますけれど、フレキシブルに動かせる状態にしていけばいいのかと思います。そして、やはりみなきたウォークからの動線というイメージが私もありました。他区の区民文化センターを見たときに、併設している商業施設と区民文化センターがまったく別の建物のように感じたところがあって、区民文化センターは一体どこにあるのだろう、どこから入るのだろうと思いました。商業施

設から区民文化センターの方に行くのに外に1回出るというのではなく、都筑区の象徴的なあの敷地に、3,000㎡という数字がもうあるのだけれど、デベロッパーが来て、どういう設計士さんが来るのか分からないけれど、イメージとして、文化芸術の拠点である区民文化センターだけではなくて、そのデベロッパーがつくる施設全体が一体となって「ここに文化センターがある」「芸術文化の都筑区の拠点がここにある」という、全体的にそういう雰囲気が醸し出せるような大きなものができたらいいなと思っています。エントランスについても、客の動線もありますけれど、商業施設なのか、何が建つか分かりませんが、区民文化センターと一体となった入り口があって、区民文化センターに入る動線がワクワク感にあふれ、気分が文化的に高揚していくように、全体的な建物のイメージも、文化的な拠点になるものをつくってくださるように業者さんをお願いをしたいなと思います。駐車場が別の場合も、駐車場で車を降りて、どこに行ったらいいのだろうと探すのではなく、駐車場からその施設に行く動線が分かりやすいように。駐車場代金の問題もあると思いますが、利用する施設により駐車場を分けるのかもしれませんが、商業施設がもしできるのだとしたら、区民文化センターに来た人が帰りにお買い物をするれば、駐車場が無料になるとか、そういう全体的に一体感のあるものになるようにつくっていただければいいと思いました。

(皆川委員)

入り口の話が出ていました。隣の歴史博物館、みなきたウォークの向こう側にあるほかの施設との関係をつけることなど、他にも色々な情報が出されていますが、これをやはり全部取り入れるわけにはいかない。ですからここに書かれているような多様に対応できる柔軟性。中の部屋をどんな風にするかとともに、これもやはり一つのテーマだと思います。やはり、みなきたウォーク。よく見て来たのですが、地下鉄の高架下に保育園だとか町内会館ができていたりして、なかなかうまく行けないので、やはり歴史博物館の業務用駐車場がある一番後ろの方で施設につながるのかと思ったところです。たまたま歴史博物館の前の道路から線路の方に階段、段差があるのですけれども、そこをスロープなどにすれば、歴史博物館にそのまま広場から行けるのです。その関係でやはり向こう側に入り口をつくれるといいと思います。広い長い土地ですがどんな風にできるか、やはりエントランスは大切で、これが区民文化センターかというエントランスが欲しいなとは思いますが、どうなるか想像はつかないのですが、エントランスへどう行くようになるのか、できれば外から入り口の位置が書いてあって分かりやすく、1階から区民文化センターがすぐあるようなエントランスができれば一番いい。そして、多様性に応じて使えるような工夫をした建物、皆さんの要望が多いので、いいものができればと思っています。今まで区民文化センターを見てきましたが、建物の中にあると分かりにくかったです。区民文化センターに来て、さっと分かるようにしていただければと思っています。

(林田委員) この方針の冒頭にあたる区民文化センターのミッション、そしてミッションの実現に向けて重要な方針に書き込むのはこのようになるだろうと思っています。ただ、これまでのアイデアミーティングなどの記録を見ますと、さまざまな要望があるのですが、「都筑区らしさ」の大きな観点は、運営に関わりたいという想いを持っている区民がいるということだと考えています。私自身も施設の立ち上げから運営管理に携わっておりまして、その観点で言うならば、施設運営・管理の項目が、今回答申を作成する上でとても重要な部分になると思います。どんなに素晴らしい管理ができたとしても、どのように運営していくか、そこがなければいい事業にはなりません。それを考えると、ここの2行でいいのだろうか。ただ次に「施設運営・管理面での配慮事項」と少し細かく項目立てがされているので、このあと考えていくのですが、9ページまでを考えるのであればこの一文で事足りるのかどうかという感じがしました。つまり区民が参加するということは、おそらく運営に携わるのであれば共同事業体をつくるということになるのではないかと思うわけです。当然専門家の方に関わっていただかなければならないと思いますけれども、共同事業体の例では杉田劇場もそうだと思うのですが、NPO 法人とチーム杉劇という、そのようなかたちでの運営が考えられるのかどうか、いずれにしてもこの答申のどこかに、区民に関わる余地を明記した方がいいのではないかと考えています。今の議論はこの9ページまでということなので、後ほどまたお話しします。

(間瀬委員長) 施設運営管理について、もう少し書き込んだ方がいいのではないかと
いうご意見ですね。

(中村委員) 前回欠席してしまいました。ご意見の記録を読ませていただきました。色々な方が、区民文化センターをよいものにとご意見を出されているのですが、制約条件が見えていない中で、色々盛り込みたいことが出ています。このたくさんの意見を得た後に収束が難しいのかなと思います。前提で3,000㎡以内ということのを伺っているのですが、これも少し広げられないかというご意見も出ていて、面積を広げることが可能なのか、私自身分からないできています。最初から制約条件だけ言ってしまうと夢も何もなくなくなってしまうと思うのですが、もう少し収束したかたちでのご議論もいただけると良いと思っています。ハード面の方なのですが、皆さんもおっしゃっていたような柔軟性のある施設ということで、何でもできる機能も求められ、一方で建てる時点でビルトインしていかないといけない専門的な技術的制約もあると思うので、その中でどこまで可能性を持たせ、自由度の高いままにしておき、どこまでは最初につくってしまうのかを明確にしないと考えているだけになると思います。運営管理の部分、ソフト面ではその書き込みで、私もここはもう少しイメージ的に書いた方がいいと思います。まちの設計のときに、緑道そのものは道幅など狭いですが、協定を結んで周りの緑を取り込むことで、見た感じとして広々として緑のある空間をつくってきています。イベントなどに使うというようなこともありま

す。今回もいくつか意見が上がってきていますが、みなきたウォークと少し一体感を持たせる演出をしていくという、沿道の個々の施設と連携したこととして、こういうことができないかということを含めたいと思います。

(坪池委員) 前は欠席してしまいました。次号の雑誌「地域創造」のテーマが「新たな居場所・まちの文化交流施設」というものになっているのですが、たくさんの方が暮らしている生活の場所に、それも商業施設の中にあるということで、皆さんの居場所となるような計画が必要かと思っています。そのためには、自分たちが理想とするまちに貢献してくれるようなデベロッパーをどうやってパートナーに選ぶのかということがとても重要なことになるのではないのでしょうか。「まちライブラリ」というみんながつくる図書館運動が注目されています。ぜひこうした事例を参考にして、区民の居場所になる施設を目指していただければと思います。それから施設の立地を考えると、センター北駅とセンター南駅、区役所のところまで、もう少し大きな範囲で、人の流れや居場所づくりを考えることも必要かと感じました。今日はセンター南駅を降りてこちらに歩いて来ましたが、コンサートのできる屋外の階段状のひろばで階段のところに、ベビーカーを持ったお母さんたちがたくさん座って、食べたり飲んだりしていました。今日は雨が降ってなくて良かったなあと思いながら見ていたのですが、こうした親子の居場所になるような公共スペースのあり方も一緒に考えられるといいのではないかと思います。こうした親子を対象とした、時間消費型事業に力を入れているデベロッパーがパートナーになるといいのではないのでしょうか。こうした「まちなか文化施設」として考える場合、皆さんがどんな暮らし方をしたいのかという前提がないと、新しい施設のあり方も考えられないと思います。

(金子委員) 8ページ、9ページに関してはこれでいいのではないかなと思います。あと施設運営や施設構成については後ほど議論が出てくるのだと思います。そこで意見を述べたいと思っています。

(恵志委員) 改めてこれを「答申」として考えてみました。つまり、私たちが市長から選ばれて、区民意見を取りまとめた上で、こういう施設だったらいいのではないかという取りまとめをすることだと思うのですが、まず気になるのが、8ページのところで目指すことというのはいいのですが、例えば「提供します」というような言い方が、その提供する中身としてはいいのですが、われわれ委員会が、どこかに提案するというときには「こういう施設だといいいのではないですか」という提案であるべきものなのだと理解しているのですが、そのときにこの答申だと「提供します」とか「つくります」とか、あたかも私たちが主体になって、提供したり、きっかけをつくるというような表現が、まず答申のかたちとして、中身の話ではなくて、ちょっと気になります。今の話を聞いて思ったのですが、ここに書いてある出来上がったコンセプトを基に、デベロッパーの人たちを

募集してかつこれを基にした形で運営者を募集していくということになっていくと思うのですが、そのときにこのメッセージがどちらに向いているのか、若干ぼんやりしているという気がしています。書きたいこととか中身については議論されてきていることが書かれています。それを伝えるときの伝え方。まとめ方が、先ほど 10 ページにあるものとコンセプトも含めてなのですが、運営者に対する期待としてはこういうものがないのではないかとということと、デベロッパーに対してはこういう施設を考えたのでこの形がいいと思うというような表わし方をちょっとクリアにした答申にしたほうがいいのではないかなと、今これだけ見るとそう思います。

(篠原委員)

8 ページと 9 ページにある案については、概ね妥当だと思っています。書き方云々は今ご意見がありましたしもうちょっと考えてもいいのかなと思いますけれど、そもそもこの区民文化センターのミッションとは、こうあるべきで、そのミッションを実現するための基本方針。1 回目に申し上げたかもしれませんが、難しいのは多目的が無目的になりがちだということです。どこまで多様にできるかという、つまり本当の意味の多目的ホールをつくりあげる、多目的施設をつくり上げる意気込みとして、絶対譲れないものと、ここまではあった方がいいもの、何でもかんでもあった方がいいのではなく、あまりにも使用頻度が少ない物はカットする方がいいというような観点での、優先順位付けが大切だなと思っています。そんな風に考えていきますと今、皆さんのお話を伺って特に坪池さんのお話にはとても触発される所が多くて、これから新たな施設をつくるにあたっては、こういう程度の物をつくってくればあとはお任せしますというのではなく、こういう施設を中核において、できる限り連携可能な全体像をまとめたいところを、それでどこまで応募が上がるかということもあるかも知れませんが、最初はそういう意気込みで臨むぐらいのことがあってもいいのかなと思います。入り口がどの方向でということも含めて、色々な考え方があります。区民文化センターと違う施設が同居する。だから入り口が別というやり方も今まではあったでしょう。先ほどの話などを総合すると、できる限りひとつの施設の中で総合施設の目的の中の一つに区民文化センターもあるという言い方だと、入り口は共有のものがあってどこかで分かれている、あるいは共有するスペースがたくさんあって、区民文化センターもある意味商業施設の中に開放されている部分もあり、その逆も真というようなことがある意味では理想論なのではないかと。やはり最終的に何か新しい区民文化センター、せつかく独立できる敷地を持っている区民文化センターですから、それについてはそういう投げ方が大切のかなと今ご意見を伺っていて強く思いました。

(間瀬委員長)

前回のアイデアミーティングを見学させていただいて感じたことで、また今日のご議論を聞いて思ったのですが、この施設は専門性と多様性の折り合いをどこで付けるかということなのかなという気がします。ハードの

面でもソフトの面でも同じように、どの辺を着地点にするかということでしょうか。このあとハードの方を議論しますが、私の経験でいくとやはり商業施設と一緒にというのは大変いいことなのですが、クラシックコンサートをするときに商業施設の雑踏が入ってくる、においが入ってくるというのは困る。ですが、普段の発表会とか皆さんがお使いになるときは、逆にそのごった煮的な状況がプラスになる。これは両方あると思います。どんな折り合いをつけ、落としどころをどうするのかということ。そして、今回の開発全体が文化拠点となるような開発をと思いますが、本答申も当然与件として出すことになると思います。どのようにアピールをして我々の議論している内容を開発の中で生かしてもらえるのか、行政当局にぜひ託したいと思います。それから運営を区民参加でなるべくやりたいという、これもアイデアミーティングでもご意見が多かったと思います。これは否定できることではなく十分可能性があることです。杉田劇場はやっていまずけれどNPOと一緒に財団が運営しております。区民の皆さんが奮闘なされれば十分可能だと思います。これからの新しい区民文化センターという考え方を議論いただいて、まだもう少し詰めないといけないかなと思います。

それではここで休憩を入れまして、後半は10ページ以降について報告をいただきながら議論をしたいと思います。時間としては、17時半頃までを目途にしていますので、休憩は16時15分までの10分間とします。

休憩（10分間）

(間瀬委員長) それでは、皆様お戻りですので、会議を再開します。後半は少し長丁場になりますが、17時25分頃までを目安に、区民文化センターの施設運営、施設構成、施設のスペック・仕様などについて議論したいと思います。事務局から資料の説明をお願いします。

(区政推進課長) 資料5について説明

(施設運営・管理面での配慮事項／施設構成／その他、敷地、建物全体において配慮いただきたい事項 等)

(間瀬委員長) 舞台の形状や広さについて説明

(間瀬委員長) それでは、主に10ページ以降の内容についてご意見をいただきます。

(篠原委員) 12ページの関係模式図は非常に分かりやすい。ただ、これがそのまま平面におさまるというわけではなく、エントランスから、普通はエントランスホールとは言いませんけれども、そこから色々ご意見があった中で、ギャラリーと隣接させて有機的に結合させたという意味合いでここに並べている。ホールに続くエントランスから入るようにすると同じ階にリハーサル室があるといいと描かれているけれども、それが実施設計上にどういうふうに表現されるかは別の話だろうと思います。概念的に近い部分をどう

実現させるかというところで、このようにつくってくださいというものではないことは認識すべきポイントの一つだろうと思います。その上で、一般の区民の方のご意見で、みなきたウォークとエントランスの関係が非常に大きく扱われていて一つのポイントだろうと思っています。先ほどもお話されていましたが、今みなきたウォークはすべて裏側動線のようなイメージがあって、表通りに面して商業施設が並んでいる。そちらが表だとしたら今度の施設はどういう成り立ちになるのか、例えばメインのエントランスをどこに設けるかという問題もありますけれども、必ずみなきたウォーク側からも入れるようにというのが例えば譲れない線なのか、それともみなきたウォークにメインのエントランスをつくることなのか、というところが先程来申し上げている優先順位の付け方なのだろうなど。施設全体が文化施設としての色彩を帯びることという意味で、この区民文化センターを、厄介者をつくらなくてはここを使えないというのではなくて、それを中心にすえた、といえは言い過ぎかもしれませんが、商業側が有効に区民文化センターを取り込むような観点での設計を望みたいと思います。では、どこがエントランスでどこがホールかというあたりは、デベロッパーの腕の見せ所で、期待したいところになります。我々としてはこういうのがどうしてもほしい、できればこの近くにほしいというような要件だけを出して行って、こう並べてくださいではないということを確認したうえで、しかもみなきたウォークを無視しないでほしいということ、それをメインで使うのかサブで使うのか、望ましい方式で何が一番望ましいのかということ、を少し明確に議論させていただければいいのかなという風に感じています。

(恵志委員) 建物全体の中での位置づけというのが、どうやってほしいのか、例えばみなきたウォーク側がいいという言い方よりは、施設全体の中で区民文化ホールがどういう位置づけであってほしいというような記述が必要。今ここだと区民文化センター部分だけが取り上げられているかたちなので、中はこれでいいのでしょうけれども、これにプラスアルファをするような文言が必要なのかなと思います。次に、例えば 3LDK のマンションと一言と言ってもそれぞれ全然違うわけで、それがどう違うかというようなことを。今の状態は、ただ 3LDK のマンションをつくってくださいといっているような状態だと思うのです。「より開放的に」というようなことは書いているのですけれども、機能として必要としているところと、その空間全体のイメージの提案というのが若干混じり合っているので、イメージとしてどういう風にしてほしいということと、施設としてどういうものがほしいということは別にする。この庁舎もすごく区の施設という感じで、1階にカフェなどがあって、地域の団体の方が運営されていてとても素敵だと思うのですが、場所自体はうまく外に開いている感じではない。例えば、ここの施設でカフェをつくりましょうというときに、デベロッパーはとりあえず了解して作りましたというような状態だと思うのです。この答申で言っているカフェが、要件だけが盛り込ま

れるようなかたちではなく、空間をデザインしていくための提案を求めているというのを、もう少し熱を帯びた感じで伝えてもいいのかなと、どうしたらいいのかは分からないのですが。

(金子委員) 今このタウンセンターは飽和状態で、テナントの入れ替えが盛んです。商業施設から商業施設へタウンセンター内で移動している。そういうことから言うと、区民文化センターと商業施設を事業者が提案されるときは、そういう状況を把握しているので当然いま無いものを持ってくる。それが健康とかスポーツとかという形になっていくのだろうと思う。街づくり委員会の委員長をしているので、通り抜け通路というのは、ただ真ん中に道をつくるのではなく、例えばみなきたウォーク側に、公開空地的なかたちでそちらに持ってこられることもできるので、そういう意味からすると、皆さんがアイデアミーティングで話されたようにその通路をうまく使って、みなきたウォークで文化ゾーンにつながるように。優先順位ということでいくと、道路を含む通路をみなきたウォーク側に持ってこられる。センター北とセンター南の間にあるわけですから、通路をみなきたウォーク側に持ってこられるれば、両方に行ける。それをよしとするのであれば、委員会から出す必要があるかと思う。管理者の関係ですが、NPO 云々とありますけれど、当面は指定管理者制度使いながら、時間をかけながら、区民の活動を NPO のように組織化していけばいいと、そういう方向性を出しておけばいい。最初からすぐにそうやるわけではなくそういう方向性だけでいいのかなと思う。

(坪池委員) ホールの形式について確認ですが、シューボックス形式ですか？

(間瀬委員長) 音楽利用を中心に考えて。300 席のホールで、間口に対して客席が扇のように開いているところがあります。客席と舞台が真っ直ぐつながるような意味です。

(坪池委員) シューボックス形式という勘違いされるので、修正された方がいいと思います。後は、まちなかの文化施設として、開発、まちづくりと一体型で考えてほしいということを明記していただきたいということと、あまり施設の細かな仕様を提言を入れられても困るのではという感じがします。基本的には 12 ページのイメージ図ぐらいでいいと思います。その中で提案があるとすると、情報コーナーというもので活用されている情報コーナーを見たことがありません。チラシをばさっと置いてあるみたいな感じで、それで情報を集めて発信していると考えるのはいかがなものかと思います。情報コーナーという書き方をするくらいだったら、区民活動室と明記されて、区民活動室の中で情報を発信したい人の拠点になればと思います。今よく議論になるのが、事務室なのですが、考えなくてはいけないのが、オープンスペースの事務室にするか、クローズドな事務室にするかがひとつの選択で、オープンだとやっている側は丸見え状態になりますけれど、そういう形で持ちたいならば、提案の中に含ませておいた方がいいかなと思っています。ギャラリーイメージでいくと、一番問題なのは高さで

す。私が知っている例で言うと、エントランスのところの天井を高くしておいて、高さのある作品のインスタレーションを含めて、お祭りのときなどにも使っています。いずれにしても、ハード条件としては、皆さんが望まれる最低限のレベルを入れておくにとどめた方がいいのではないのでしょうか。あと、連携という言葉が大変都合よく出てきますが、連携の関係づくりは大変難しいので、安易に使わない方がいいのではないかと思います。委員会として体制づくりのところまで踏み込んだ議論が必要。

(中村委員) 私はハードに関してはあまりわからないのですが、先ほど説明のあった舞台の8間かける8間というこの大きさが無いとお芝居というのは成り立たないものなのか、スタンダードなサイズというものがあるのですか。今までのご経験から出てきているものだと思いますが、私には経験がありませんので。区民文化センターの周辺について、通常この辺の商業施設は先ほどお話しがあったように、どの辺に頻繁に人が通るのか、車で来る人ではなく来ていただいた人に道が分かるとか、大通りに面して商業施設が全部並んでいるのですが、それはただ広いところから人が来る、車で来るということであればそちら向きに表側があるのでしょうか。この施設の性格が、外から人をたくさん集めるというよりは、地域の方々が見に行く、というより楽しみに来る、発信者としての活動をしながら、ということであれば、必ずしも外を向いていなくてもいいのではないのでしょうか。むしろ駅から歩いてとか、他の文化施設を回遊してとかいうのであれば、そちらから行きやすいかたちにすればいいと思いました。みなきたウォーク自体も道筋そのものは殺風景で、歩いてきて楽しい道ではないのですが、ここを本当にエリア全体でどのように活性化していくかということになるのではと思います。歩いていけるというそうした観点が大事なことなのでと思っています。一つ一つのホールや練習室などが求める仕様については、先ほど言われていたように区民の意見を多くいただいたものであると思うのですが、優先順位というお話もありましたが、予算的な面でも伺っていないのですが、作戦的にもどれを重視するのか優先順位をつけられるといいと思います。

(林田委員) 最初に意見を言わせていただいたように私自身も一つ施設を運営しているのでその観点でお話すると、10ページにあるように安全安心もありますが、これは、言うはやすしでそんなに容易にできることではないと思っています。特に連携というのはそんなに簡単にできるものではなく、おそらく指定管理者が選定されて、そこにどのような形で区民が参加できるのか、本当に最初の選定のときから共同事業体というかたちができるのか、それともやりながら移行していくのか、方法はあると思うのですが、やはりこの共同事業体というのも実際にはそんなに簡単ではない。役割を明確に分けられるのかどうかという問題もありますし、究極にはどういう人がここに関わってくるのか、バランス感覚が求められると思います。また多くの方々が求めておられる情報コーナーについて、市民活動に

つながるような有効利用ができるよう、そこに関わる人材も重要になってくると思います。ハードに関しては私も全く門外漢でして、実際に別紙に書いていただいているこの内容が3,000㎡の中にかっちりとおさまるかどうか、これはデベロッパーの腕の見せ所だと、どういう風に見せてくださるのか、建て方も含めデベロッパーの力による物だと思いますが、はたしてこれが入るのだろうかというところも実のところわかりません。センター北駅の近くにあるノースポートモールはエリアでは最大規模の商業施設なのですが、このたび大規模リニューアルをいたしまして、9月15日にオープンしております。商業者は東急不動産です。このエリアは人で混雑しているものですから、お客様の取り合いだと思います。その近くにこの用地があるとなると、先程金子委員も言われましたけれど、同じような商業施設ではここでは難しいと思いますので、全く違う観点で新しい形のコンセプトで、闘うことになるのではと想像しております。また、センター北駅周辺は車での来館が非常に多いので、やはり商圈は結構広いと思われ、また都筑インターが近いこともあわせると都筑区内だけのことではない。対抗するところはたまプラーザあるいははららぼーとなどありますけれど、そういうところとつながっていくようなエリアだと思います。その中でここに人が集まる工夫を考えると、今までにないようなことを考えるしかない、区民文化センターの土地で今までにない可能性を考えていかないと人が集まらないのではないかと思います。

(横手委員) 意見が出尽くしたと思いますが、質問です。これは商業施設ではなくて、住宅は全く入り込む余地は無いのですか。

(区政推進課長) 商業施設かどうかはまだ分かりませんが、住宅はつくれないことになっています。業務施設、学校は可能です。

(横手委員) オフィスも入ることができると聞いて少し安心しました。やはり私のイメージの中に、文化施設であるならば、商業施設、業務施設にもある程度の質を求めていきたいと思います。そういう意味ではこれからきっとデベロッパーとやり取りしていくのを頑張っていたいただきたいなと思います。これだけ多くの人、アイデアミーティングにも出てきてくれた区民の方々の意見がかなり吸い上げられているこのたたき台を、苦勞してつくっていただいたと感心して読みました。なので、赤字になってまでやらない商売であるデベロッパーに、これがどの程度、どんな施設ならいいのかという点まで含めて私たちが言うことができるのかなと思います。やっぱり本当に作っていただいたこれが、アイデアミーティングの意見がかなり吸い上げられたものをちゃんと分かってくれるデベロッパーと交渉してください。

(間瀬委員長) どのような店舗が入るかが問題です。

(横手委員) 私自身も車でここに来ました。なので、駐車場との動線、表通りから車で来た方がすぐに分かる「ここが都筑の文化の中心」なのだ分かる、そういうデザインをお願いしたいなと思います。

(三ツ山委員) 用事のある人だけしか来ないのでは区民文化センターとは名乗れないのではないかと思います。12 ページに関して言うと、コンサートや出し物を観に行くのはホールへ、練習する目的があると練習室、そうすると別にここを借りていなくても来ていいよというスペースとしては、エントランスとギャラリーかと。そういう意味では、多分、民間が開発するという意味からすれば、やはり多くの人の流れを取り込めないと困るでしょうし、ですから多くの人が集えるということが大事でしょう。盛んにみなきたウォークで市民活動のイベントをやっているというお話も伺うにあたっては、歴史博物館はトイレを貸してくれるのかなとか、人の流れがつかれるという意味のイメージからすると、お母さんたちが子ども連れて立ち寄れるとか、車椅子を押しながらでもちょっと寄っていきこうかのようなそういう空間が作れるか。その意味でいくと専門施設のようにしてこの施設で企画したものを見に行く、参加しに行くという形態と違って、ここは区の文化施設ですから当然区民の方々のつくられた物がギャラリーを飾り、それが、人が動くきっかけにならなければいけないと思っています。先ほど、情報の話がありましたけれど、ここに来て歴史博物館に行こうということが、ポスター1枚でも、今歴史博物館でこんなことやっていますという、近くのところにポスターを貼ってもらうという関係性だけでもなかなか施設間連携としては難しかったりするのですよ。そういう関係をつくっても担当が替わったら忘れてしまう。おたがいのことをお互い様にしましょうねというような仕組みを担当者と構築して、施設長にもちゃんと行って業務にしてくれといっても担当者が変わるとなくなってしまったりする。だからといってしないわけではない。こつこつしなくてはいけないのですけれど。最近は電車の中にモニターもあって、今そういう意味では単なる紙媒体ではなくて映像で事業を紹介したりすることが非常にコンパクトにできるようになった。そうすると多分情報コーナーというところの中にはチラシとかポスターとかあるのですが、やはりモニターで連携しているところの情報でのやり取りをしていくと、動く情報として非常に多く伝達できたりする。ですから区民センターは使いたい人が活動できるこの意味でどういう施設にしていこうかという話ですね。用事が無くても立ち寄れるというようなことで、エントランスの空間が、ホールへ続く豪華なエントランスではなくて、多様なことができる。他の区文を見ているとやはりホール中心ですからエントランスはホールの扉の前の空間という感じでもったいないと思います。必要なことができる機能を持つということ。それと、施設が運営されて動いてくると、ここでこのようなことがやりたいというアイデアが市民の中から出てくることに応える。具体的な機能を持った場所で、豪華とかたちよりは、お祭りにも使いたいというような話の来る、区民の施設というのは閉じるのではなくていくらでも開いていける、玄関の扉も固定にしないでぱっと開くような発想とかそういうようなことを考えて聞いていました。きっと図面が出てきてから

の話があると思う。大体の輪郭線が出てきてからの話が次には大事になってくる。12 ページの図面をみてバックヤードがないと思いました。バックヤードというのは、備品をしまっておくところで狭いと本当に不便ですから。多機能とか区民の情報に応じながら対応していくと資材は多くなります。それを機能的にしまっておく場所というのは必要です。

(村田副委員長) 色々な意見が出ていますが、車社会の中でどうなのかと。センター北、南あたりで10,000台ぐらいの駐車場のスペースが全体ではあるのですが、やはり区民文化センターは電車で来る方あるいは車の方がほとんどで、車で来る場合どのくらい駐車場が必要なのか、10台50台限りではだめだと思います。ここの12,000㎡で建物のハードなものはホールだとかエントランスだとか大体のキャパで決まってくるの。あそこを構造的に見ると、今横に長い敷地で線路側から平面で、区役所通りと法面がかなりある。そこを造成して全部平にすると後ろの道路から下がる。線路側は平かもしれないが、こちらから行くと2m、3mの法面がある。ではこの図面で行くと搬出口はどうするのかと。やはり後ろの方の道路から必要なのか。あのGLを下げなくては対応できないし、後ろの方の道路を搬入口にするのかと。みなさんが来てくれる区民文化センターだというのが、辛口で言うと、やはりそこに関わっているグループだとか関係する人がほとんどだと思うのです。それには付帯したホールに来なくてもギャラリーだとかそういうスペースでみんなが家族連れで来ることのできるようなところをつくる。12,000㎡を建物の駐車場スペースをつくると、前が空くとおもうので、公園なり、家族連れがちょっとした休憩ができるように。こういった形でデベロッパーが建てるか全部分かっていないが、都筑区の中でも公園にオブジェをつくって楽しみましようといっている人もいるのでオブジェも置いて、誰でも使えるちょっとした催し物もできるようなスペース。中だけではなくて外でもできるようなスペースがあるとホールに来なくてもギャラリーだけでなくもそこに来ていただいて集客。この間の緑区の中でもやはり激戦区だと言っていたが都筑区も激戦区だと思う。区民文化センターがあるから人が来るかという、今言ったようにそこに何かがやりたい、発表したいという人は来ますが。回りをしてみるとあざみ野の方にギャラリーがあったり、専門的な色々なギャラリーがあったりしているわけだから、線路一本で町田もあるし、区民文化センターだから人が来るかというとなかなか限られた人だけで、21万人の区民の半数の人が来るかという、本当に温度差があります。今は取り合いながらやっていますけれど、その中で文化というのはなかなかみんな関心が無くても来てほしいというのはそういうスペースがないと集客するには難しいのかなと思っています。造成するにしても、ホールを使う以外の方が集客してくれるのにはやはり何か区民センターに行かなくてもあそこで何かできるといった、行きたいねとなるものが必要。歴史博物館とジョイントしても興味ある人は行くでしょうが、あそこで人の流れを生むにはもっと魅力ある、

区民の人が、区外の人も行ってみたいなというような文化施設でないと。我々が答申をしてもデベロッパーも営業ですから、商業地域も個性がないと来ない。2年すると区民の方の趣向が変わり要望が変わってくるからテナントも変えていかななくてはいけない。5年、10年そこで定住しながら営業するかというとなかなかできない。入ってくるテナントも短期間の中で収支を決めなくてはいけないのでそのことも含めて難しい。区民文化センターも催しだけに参加する人だけではなくて、そこに行けば情報を収集でき、子どもから高齢者まで行けば楽しめる魅力ある区民文化センターでないと。バリアフリーというけれど今センター南からみなきたウォークの方に行くには階段になる。車椅子の人は車で行って停められるスペースがあればそちらから行く。今の状況ではあそこを歩いてセンター北まで行く人は少なく車で行こうというのがほとんどだと思います。そんなことも考慮しながらホールだけではなくて、ギャラリーとか含めて魅力ある区民文化センターにしていかなないと、今までにない魅力ある区民文化センターにしたいがデベロッパーも営業ですからどんな形にしる飲み込んでいただいて理解していただけたところがどのくらい参加してくれるか。要望ばかりしてもそれでは建てないという事になるとこまる。金子さんがよく言っているように来てくれる業者さんもないと話が進まないことなので、ある意味では落としどころがあると思いますので、その辺も考慮しながら皆さんと議論していかないと絵に描いた餅だけになってしまう。

(間瀬委員長) 大変熱のこもったお話でした。言い残したことがありましたらペーパーで事務局に出してください。今伺っていて思ったことを2点ほど言います。1点目は、直近でいえば今度の開発の業者の選定ということが、かなり重要になるのかなということ。もう一つは、指定管理者を選定するということも一つの鍵になりそうということです。開発業者については具体的な情報が無いのでコメントできないのですが、指定管理者の場合、私見ですが、ここにいらっしゃるメンバーの何人かが指定管理者の選定委員をやる、市民要望などの議論をここまで重ねてきているわけですから、そういったところで担保をするのかと、私見として思っています。それから用事のない人も来てもらえるようなホール、劇場にしようということなのですが、私の経験ではビルの中に入っていると商店には区民文化センターのシャワー効果は確かにあります。ホールの利用者の方がスーパーだったり食堂だったり、かなりお金を落としてくださる。ホールが300人しか入らないわけで、アリーナのように何万と来れば効果はあるのですが、そのテナントさんが潤うほどにはならない。あと、区民文化センター単独ではなくて今回の開発全体の中の位置づけをきちんと押さえておかないといけない。それは私もそう思います。例えば具体例でお話しますと、みなが集まれるカフェがホールの中にあればいい、開発の中のすぐ近くのところにカフェがあってくると、こちらはロビーを広くできる。区民文化センターは限られた面積ですから、民間が外ででき得るものはなるべく外に

出してしまった方がいいのではないかと思います。私はもともと舞台の裏方ですので、何かが無い時にすぐいけるのはコンビニと100円ショップなのです。ホームセンターが一番良いのですが。全体の開発の中で、区民文化センターの中でどうしても持たなくてはいけないものとそうでないものがあり、それを割り振りして、デベロッパーがつくるもの、お茶を飲めるところなどは閉店時間と開店時間の調整で可能です。そのようなことを感じました。また、全体の開発の中でイベント利用の空間、そこは普段は子どもが遊んでいる空間、ホールの前のところから広い空間が何かに使えと、全体の賑わいがつくれるのかな、そんなことを感じました。時間も過ぎていますが、施設の詳しい仕様について、あまり皆さんからご意見が出てこなかったの、何か気づかれた施設のスケールに関わるご意見があればください。最終的には、このくらいの「程度」が望ましいといった書き方を提示したいところです。広さが出てこないと予算も出せないの、その辺はぜひ出していただければと思います。

(篠原委員) 舞台の大きさですが、8間かける8間あると、いわゆるフルオーケストラが乗る大きさなのです。300席の観客に対しては、単純な言い方をするととても贅沢というか、舞台上を重視したつくりになっています。もしこれが実現できれば、これは一つの特色になるだろうと思います。これだけの器があると普通は600席とか1000席近いイメージです。それからギャラリーの天井高さは、この間見た緑区の区民文化センターのようにギャラリーとしてあるところは7m。6mくらいが最低必要で、おっしゃっていたのは、つくりようによってはメインエントランスを活用する、「多様な」のところにどう引っ掛けていくかというところがポイントになると思います。あと関係模式図は、これは図面ではないので、この表記にホールがあればそれにバックヤードがついているという認識で作られているのだらうと思いました。でもこれってある程度数字を入れないとデベロッパーのやりようが無いので、300席はわかるけれど、何間かける何間など、ほしい大きさを言わないと舞台の大きさが分からない。そう思います。

(村田副委員長) これはいつまでに決めるのか。4回目の委員会までに、答申として開発事業者にお願いすることを書く。フルオーケストラが乗るくらい舞台はキャパとのバランスはどうなのか。専門的には分からないが。300席には大きい舞台ということだが。

(篠原委員) 第九は客席も全部歌います。

(坪池委員) 舞台面が広ければ、舞台上に客席を設置することもできますし、一種のフリースペースに使えるので、舞台面が広いことは大変いいことだと思います。

(村田副委員長) 大きさというのは分かるけれども、どんな利用の仕方があるのか、こんなスペースがあるとこんなことができますというところが分からない。

(坪池委員) 多機能に使えるということを打ち出すためには、この12ページの図にもう少し手を加えるといいのではないのでしょうか。今は、練習室とか会

議室とか、機能的な表記になっていますが、エントランスホールは「賑わいのあるエントランスホール」「オープンなエントランス」とか、「まちにつながっているエントランス」とか、それからギャラリーのところは「多機能ギャラリー」とか、用語をかなり練るといいと思います。リハーサル室は「上演もできる」「上演機能を持った」リハーサル室など、いろいろ工夫していただければ。この図では、利用者エリアと共有エリア、こういう軸をつくっていて、そこは素晴らしいと思います。そのところをもうちょっと言葉にして、うまく落とし込んでいくという作業が必要なのかなと思います。

(間瀬委員長) 大変分かりやすい。では、先ほどお話したように、施設の仕様についてはお持ち帰りになって、ご意見がありましたら今週中くらいに、事務局の方に伝えてください。それではこれで、本日の審議事項は全て終了させていただきます。最後に、区民文化センターニュース第3号の発行について、事務局から説明をお願いします。

4 区民文化センターニュース 第3号の発行について

(区政推進課長) 資料6をご覧ください。区民文化センターニュース第3号について、事務局で案を作成いたしました。おもて面は第2回委員会で意見交換をしていただきました内容を記載しております。全ての御発言ではなく恐縮ですが、皆様の御意見をまとめる形で記載させていただきました。続きまして、裏面をご覧ください。本日第3回委員会を開催したことと、今後のスケジュールについて記載し、下半分にレポートという形で、第2回 アイデアミーティングの開催報告を記載しております。この内容でよろしければ、発行の作業に移らせていただきたいと思いますと考えております。

それから本日お配りした資料の中で、先ほど説明をいたしませんでした資料4の説明をさせていただきます。

資料4について説明

(間瀬委員長) 記事の内容について、異議・ご質問等ございませんか。

(各委員) 異議なし

(間瀬委員長) では、ニュース第3号については、事務局説明のとおり、発行をお願いします。その他、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

5 事務連絡

(区政推進課長) 本日も大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。大幅に修正をしていかなければならないなと思っております。第4回委員会は、11月28日(火)午後3時より、本日と同じ都筑区役所5階特別会議室において開催させていただきますのでどうぞよろしく申し上げます。

これで事務局からの事務連絡を終了し、本日はこれにて閉会といたします。本日もどうもありがとうございました。

	閉会
資 料 ・ 特記事項	<p>1 資料</p> <p>資料1 第3回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表</p> <p>資料2 第2回 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録</p> <p>資料3 第2回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録</p> <p>別紙1 区役所からの情報提供（当日使用パワーポイント）</p> <p>別紙2 当日配布資料、机上資料</p> <p>資料4 現在寄せられているアイデア等について</p> <p>資料5 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申（たたき台）</p> <p>資料6 都筑区 区民文化センターニュース 第3号（案）</p> <p>2 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回第4回委員会は、平成29年11月28日（火）午後3時から5時半 場所は本日と同じく、都筑区役所5階 特別会議室

現在寄せられているアイデア等について

第1回横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会開催以降、事務局には区民の方などからメール・文書等で12件のアイデア・ご意見が寄せられました。

※主な内容を項目別に掲載しています。

※赤字は、第3回基本構想検討委員会の配付資料（資料4）からの追加箇所

項目	アイデア、意見（メール、文書等から）
都筑区をどんなまちに	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内で完結する消費のまちから、自らも参加・体験できる魅力的な施設が点在するまち、それらを辿ることを楽しむまち、そして全体の消費力がアップするまちへ ・本が仲立ちをして交流が生まれるまちへ（横浜北部に、本をたくさん積んだブックバスを走らせたい）
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちからお年寄りまで遊べる空間があると素晴らしい ・若い世代につなぐ将来性を備えてほしい。今の活動も大切であるが、次世代の主役になる団塊ジュニア世代や、その次の新社会人世代の価値観が大切な要素 （新しい時代の価値観のイメージ） ① パラレルキャリア：若いときから本業と社会貢献の2本立てに生きがいを求める活動。国内外を問わず。 ② ボランティア活動への参加意識：ひとつの職場に固執せず、異なる価値観の世界にも参加。残業はしないで夜は別のコミュニティ活動に参加。 ③ 占有からシェア意識への変化：個人で占有するのではなく、車は持たずにもシェア、事務所もシェアオフィス。固定的なものを持たずに、そのときに必要なものをシェアする意識が強い。 ④ 情報に対する意識：新聞は定期購入しない、必要な情報はWebから、情報の共有意識も高い。情報センターの意識も紙媒体とSNSの共存（デジタルとアナログ情報）、HPでの広報も過渡期。 ・高齢になるとなかなか遠くに行かなくなる。高齢の方も障害のある方もふらっと立ち寄れて休憩できる、居場所のような場所になってほしい。ハッキリした目的がある人だけが来る施設ではなく、休憩しに来て、「今日こんな催しがあるんだ、ちょっと参加してみようかな」といった流れも生まれるような施設になると良いと思う。 ・バリアフリーの点で横浜市の最先端をいく施設になるといい ・障害者と地域とが直につながる場になってほしい ・新しい時代の文化活動拠点となってほしい （「世界への窓」「文化的コモンズ」「社会包摂」の実現には、公益的な施設が担うべき機能、役割がある。ただし、活動している人たちが意識を共有できる地道な活動が必要。ユニバーサルデザインなど勉強会

	<p>などの開催／だれにでも利活用できる場でなければならない。多様な価値観を共有し、受け入れることのできる個人の意識の改革／多様な価値観を共有できる拠点とすべく、具体的なパイロット活動を行政と区民で試行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの方が増えてきたため、いつでもふらっと立ち寄れて、おしゃべりできるスペースがあると良い。区民に親しまれる区民文化センターになってほしい ・子どもたち(特にティーンエイジャー)がたくさんいい芸術に無料で触れられる場所になってほしい。幼児子育て世帯のもう一つ上の世代の親子にも居場所をつくってほしい
<p>こんな区民文化センターで活動したい(ハード)</p>	<p>ホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・300名程度でクラシックの演奏会でも対応できるよう音響重視 ・落ち着いたウッディ調のホール ・譜面台は無料貸出で30台以上必要 ・席は座りやすく、お年寄りが階段を転ばないように(お客が一番困るのは、暗い中、階段が急なことと自分の席番が分からないこと、それから冬場は特に服がかさばり、椅子が窮屈なこと) ・エレベーターは障害のある人にとって大切 ・舞台は奥行き・袖を広く ・舞台は間口15m、奥行き15mとすることで、時代と共に変化する複合的なジャンルの演出が可能 ・中規模ホールでありながらプロも、アマも満足できる特色ある演出が可能な中小劇場を目指す ・バトンは数多く ・お客様の椅子をゆったりするといった工夫を ・照明器具、音響機材は出来るだけ新しいものを ・都筑区ではダンスが盛んで、やっている人も大勢いるので、ステージの面積を広くした方が良いのではないか ・ホール座席の階段(傾斜)を上り下りしやすいように、手すりをつけてほしい ・客席は300席+車いす席、舞台は間口8間(14.4m)、奥行5間(9.0m)とし、プロも使える十分な舞台エリアを確保してほしい ・都筑の交通の便のよさを生かし、プロも満足できる小規模でも、高機能な舞台装置を整備。機材を持ち込むことの余裕を持った仕様に ・8Kのスーパーハイビジョンのパブリックビューイング出来る設備をホールに持たせてほしい(8Kの受信設備、8Kの高輝度プロジェクター、大型スクリーンが必要。研究・開発を手伝った経緯があるため、詳しい情報が必要であればボランティア対応可能) <p>【親子室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇場内奥には小さな子供たちがお母さんと一緒に見られる部屋は必ず必要

	<p>【楽屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さくてもトイレを備えつけてほしい ・できるだけゆったりとくつろげる空間を数部屋 ・畳の楽屋はあまり好まれない。足が伸ばせるから、お年寄りも椅子の方が楽 ・声を出さず防音のある個室がほしい（歌手や芝居をする人には欠かせない場所）
音楽ルーム (リハーサル室)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台近くに広めのリハーサルルームを ・音楽だけでなくバレエ、ダンスやヨガ、太極拳などの練習もできるように壁面鏡を設ける。鏡はカーテン等で塞ぐことも考慮 ・小ホール機能を兼ねられるように 15m×10m=150 m²、予備室（ピアノ室、イス、卓倉庫）がほしい ・「都筑の文化 夢スタジオ」の利用状況から、都筑では圧倒的に練習場が不足。少し大きなダンススタジオ機能（150～200 m²程度）、少人数の音楽スタジオなどニーズに合わせて
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいものから大きな作品まで多様なサイズの展示に対応 ・作品は見せ方の演出で価値が向上する。照明効果、展示場入り口の展示効果、展示作品とクラシック演奏や映像作品とのコラボ演出などの工夫ができることを期待 ・多彩な演出ができるギャラリー（照明装置、遮光、簡易舞台（仮設）、スクリーンと映写装置など）が新しい創造を生む ・10m×20m=200 m²、ワークショップ準備室（流し、倉庫）、電動移動仕切り壁がほしい
練習室	<ul style="list-style-type: none"> ・練習室は大小3つ程度あり、ピアノも置いてほしい ・音を派手に出せる稽古部屋がほしい
会議室(アトリエ、フリールーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・工作をする工房があるといい ・(練習室及び会議室について) 都筑区では多くの団体が活動していて、活動の場の確保に苦労している。多くの団体が使えるフリースペースがあると良い。部屋数も極力多く用意されていると良い
情報コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシックや落語などの CD の視聴コーナーをつくるか、貸出を行ってほしい
エントランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ロビーはどなたも使え、お茶など飲めるエントランスで、市民の写真や絵を飾れたら素晴らしいと思う ・ホワイエ、エントランスは明るい吹き抜け空間（大型展示も可能）とし、みなきたロード側からもよく見えるガラス張りにしてほしい。読書、談話スペースも確保
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレは女子を多く 6対4くらいにしてほしい ・視覚障害者はタッチパネルや手をかざすだけのスイッチを認識しづら

	<p>い。センサー式ではなく、ボタンなど触って分かるものにしてほしい。</p> <p>また、音声案内を取り入れるのも有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的トイレの中に小便器を設置してほしい。難しければ、男性用トイレにおいて、手すり付きの小便器を出入口の最も近くに設置してほしい（出入口から最も離れた奥側に設置してあることが多いが、出口に向かう途中で人にぶつかったり、個室に入ってしまったたり、トイレ内で迷うことがある） ・手荷物を置けるようにしてほしい
空間のつなぎ方 (動線)	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出入口はホールの近くに配置しホールへの搬出入が素早くできるように
施設全体 (外観)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールへの誘い＝非日常感・ワクワク感の演出（地下鉄からの視認性を高めたランドマークとなる“なにか”のある景観／みなきたウォーク高架下のモール化を促し、連動するミニショップ・プレゼンエリア／待ち合わせ、休憩を退屈させないコンテンツエリア）
施設全体 (オープンスペース)	<ul style="list-style-type: none"> ・半屋外ゾーンの設置＝周辺施設からの浸み出しを受け止める工夫（周辺施設から外へ出てみる働き掛けができる縁側の空間／みなきたウォークに“顔”を向けたゆとり空間／パブリックビューイング画面が地下鉄車内からもうかがい知れる中庭的な広場／広いアトリウム内に植物園＋カフェでオアシスを創り出す） ・屋外イベント、一般広場として日常も使えるオープンスペース（芝生）がほしい。近隣（北側にマンションが多い）への騒音を考慮、南側に向けて木製の屋外舞台もほしい。できれば、建物の屋上（緑化）もオープンスペースとして開放してほしい
施設全体 (カフェ)	<ul style="list-style-type: none"> ・少しお茶が飲める茶店があり、長めの椅子やテーブルがあるといい（お客が早めに来て困るのは楽に座る椅子がロビーにないこと）
施設全体 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かの記念館のように絵画や銅像に凝るのではなく、質素にシンプルにして、利用者がくつろげる空間づくりにこそお金をかけ、気を配ってほしい ・これまでの都筑区のタウンセンター地区のまちのづくり（広い道、マッシブな大規模商業施設）を踏襲するのではなく、より「ひと」に近づいた施設がこれからの時代求められていく ・ミニコンサートやクラフトショップなどに利用できるアルコープをレンタルスペースとして配置し、市民のプレゼンテーションに活用 ・中学生や高校生が落ち着いて学習できるスペースをつくってほしい（可能なら図書館の併設や、学習室・研修室・パソコンルーム・子ども専用図書スペースを設けるなど） ・障害者が地域とつながれる仕組み・視点を取り入れてほしい。視覚障害者の伝統的な職業として按摩マッサージ指圧・はり・灸があるが、就労は厳しい状況。区民への保健サービスの一環として、施設内で鍼灸マッサージを施術できると良い。多目的に使える部屋があれば、障害者団体

		<p>が手づくりのパンやお菓子などを販売することもできる。曜日によって使い方を变えても良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に避難場所として使えるようにしてほしい ・事務室は指定管理者と市民団体が交流できる空間を確保 ・団体交流室（相談室）がほしい ・区民文化センター前の地下鉄高架下はみなきたロードとのつながりをつくる貴重なスペース。まちの賑わいづくりにつながるスペースとする <p>【バリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内に、障害者スポーツ文化センター横浜ラポールにあるような点字ブロックもしくはエスコートゾーンをつける ・部屋の入り口はストッパーのかかる引戸にしてほしい ・各案内表示は見やすく大きめに反転色はわかりやすい表示にする ・エレベーター内にカメラをつけて、中の様子が分かるようにしておいてほしい。カメラがあれば、緊急時に手を振って知らせることができる <p>【アクセス、立地面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダウンタウンの回遊性＝人の流れとたまりを生み出す工夫（隣接する駐車場の移転／みなきたウォークの道路との交差部分の幅広横断歩道設置／横浜市歴史博物館、吾妻山方面の賑わい感創出のため、みなきたウォークとの舗装の一体化） ・渋滞解消・軽減のための工夫（南側道路の拡幅、搬出入車両・一般車両の進入は北側歴博通りからの一方向に絞る） ・隣接して横浜市歴史博物館、遺跡公園、都筑民家園などの文化施設があり、都市施設として駅前芝生広場、駅と歴史博物館を結ぶシンボルロード、センター北と南をつなぐみなきたロードがある。センター地区を有機的に活用することが、「都筑らしい文化」を生むことにつながる。都筑ブランドとしての「センター地区文化ゾーン」の位置づけ、育成を
--	--	--

こんな区民文化センターで活動したい（ソフト）	施設利用（貸館）	<ul style="list-style-type: none"> ・公平にホール、練習室を貸し出してほしい ・いかなるジャンルの方でも、都筑区の方を優先してほしい。この辺が判然としないと、都筑区の文化施設を真から愛することはできない ・舞台公演の前日は24時間利用可能にし、簡易宿泊施設を併設（複合施設側への要望もあり）。大型企画公演などに対応して1週間の利用を可能にするなど、運用面の柔軟性確保
	連携機能	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に「スポーツと文化」「食と文化」の融合も都筑らしい文化の創造につながると思う ・アウトリーチ活動は上から目線の活動ではなく、プロとアマ対等な立場で文化創造に寄与できるように（プロジェクトチームがコーディネータ役となる ・東京都市大学など地域の大学の持てる力（情報系、環境系）とのタイアップ（FM局の設置、放送媒体を運営できる人材育成を） ・センター地区に所在する民間企業、商業などと連携し、将来に続く都筑の文化を共有（単なる資金協賛から一緒に都筑の文化を創る） ・都筑にはまだ眠っている文化財、歴史がある。楽しく実感できる歴史や文化を再発見することで、古代から続く都筑郡の文化を生かした取り組みが、子どもたちにも地域に愛着をもたらす都筑にしかできない文化活動になる
	人材養成	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台技術者も積極的に育成。出演者だけでなく、裏方の人材も育成することで、安く借りだけの舞台ではなく、指定管理者と共に市民もホールを大切に使い続ける運営を目指す（アートNPOがこの部分も実施することも効果的） ・まだ、職種としては確立していないが、ギャラリーの演出専門家の育成も今後必要な人材となる
区民主体の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は専門家に教えてもらいながら、ゆくゆくは住民が主体となって運営することになっていくべき。都筑区の住民、都筑区のコミュニティを生かすことを考えれば、スタッフも住民に必要とされ、都筑区のために役に立っているのだと生きがいや実感が持てるのでは（地区のコミュニティと密接な関係を持っているスコットランドの「ダンディー・レップ・シアター」などは、客席が430席ぐらいで、人気があつて年間の観光客が何十万人と観に来ている） ・つなぎ役、プロデュース機能の受け皿となる公益性を担保された活動主体（たとえば、アートNPOなど）が組織できることで、若い世代も巻き込んだ都筑らしい展開が期待できる。任意団体、協会では参加団体の共益、共助的な色合いになり、若い世代の共感が得にくい。これからはNPOなど公益性と透明性が確保できる団体が好ましい。指定管理者と対等な立場で連携して活動できる団体が誕生することを期待 	

	その他	<ul style="list-style-type: none">・ 指定管理者制度の導入により、劇場付きの熟練したスタッフがどんどん減っていると思う。息の合ったスタッフがいなくては、舞台に立つものが、安心して表現できない・ 文化ホール完成までの期間に、公共施設を上手に使いこなすソフト集団（市民参加のアートプロジェクトチーム）を官民合同で育成できることが理想。将来アートNPOとして独立、区民文化ホールの指定管理者とよりよい連携ができる集団を目指すことが、将来の都筑らしい文化の拠点となる。5年間の期限付きで人材育成という視点で行政からの支援をお願いしたい・ 指定管理者の選定や運営委託、設計・施工を行う業者の選定においては、透明性を確保すること
--	-----	---

横浜市都筑区における区民文化センター基本構想

答申（案）

平成 29 年●月

横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会

基本構想検討にあたって

このたび検討が行われている都筑区の区民文化センターが整備される場所は、いわば都筑区の中心に位置し、港北ニュータウン開発計画の中で、当初から文化施設用地として位置付けられていましたが、長年にわたり進捗しませんでした。そのため、暫定施設として、区民による自主的な活動「都筑の文化 夢スタジオ」が運営されるなど、文化施設整備への期待は非常に高まっていました。

都筑区は、平成6年に港北区と緑区からの分区により新しく誕生した区です。都筑区の約半分の面積が港北ニュータウン開発エリアで、これにより多くの住民が新たに暮らし始めました。南部を中心に広がる農地には、古くから葉物を中心とする野菜の栽培が盛んな地域で、都筑区が誕生する前から、この地の文化を育み、現在の都筑区のまちづくり・ふるさとづくりを牽引してきました。港北ニュータウン建設事業は「乱開発の防止」「都市と農業の調和」「市民参加のまちづくり」「多機能複合都市」の4つを理念として進められた点に特徴がありますが、この理念を継承・発展させながら、農地や工業地、かつてから集落のあった地域、残されている樹林地を含め、区全体のまちづくりを区民と共に進めてきました。

都筑区の「都筑」の名称には「広く地域の人に定着している由緒ある地名を将来に向けて大切にする」「奈良時代から続く歴史的な地名にちなみ、これからのまちづくりが新しい都を筑(築)く」という意味が込められています。この名のとおり、古くから続く伝統的な文化そして新たな住民による活発な文化が融合し、都筑区ならではの新たな文化の発信が生まれつつあります。

都筑区は、多様な文化を受け入れる柔軟な姿勢のあるまちです。そして、地域・企業・行政とあらゆる主体が連携し、つながりながらものごとを進めていく柔軟性があります。

様々なひと・もの・こと がつながることで、新たなものを生み出していく風土が都筑区にはあります。

このように、都筑区のつくられた背景、風土、区民性など、側面から読み取れる都筑区の特徴を踏まえながら、実際に行われることになる様々な活動をイメージし、都筑区の区民文化センターの基本構想をまとめていきました。都筑区はもともと柔軟で多様性を受け入れるまちであり、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として、ますます発展していくことでしょう。この施設がこのまちのシンボルとなるとともに、多くの人々を受け入れ、区民や区民の活動のさらなるつながり、都筑に根差した個性ある文化の創造へとつながっていくことを願っています。

平成29年●月

横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会

目次

I 背景	1
1 横浜市の区民文化センターとは	1
2 横浜市の区民文化センター整備の方針	1
3 整備予定地の概要	1
4 なぜ、区民文化センターが必要か	2
【参考】	3
参考1 都筑区の概要と特性	3
参考2 区文化施設の状況及び文化芸術への意向	6
II 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会について	10
III 横浜市都筑区における区民文化センターの基本構想について	10
1 都筑区の区民文化センターのミッション(目指すこと)	10
2 ミッションの実現に向けて重要な方針	11
3 区民文化センターの施設運営・管理面での配慮事項	12
4 区民文化センターの施設構成	14
5 その他、敷地・建物全体において配慮いただきたい事項	18
【参考】	23
区民文化センターを含む業務・文化ゾーンに関わる連携・留意点	23
IV 参考資料	24
1 区民文化センターの基本的役割、文化事業、標準的な機能	24
2 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 委員名簿	26
3 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 検討経緯	27
4 委員会開催中に寄せられたご意見、アイデア等について	28
【別紙1】 第1回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録	
【別紙2】 第2回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録	
【別紙3】 委員会開催中に寄せられたアイデア等について	

I 背景

1 横浜市の区民文化センターとは

- ・「地域に根差した個性ある文化の創造に寄与する」ことを目的に設置している文化施設
- ・区民に身近な地域の文化活動拠点として、区民の文化芸術活動やまちづくりに貢献するものであり、区民文化センターの基本的な役割（24 ページ参照）に、各区の特性に応じた役割を追加することとされています。

2 横浜市の区民文化センター整備の方針

地域文化芸術活動の拠点となる区民文化センターについては、未整備区を対象として検討を進め、再開発等のまちづくりの機会に合わせて、区内にある文化施設や公会堂等の公共施設の機能を踏まえ、区の特性に合わせて必要な機能を整備します。（**横浜市中期4カ年計画 2014 - 2017**）

・18区の区民文化センターの整備状況

整備済（10区）：青葉、緑、鶴見、旭、神奈川、泉、港南、戸塚、磯子、栄

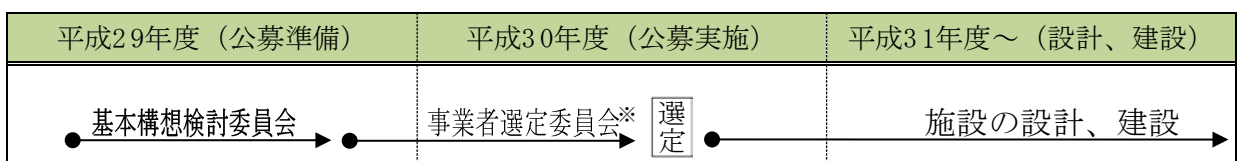
整備中（2区）：瀬谷（平成26年度基本構想検討）、港北（平成27年度基本構想検討）

未整備（6区）：都筑、保土ケ谷、西、中、南、金沢

- ・都筑区では、中川中央一丁目9番1、2の土地活用事業の中で整備を予定

3 整備予定地の概要

- ・整備予定地については、区民から早期の文化施設建設が望まれており、文化施設の整備に向けた検討が進められてきました。
- ・平成28年度に実施した民間事業者へのサウンディング型市場調査では、区民文化センター整備を条件とした土地売却等による土地利用について、複数の事業者から参加意向が確認できたうえ、早期事業化を望む声も聞かれたため、平成30年度の活用事業者公募の実施を目指すとされています。



※事業者選定委員会の設置について定める「横浜市区民文化センター等整備予定地活用事業者選定委員会条例」は、平成29年第2回市会定例会で議決されています。

- ・整備予定地には、現在、暫定施設として「都筑の文化 夢スタジオ」等が立地し、南側を主要地方道・横浜生田線、西側を中山北山田線、東側を市営地下鉄（ブルーライン、グリーンライン）が走っています。地下鉄の高架下には、センター北駅からセンター南駅まで結ぶ「みなきたウォーク」が通っており、駅や幹線道路からのアプローチも良好な位置を占めています。また、地下鉄の東隣には横浜市歴史博物館が立地し、地区計画では一体で「業務・文化地区」と位置付けられています。

(案)



センター北駅から歩くと右手に整備予定地が見え(左、中央)、夢スタジオから地下鉄高架や歴史博物館が見える(右)

- ・都市計画による制限等は次のとおり。

用途地域：商業地域

建ぺい率／容積率：80％／400％

高度地区：第7種高度地区（最高高さ 31m）

防火・準防火地域：防火地域

地区計画：港北NTタウンセンター北地区地区計画

→土地利用の方針：業務・文化地区

（文化機能等を充実させるため、業務及び文化施設等の立地を図る）

→建築物の用途の制限：次に掲げる建築物は建築してはならない。

1. 住宅
2. 共同住宅、寄宿舎又は下宿
3. 個室付浴場業に係る公衆浴場その他これに類する建築基準法施行令（昭和25年政令338号）第130条の9の2で定めるもの

4 なぜ、区民文化センターが必要か

「都筑」の歴史は古くからありますが、「区」としての歴史はまだ浅く、今後も時を積み重ね、歴史を築いていくこととなります。今ある活力を持続し、住み続けたい区であり続けるためには、この地に暮らす区民が、まちに関わり、関心をもって、地域の中で過ごすことができるかということが大きく関係しています。区民が自ら行動することで、地域に根差した個性ある文化が創造され、自分たちのまちが個性ある存在となっていくものです。年齢や障害の有無などにかかわらず、誰もが参加ができ、参加することで自身の新たな一面を知り、可能性を広げられる「文化活動」ができているかが、都筑区が区民にとって「愛着あるまち、誇れるまち」となり、心豊かで自分らしく生きる区民を増やすことにつながるものと考えています。

そのため、区民の自由な文化・創造活動についての動機づけ、場や機会の提供などを行い、文化的な生活環境づくりを推し進めていくための中心的な施設として「**区民文化センター**」が必要です。

区民自らが地域で文化活動を行うことで、自分たちのまちを手に入れるため。

それは・・・

自ら地域に根差した個性ある文化をつくり、自分たちのまちが個性ある存在となること

年齢や障害の有無などにかかわらず誰でも参加し、自身の新たな一面を知り可能性を広げられる文化活動すること

愛着あるまち、誇れるまち

心豊かで自分らしく生きる区民

区民文化センターは、区民の自由な文化・創造活動についての動機づけ、場や機会の提供などを行い、文化的な生活環境づくりを推し進めていきます。

【参考】

参考1 都筑区の概要と特性

① 都筑区の位置や人口動向

- ・市の北端に位置し、鉄道網（市営地下鉄ブルーライン、グリーンライン）、幹線道路（第三京浜、川崎町田線、高速横浜環状北西線（平成32年度までに完成予定）等）を通して、横浜都心や副都心（新横浜駅）、東京都心等へのアクセスに恵まれている。
- ・都筑区は、平成6年、港北区と緑区の分割により新しく誕生した区であるが、その半分は港北ニュータウンとして整備されている。そのほかは、工場や研究開発施設等の産業地、農業専用地区、里山保全の公園・緑地、古くから続く集落地域など、多様な都市環境を抱えた区域である。
- ・横浜市の人口は平成31年（2019年）をピークに減少が予測されている。都筑区の現在人口は分区分時の約10万人からほぼ倍増し約21万人であり、今後も20年間で約5万人の増加が予測されている。

図1 都筑区の横浜市での位置

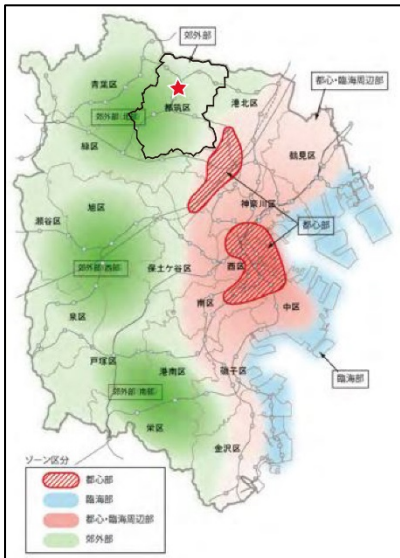


図2 幹線的な鉄道・道路の整備動向

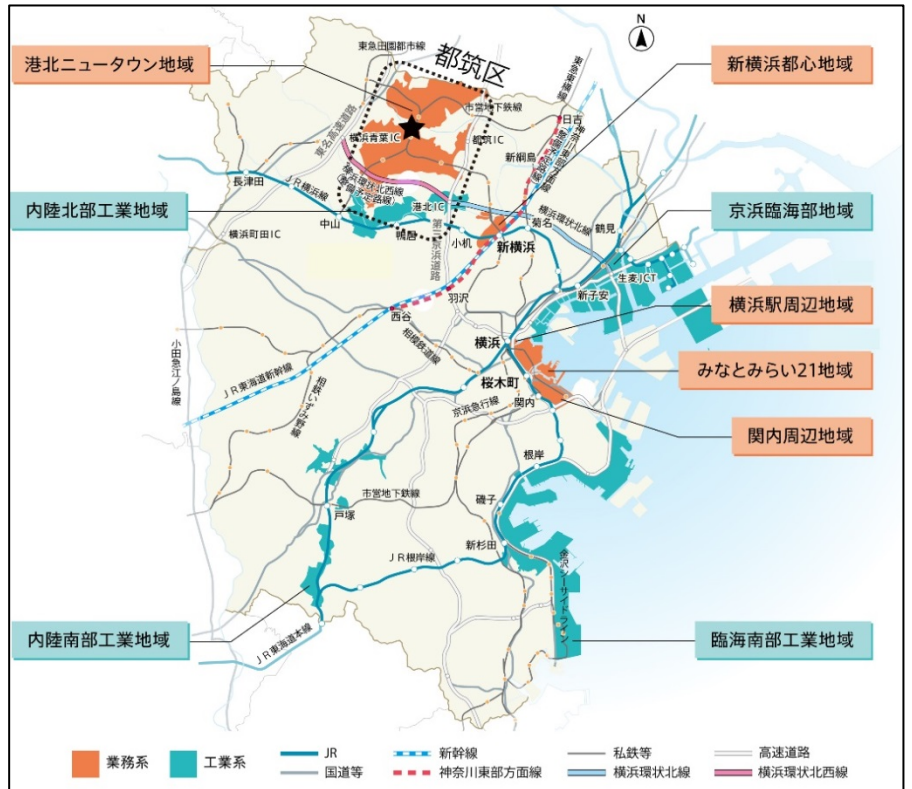
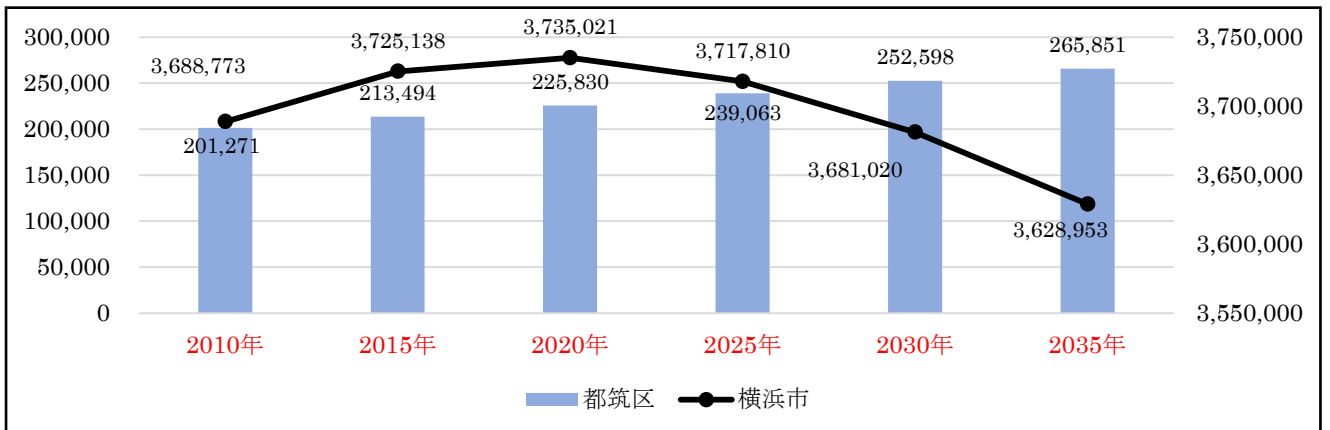


図3 都筑区及び横浜市の将来人口推計（2010年を基準時点として政策局が推計）



② 交通・土地利用

- ・区内の鉄道網は、東急田園都市線・あざみ野駅と横浜都心・新横浜駅を結ぶ市営地下鉄ブルーラインに加え、JR横浜線・中山駅と東急東横線・日吉駅を結ぶ市営地下鉄グリーンラインが平成20年に開通し、横浜都心や周辺都市とつながり交通利便性は飛躍的に向上した。
- ・都筑区は、計画的な土地利用の港北ニュータウンが区域の約半分を占めており、都市的土地利用は約75%に及ぶ。残りのうち約20%近くを農地・樹林地が占めるが、区南部に集中する農業専用地区、中央の早淵川沿いの市街化調整区域からなる。

図4 一日当たりの鉄道乗車人員（出典：平成26年度横浜市統計書）

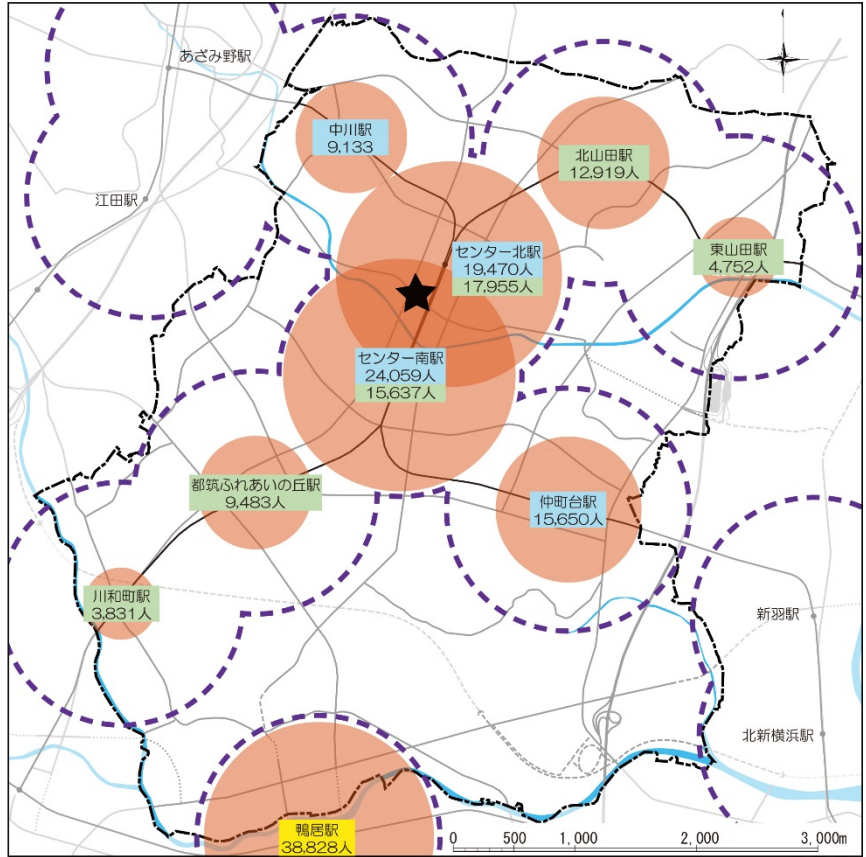
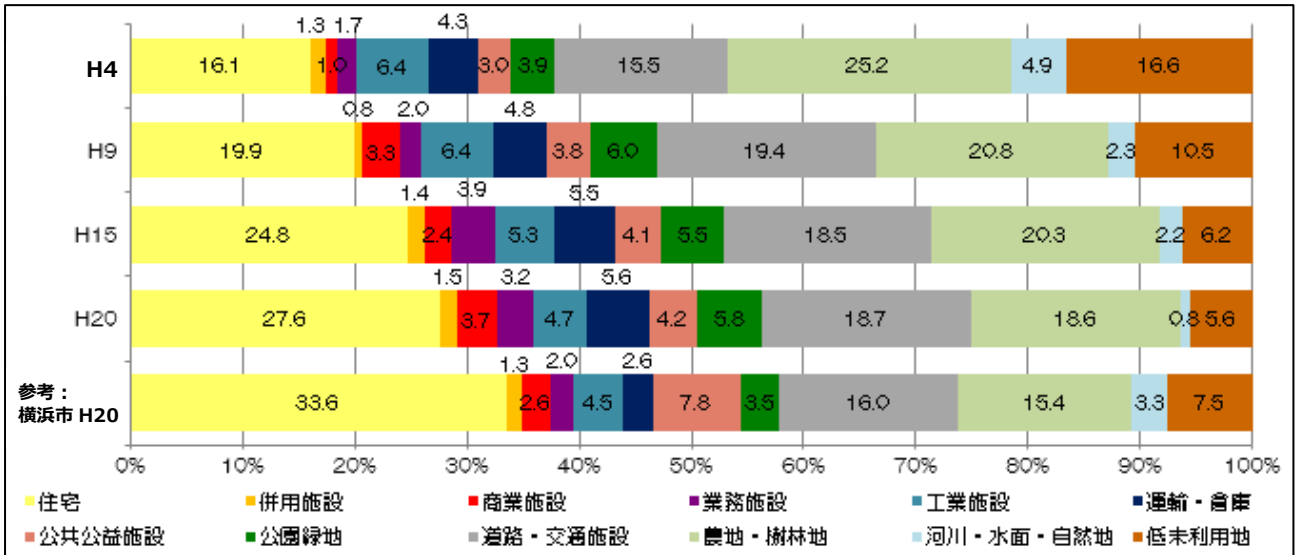


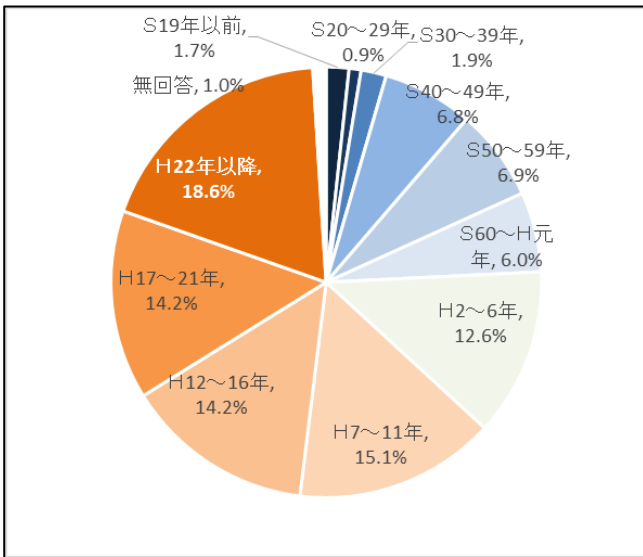
図5 都筑区の土地利用の推移（出典：平成21・22年度横浜市都市計画基礎調査）



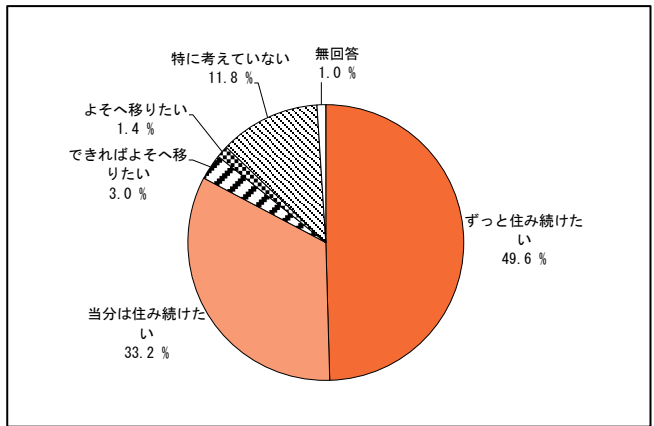
③ 区民特性（平成 27 年度都筑区区民意識調査報告書）

- ・居住開始時期の比率を見ると、平成 2 年以降ここ約 25 年に移り住んだ区民が 75%を占め、平成 22 年以降の区民比率は約 19%と最も多いものの、5 年間ずつの比率は 12～15%程と比率が似通っており、多世代のバランスがとれた住民構成が大きな特徴である。
- ・居住意向を見ると、ずっと住み続けたいが約 50%、当分は住み続けたいを合わせると約 83%にのぼり、区民の居住意向は市内でも高い傾向にある。
- ・人口ピラミッドを見ると、都筑区は全市の年齢構成と比較して若い世代の層が厚くなっており、若年層が多く住んでいることも特徴の一つである。

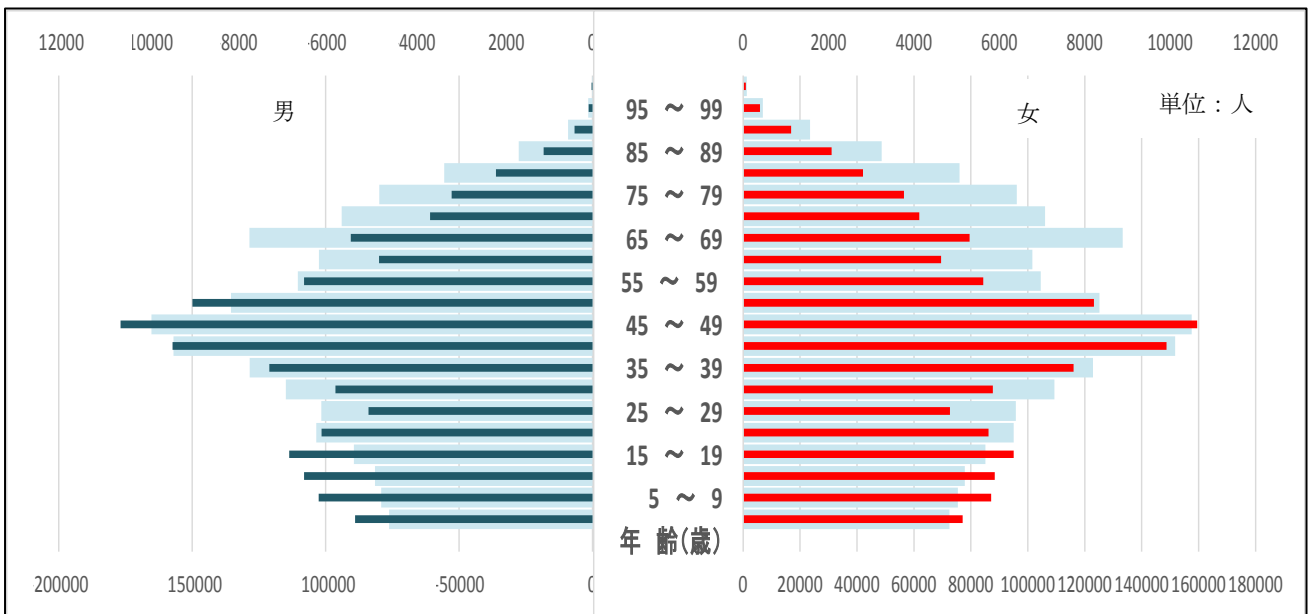
グラフ 1 居住開始時期



グラフ 2 居住意向



グラフ 3 都筑区の人口ピラミッド（平成 29 年 1 月 1 日現在 男：106,021 人 女：106,149 人）



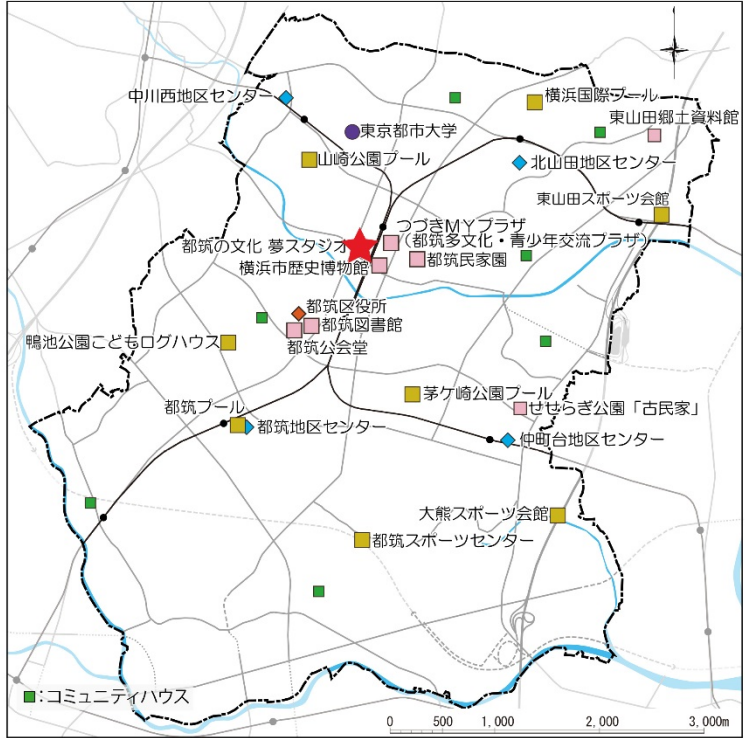
(注) 都筑区の人口数は濃い緑と赤（上端の数字）、横浜市の人口数は薄い水色（下端の数字）で示している

参考2 区文化施設の状況及び文化芸術への意向

① 区の文化施設の現状と特徴

- ・都筑区の中核的な文化施設は、センター南・北地区に集積している（都筑公会堂、都筑図書館、横浜市歴史博物館、都筑の文化 夢スタジオ、つづきMYプラザ、都筑民家園等）。
- ・そのほかには、地区センター（都筑、仲町台、北山田、中川西）、こどもログハウス（鴨池公園）、スポーツ施設（都筑スポーツセンター、東山田スポーツ会館、大熊スポーツ会館）、プール（横浜国際、都筑、山崎公園、茅ヶ崎公園）などがある。

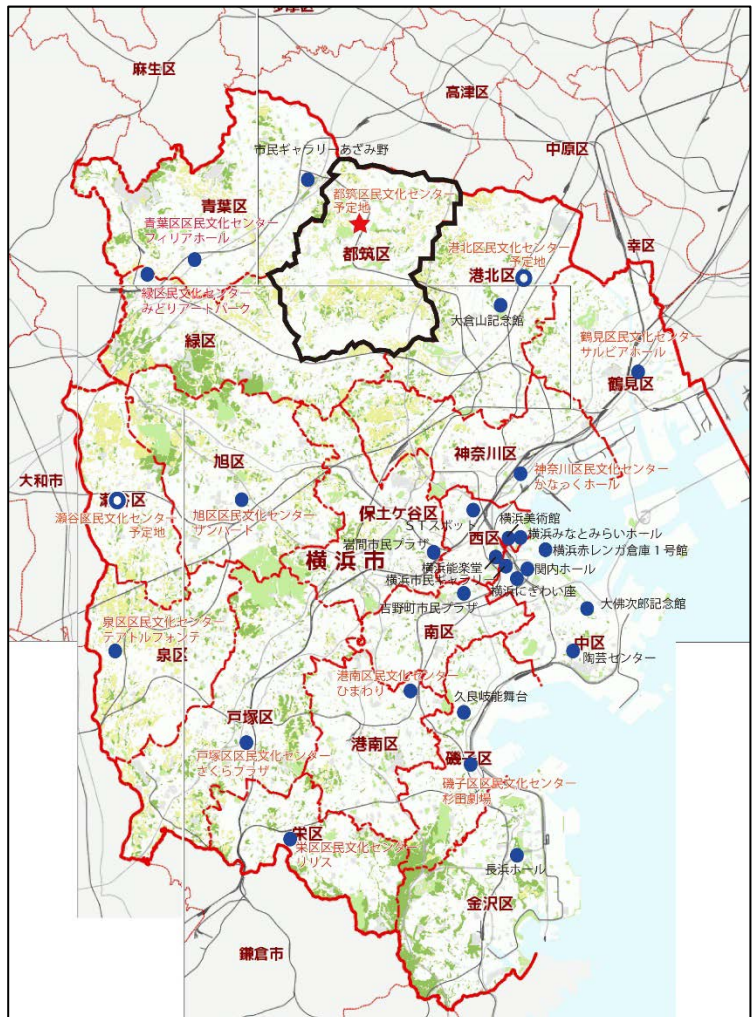
図6 都筑区の文化施設分布



② 市内文化施設の分布状況

- ・大規模な文化施設は都心部に集積している。
- ・隣接区には、青葉区に区民文化センター・市民ギャラリーあざみ野が、緑区に区民文化センターが、港北区に大倉山記念館・区民文化センター（整備中）がある。

図7 横浜市の文化施設分布

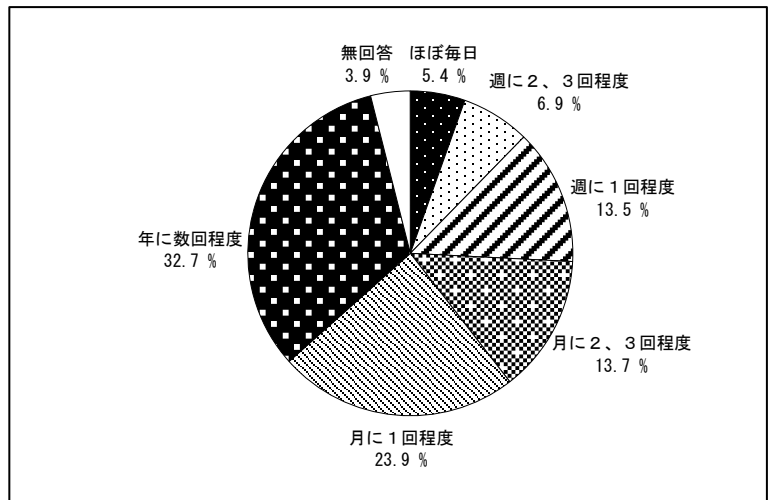


③ 文化芸術活動等への意向把握結果（概要）

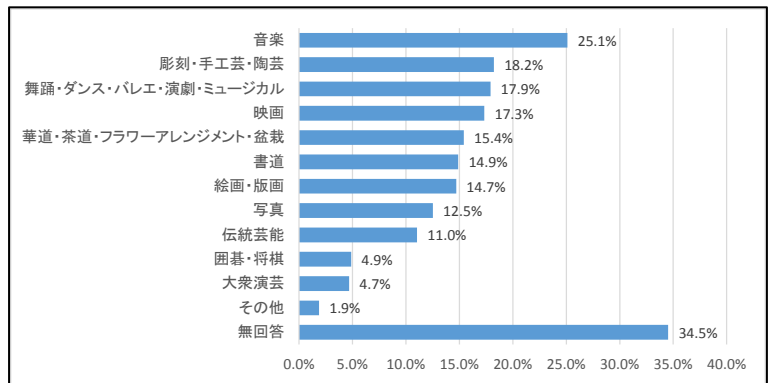
《平成 27 年度都筑区区民意識調査報告書》

グラフ 4 文化活動の頻度

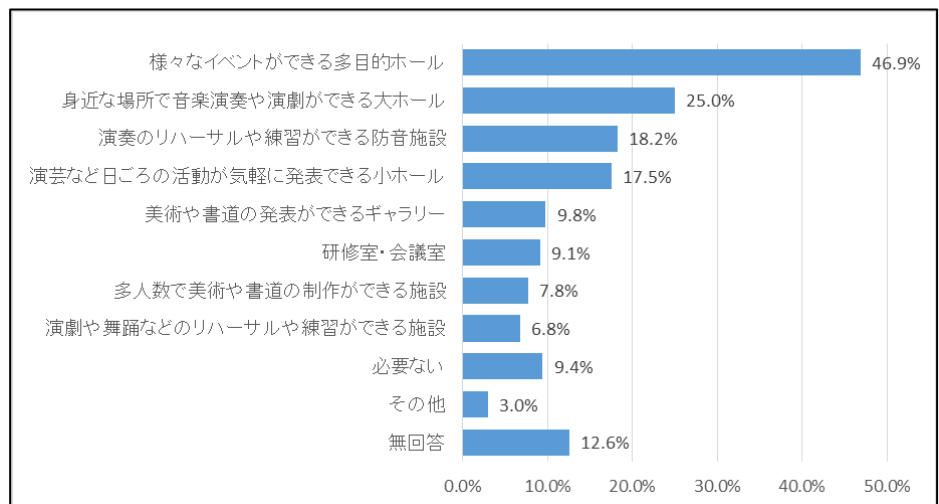
- ・都筑区の文化活動は、ほぼ毎日から月に一回程度までを合計すると、約 63% になり、年に数回も合わせると約 96% にのぼり、非常に盛んである。
- ・日頃行っている文化活動・鑑賞としては、映画と音楽が突出しているが、ダンス・演劇・ミュージカル、絵画・版画などが盛んである。
- ・将来的に行ってみたい文化活動・鑑賞は、音楽が高く、次いで、彫刻・手工芸・陶芸、ダンス・演劇・ミュージカル、映画となっている。
- ・文化活動をするために必要な施設としては、多目的ホールを望む声が非常に多く、次いで、音楽・演劇の大ホール、リハーサルや練習の防音施設、気軽に発表できる小ホールとなっている。



グラフ 5 将来行いたい文化活動・鑑賞



グラフ 6 文化活動をするために必要な施設



《平成 27 年度都筑区文化動向調査報告書》

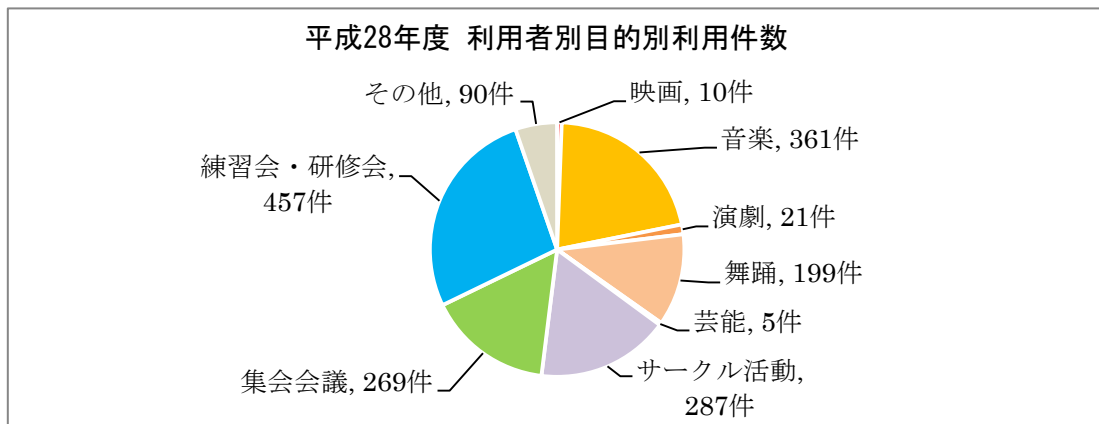
- ・17 の文化活動団体へのヒアリングをした結果を見ると、公会堂の音響設備が不十分、練習や打合せ・交流等の施設不足、どこも稼働率が高く予約がしにくい、若者が利用・交流できる場や機会の不足などの声が目立つ。

④ 「都筑公会堂」「都筑の文化 夢スタジオ」「センター南駅前すきっぷ広場」の利用状況

≪都筑公会堂の利用状況≫

平成 28 年度の都筑公会堂の稼働率（諸室稼働率の平均値）は 18 区中で 2 番目に高く、80.1%となっている（市平均 67.9%）。また、講堂（ホール）の稼働率は 18 区中で最も高く 85.4%（市平均 64.0%）、リハーサル室の稼働率も 18 区中で最も高い 90.5%（市平均 70.4%）となっている。※いずれもコマ割り稼働率の数値

全館の利用者別目的別利用件数としては、音楽に加えて、演劇・舞踊の利用が多くなっている（演劇・舞踊の利用数 220 件は、音楽の利用数 361 件の 61%に上る）。



参考) 近隣の公会堂の目的別利用件数の状況

- ・港北公会堂：音楽の利用数 129 件、演劇・舞踊の利用数 40 件（音楽利用数の 31%）
- ・緑公会堂：音楽の利用数 100 件、演劇・舞踊の利用数 31 件（音楽利用数の 31%）
- ・青葉公会堂：音楽の利用数 249 件※、演劇・舞踊の利用数 126 件（音楽利用数の 51%）

※青葉区には、音楽専門ホールを備える青葉区民文化センターフィリアホールがある。

○平成 28 年度 講堂(ホール)稼働率 ※定員 604 人、舞台面積約 135 m² (間口 15m×奥行 9m程度)

日割り稼働率	98.6%	利用可能日数 347 日に対して、利用日数 341 日
コマ割り稼働率	85.4%	利用可能コマ数 694 コマに対して、利用コマ数 591 コマ

参考) 市平均 日割り稼働率 81.6%
コマ割り稼働率 64.0%

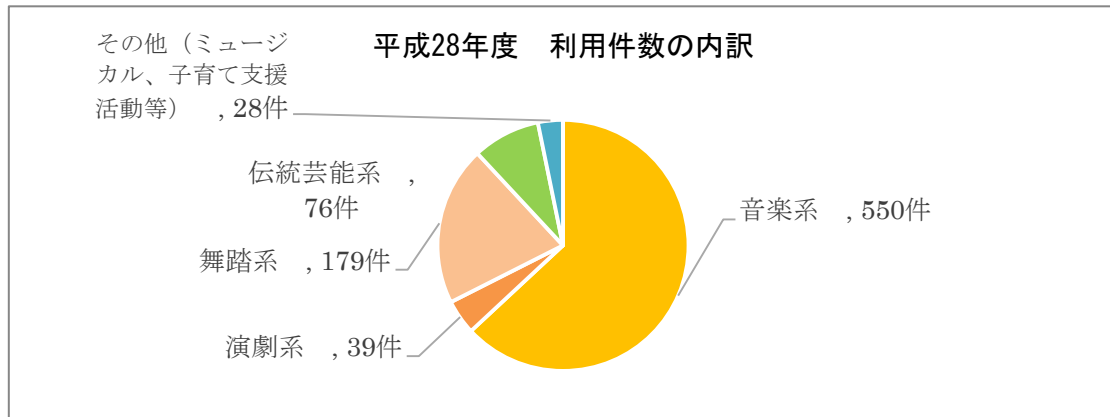
○平成 28 年度 リハーサル室稼働率 ※約 73 m²、一面鏡張り

コマ割り稼働率	90.5%	利用可能コマ数 1038 コマに対して、利用コマ数 939 コマ
---------	--------------	----------------------------------

参考) 市平均 コマ割り稼働率 70.4%

《都筑の文化 夢スタジオの利用状況》

平成 28 年度は、日割り稼働率 100%、コマ割り稼働率 95%と大変高くなっている。音楽に加えて、演劇・舞踊の利用が多くなっている。



○平成 28 年度 **スタジオ稼働率** ※約 77 m²、一面鏡張り

日割り稼働率	100%	利用可能日数 301 日
コマ割り稼働率	95%	利用可能コマ数 897 コマに対して、利用コマ数 852 コマ

参考) 都筑の文化 夢スタジオについて

都筑区の区民文化センター整備予定地に立地する、暫定施設「都筑の文化 夢スタジオ」は、区内で文化芸術活動や文化芸術の振興に取り組む区民で構成する管理運営委員会が、市民の多様なジャンルの文化芸術活動の交流促進と活性化を図ることを目的に、区民主体の「都筑の文化 夢スタジオ」運営に関する事業提案を行い、協働事業として都筑区と管理運営に関する事業協定を締結し、都筑区から施設の無償提供を受け、管理運営経費を自ら確保したうえで、管理運営や自主企画活動を行っている。

平成 20 年 12 月から「都筑の文化 夢スタジオ」は多くの区民の文化芸術活動の場として利用され、高い稼働率を誇ってきたが、この「横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会」において区民文化センターの整備に向けた議論が進むとともに、整備予定地の土地の活用が進展してきたことを受けて、暫定施設としての役割を終えたと判断し、平成 30 年 3 月 31 日をもって閉鎖となる。

《センター南駅前すきっぷ広場の利用状況》

センター南駅前のすきっぷ広場には、ステージのように使える平面の屋外スペース (15m×15m) があり、その前面には、階段状の客席としても使えるエリアが広がっている。

このすきっぷ広場は、「都筑区民まつり」や「つづきウォーク&フェスタ」といったイベントにおいて、音楽やダンスなどを発表するメインステージとして使われている。また、年間を通じて、区内文化活動団体等による発表・イベント (クラシックコンサート、ロックフェスティバルなど) が多数開催されている。区内中学校・高等学校の吹奏楽部の演奏、大人数でのダンス披露など、広さが必要なパフォーマンスが可能な一方、雨天時は中止せざるを得ず、環境に左右される一面がある。



平成 28 年 11 月 第 22 回都筑区民まつりでのステージパフォーマンスの様子(左から、吹奏楽演奏、ダンス、太鼓演奏)

Ⅱ 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会について

都筑区において区民文化センターを整備するにあたり、基本構想に関する事項を調査審議するため、「横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会条例（平成 29 年 6 月 15 日条例第 22 号）」に基づき、市長の附属機関として「横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会（以下、「委員会」という。）」が設置されました。

地域代表や区民団体代表、文化関係有識者等で構成する委員会（26 ページ参照）では、都筑区の区民文化センターが区民にとって身近な文化活動拠点となり、都筑に根差した個性ある文化の創造に寄与するよう、基本構想（コンセプトや求められる機能、施設構成、施設運営の方向性など）について、計 4 回にわたって議論し（27 ページ参照）、市長宛の答申としてまとめました。

Ⅲ 横浜市都筑区における区民文化センターの基本構想について

横浜市が定める区民文化センターの役割や区役所が独自に行ったアイデアミーティングで得られた様々なご意見などを踏まえて、都筑区の区民文化センターは「区民が中心となって文化を生み出し、創り上げていく喜び、つなげていく喜び」を大切に、あらゆる人が集える場所になるべきとの考えから、次の内容を施設の「基本構想」として提言します。

今後、「区民」「事業者」「行政」が、それぞれの役割を発揮するとともに連携しながら、答申の実現、また、それ以上の施設となるよう推進されることを期待します。

1 都筑区の区民文化センターのミッション(目指すこと)

都筑に根差した個性ある文化の創造

(1) 文化に触れる機会を、一人でも多くの区民に提供します

すべての区民を対象に働きかけていきます。文化に触れる場や機会を多様なかたちで提供し、区民の社会参加、そして、文化的コモンズの形成につなげていきます。

(2) 地域独自の文化や活動、新しい価値や表現を生み出すきっかけをつくります

都筑区の文化活動拠点として、様々な情報を収集・発信し、様々な地域資源…ひと・もの・ことをつなげていくことで、都筑に根差した独自の文化や活動、新しい価値や表現を生み出すきっかけをつくります。

(3) 心の充実が得られるまちになるよう、区民と一緒に取り組みます

区民が自由な文化・創作活動を行えるように、また、自分らしく文化的な生活ができるように、文化芸術の専門家として区民と共に考え、取り組みます。

(4) 都筑の新たな魅力をつくります

今ある都筑の魅力を継承・発展させながら、上記（1）～（3）に取り組む続けることで、都筑の新たな魅力につなげ、未来の魅力ある都筑を創造していきます。

2 ミッションの実現に向けて重要な方針

多様性に対応できる、柔軟性を大切にした施設

【基本的な考え方】

〔文化事業の提供・展開〕

区民文化センターに期待される6つの基本的役割を担う、区民に最も身近な「地域の文化芸術活動の拠点」として、区民に多様な文化事業を提供し、展開していきます。

< 6つの基本的役割 >



文化事業の実施

施設利用／情報発信／鑑賞事業／普及事業／次世代育成事業／支援機能／連携機能／人材育成／調査研究

3 区民文化センターの施設運営・管理面での配慮事項

【基本的な考え方】

- ・ 区民の個性を尊重し、区民の多様で、多彩な活動に呼応し、区民の誰もが利用しやすい運営・管理を行います。
- ・ 施設の運営には 指定管理者制度を導入 し、専門性・公平性を確保します。また、運営には、区民が主体的にかかわれる仕組みを取り入れます。

【基本的な考え方】を前提とした、運営・管理体制をつくるための考え方をまとめました。

(1) 区民主体の仕組みづくり

- ・ 区民の視点に立った、できる限り区民の自発性を尊重し、利用しやすい運営方法を構築します（例えば、区民提案型の自主企画事業を実施する等）。
- ・ 活動をしている、していないにかかわらず、区民、様々な活動をしている団体がつながれる仕組みを制度として取り込んだ運営を行います（例えば、区民による事業の企画・実施、コミュニティ活動スペースを設ける等）。
- ・ 誰もが鑑賞できる環境を確保します（例えば、聴覚障害者のための鑑賞会を開催する等）。
- ・ 指定管理者と共に区民が施設を大切に使い続ける運営を目指します。

(2) センター機能としての役割の発揮

- ・ 区民、区内の社会資源の情報に敏感になり、文化情報だけではなく、地域の様々な情報収集に努めるとともに、区民へ広く情報提供を行い、情報を循環していきます。
- ・ 良質で正しい生の情報が常に集約されている施設となるよう、日常から他施設や団体と積極的に関わり、区民ニーズを汲み取りながら、連携構築を大事にした運営を行います（例えば、町会の定例会や学校関係の集まりなどに出席する等）。
- ・ 「地域に根差した個性ある文化の創造」のために、「みなきたウォーク」「歴史博物館」「都筑民家園」を含む文化ゾーンの形成と、隣接する「早淵川」「緑道」「商業施設」といった周辺環境を意識するとともに、区内にある図書館や区民活動センターといった公共施設やつづきMYプラザ（都筑多文化・青少年交流プラザ）、ポポラ（都筑区子育て支援センター）、地区センター、地域ケアプラザなどの区民利用施設とのつながりを大切に、連携・協働した運営を行います。
- ・ 子ども（親子）や高齢者など、多世代の方が文化に触れることのできる機会を提供し、多くの方に向けて「区民文化センター」を発信していきます。

(3) 専門人材の配置と人材育成

- ・ 指定管理者制度の導入を前提とし、多彩な分野の事業展開、特殊な設備の管理運営、高い専門性を発揮した施設運営を行います。
- ・ 区民から求められているニーズや都筑区の特徴や社会的な課題などを踏まえた、区民と連携した自主企画事業を立案し展開できる専門性を備えているとともに、区民が取り組みたい文化活動に対して適切な相談・アドバイス、将来に向けた技術的なスキルアップへの支援を行います（例えば、舞台技術ワークショップを開催する等）。

(4) 安心・安全の確保

- ・来館者・利用者・スタッフが安心して安全に施設の利用や運営を行えるよう、法令順守はもちろん、防災・防犯・安全・衛生面などへの配慮やルールづくりなどを適切に行います。

(5) 公共施設としての役割の発揮

- ・すべての区民を優しく受け入れる施設となります。
- ・区民への公平な施設提供を行います。
- ・文化活動に関わりのある方もない方も、心地よく過ごせる施設を目指します。
- ・震災などいざというときには、地域の状況を踏まえた柔軟な対応をします。

4 区民文化センターの施設構成

【基本的な考え方】

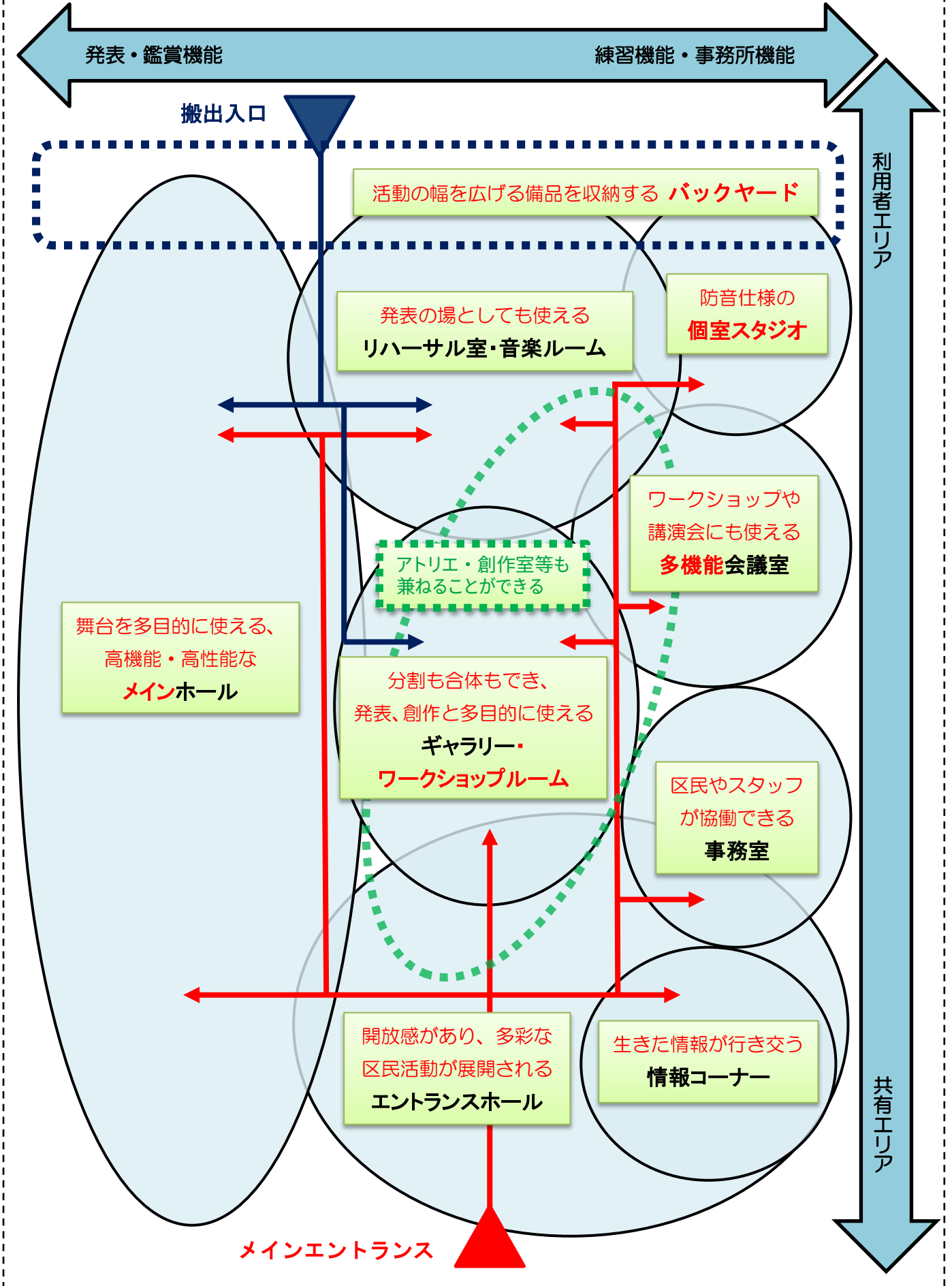
- ・ 区民の多様で、多彩な活動に対応できるよう、柔軟性のある施設の活用ができる仕様とします。
- ・ 子どもを含むすべての利用者が安心、安全かつ快適に利用できるよう、バリアフリー化、利便性、安全性、防災性（避難誘導の容易さなど）に配慮するとともに、ユニバーサルデザインの視点、多言語による表示を取り入れます。
- ・ 周辺文化施設の状況や、区内におけるこれまでの文化芸術活動の状況（音楽に加えてダンス・演劇等の活動が盛んであり、センター南駅前すきっぷ広場の屋外ステージにおいても文化活動団体等による発表・イベントが多数行われていることなど）を踏まえて、客席数に対して広く、奥行きのある舞台を確保することを、都筑区の区民文化センターの特徴とします。

（１）施設の設計理念

【基本的な考え方】を前提とし、アイデアミーティングなどで出されたアイデアなどを参考にし、区民にとって使いやすい機能やレイアウトに配慮した、柔軟性のある施設構成を可能とするための考え方をまとめました。

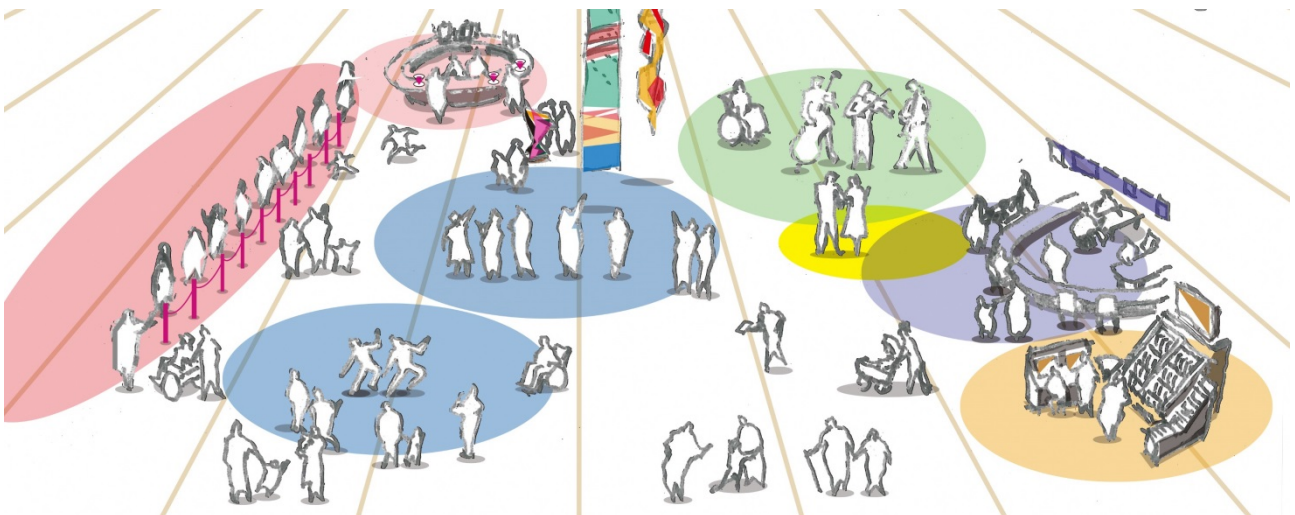
- ・ 文化活動の場として必要な機能を備えた専門的な施設とします。
- ・ 将来のニーズに対しても対応できるよう、可変性と柔軟性のある施設とします。
- ・ 区民の多様で、多彩な活動に対応するために、各諸室が相互に補完しあい、場合によってはその機能を拡張できる諸室とします。
- ・ 「ホール」「リハーサル室・音楽ルーム」「ギャラリー」は専門性の高い仕様とする一方で、「リハーサル室・音楽ルーム」「ギャラリー」「会議室」などは音楽、ダンス、展示、映像発表など多目的な用途で使用できるよう設備面で工夫を行います。
- ・ エントランスホール（オープンスペース）は、より開放的に、外とつながりやすい空間づくりを行い、すべての区民を優しく受け入れるスペースとします。
- ・ 「みなきたウォーク」「歴史博物館」「都筑民家園」などとの連携や、隣接する「早淵川」「緑道」「商業施設」といった周辺の環境を意識し、より開放的に、外とつながりやすい空間づくりを行い、すべての区民を優しく受け入れるスペースとします。

【都筑区の区民文化センターの機能構成 関係模式図】



参考：諸室で行われる活動のイメージ

- ・ **開放感があり、多彩な区民活動が展開されるエントランスホール（生きた情報が行き交う情報コーナーを含む）**
 - ・一人でも家族連れでも気軽に立ち寄り楽しむことができ、人や文化との出会い・交流も期待できる。
 - ・アイデア次第で様々な使い方ができ（例えば、障害者地域作業所等による製品販売、近隣の歴史博物館や図書館と連携した企画、ミニコンサートなど）、立ち寄るたびに様々なグループが企画を展開している。
 - ・区民の活動の場としても使用できる。
- ・ **分割も合体もでき、発表、創作と多目的に使えるギャラリー・ワークショップルーム**
 - ・大規模、立体、映像など様々な展示ができ、併せてワークショップもできる。
 - ・エントランスとつなげて広い空間での利用もでき、分割しての利用もできる。
- ・ **舞台を多目的に使える、高機能・高性能なメインホール**
 - ・オーケストラや学校の吹奏楽部の演奏、大人数でのダンスや演劇、ミュージカル等の利用を想定する。
 - ・幅広い演出ができ、演じる側も、鑑賞側も満足できる専門性を備える。
 - ・センター南駅前すきっぷ広場の屋外ステージでのイベント（クラシックコンサート、ロックフェスティバルなど）と同様なイベントが可能である。
- ・ **発表の場としても使えるリハーサル室・音楽ルーム**
 - 本番さながらのリハーサルが可能であり、時には小規模で本格的な発表ができる。
- ・ **区民やスタッフが協働できる事務室**
 - 可能な限り区民に寄り添ったオープンな事務室を目指し、区民が気軽に相談できることはもちろん、区民と共に考え連携のアイデアを生み出す場としても使用できる。



(2) 各諸室の留意事項 (特筆すべき事項のみを記載)

ホール	
関連諸室	留意事項
舞台 (両袖含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的な演目に活用できる舞台を前提とする。 ・舞台形式は、可動プロセニウム形式とする。 ・演劇や舞踊、音楽公演に適した音響・照明の性能をもたせる。 ・可動式の音響反射板を備え、生音の響きをいかす音楽公演にも十分対応できる音響性能をもたせる(室内楽の音がきれいに響くホールが望ましい)。 ・奥行を十分に確保し、演劇やミュージカルなど、大人数が舞台上がる演目にも対応できるように、できるだけ大きなサイズを確保する。 ・舞台袖面積は、上手・下手それぞれに舞台面積(演技エリア)の2分の1の面積をそなえるのが望ましい。 ・様々な演目に対応できるように、十分なバトン、スクリーン、引き割り、暗転幕、緞帳を用意する(バトンの位置については調整して決める)。
客席	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね300席とする。 ・車いす使用者用客席を設ける。 ・座席は基本的に固定式とし、車いす使用者用客席がさらに必要な場合の対応や多目的に利用できるように、一定数の可動席を設ける。 ・客席はすべての席からの視認性を確保する。また、舞台からの距離を近く、鑑賞環境の良い席を多くする形状とし、バリアフリーに配慮する。 ・座席と座席の間隔(前後)は、座席に着席した状態でも人の行き来がスムーズにできる幅とする。 ・客席や壁際など、必要な箇所に手すりを設ける。 ・床をフローリング仕上げとする。 ・親子室を設ける。親子室への動線は、ベビーカーや車いすでそのまま入れるような幅を確保し、フラットな仕様とする。
ホワイエ	<ul style="list-style-type: none"> ・観客がくつろげる空間とする。 ・ミニコンサートなどもできる仕様とする。 ・床をフローリング仕様とする。 ・できるだけ開放的に、外側から中の様子がわかるように工夫する。 ・来場者用の返却式ロッカー、主催者控室兼主催者用倉庫を設ける。 ・ホールで公演等が行われない場合は、エントランスホールと一体的に一つの大きな空間として使用できる仕様が望ましい。(19ページ参照)
楽屋	<ul style="list-style-type: none"> ・楽屋の合計収容人数を20名以上と想定し、4部屋程度設け、防音仕様とする。各部屋の構成等は次の通り。 <ol style="list-style-type: none"> ①定員3名程度×1室、定員6名程度×2室、定員12名程度×1室を基本とする。定員3名程度の楽屋は主役・指揮者用として使えるよう、トイレを設ける。 ②部屋同士をつなげられる等、柔軟性の高い仕様とする。 ③各楽屋には、ホールの様子を確認できるモニター(映像及び音声)を設置できるように必要な配管を行う。 ・楽屋ロビーを設け、出演者やスタッフが打ち合わせできるスペースとして利用できるように配慮する。 ・楽屋エリアには、給湯室、シャワー室、主催者用トイレ(多機能トイレを含む)を設ける。 ・舞台と同一階とし、舞台やホワイエへの専用動線を設ける。
備品庫	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な広さの備品庫を舞台と同一階に設ける
ピアノ庫	<ul style="list-style-type: none"> ・温度、湿度の調節が可能な個別空調を備え、舞台と同一階に設ける。 ・舞台へのピアノ搬出入動線を考慮する。

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者、出演者、職員の動線と、観客の動線を分ける。 ・楽屋として使用することを想定しているリハーサル室（音楽ルーム）と通じる裏動線を設ける。 ・他の諸室及び他のフロア、鉄道等からの騒音・振動の影響を考慮する。 ・照明については事務室などでも操作ができるようにし、親子室についてはホール客席と連動させる。 ・利用者用トイレを設ける。 ・女性用トイレは法定数以上の数を十分に確保する。 ・男性用トイレ及び女性用トイレ内にベビーチェア付きの個室を設ける。 ・廊下から直接入れる多機能多目的トイレを最低2個以上設け、1個以上を音声案内付きとし、視覚弱者の方が使いやすい仕様とすることが望ましい。
-----	---

リハーサル室(音楽ルーム)	
関連諸室	留意事項
リハーサル室 ・音楽ルーム	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽や演劇、ダンス等のジャンルでホールを補完するよう、練習、発表会が可能な機能を備え、防音仕様とする。 ・発表会が可能な音響・照明の性能（移動式も可）をもたせる。 ・舞台と同じサイズ・形を確保したうえ、周辺に荷物を置いて人が立てるスペースを備えることが望ましい。 ・音楽利用以外にも、美術作品展示、ワークショップ等、多目的に利用できるよう配慮する。 ・多種多様なニーズに応えられるように、次の点に留意する。 <ol style="list-style-type: none"> ①土間仕様のフローリング仕上げとする。 ②一面鏡（鏡はドアなどで蓋ができる）やバレエ用のバーの設置を前提とした仕様とする。 ③天井高を3 m以上とし、壁にピクチャーレールを備える。 ④平台等で小規模な舞台を設置できるようにする。 ⑤出演者や来場者動線だけでなく、ホール楽屋として使用できるように舞台からの動線などを考慮したレイアウトとする。 ・ピアノ等の搬出入をスムーズに行える動線を確保する。 ・ホールの様子を確認できるモニター（映像及び音声）を設置できるように必要な配管を行う。
ピアノ庫	<ul style="list-style-type: none"> ・温度、湿度の調節が可能な個別空調を備える。
備品庫	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル室（音楽ルーム）と同一階に設ける。

ギャラリー(ワークショップルーム)	
関連諸室	留意事項
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画、写真、彫刻の作品展示など、美術団体が主催する展覧会に適した機能として、次に記載の項目を備えるものとする。 <ol style="list-style-type: none"> ①展示壁面（床面からピクチャーレールまで）の高さは3 m程度とする。 ②展示スペースの一辺の長さは8 m以上を確保し、可動パーテーションを含む向かい合う展示壁面の間は4 m以上を確保する。 ③展示壁面は耐火ベニヤの上にガラスクロス貼りとするなど、ピンを打つことができ、汚れた際に上から塗り直せる仕様とする。 ④100号程度の作品展示ができる仕様とする。 ⑤収納スペースを勘案しつつ、天井吊り下げ式の可動パーテーションを設置し、展示壁面を確保する。 ⑥半分に仕切って2つの展示スペースとして使えるようにする（各展示スペースを他団体が使用することを想定）。

	<ul style="list-style-type: none"> ⑦可動パーテーションを最大限利用した展示を想定したライティングレールを設置するとともに、スポットライトを備える。 ⑧天井は様々な場所に吊りものができるような仕様とする。 ・展示利用以外に、創作ワークショップ、ミニコンサート等、多目的に利用できるように配慮する。 ・多種多様なニーズに応えられるように、次の点に留意する。 <ul style="list-style-type: none"> ①防水フローリング仕上げとする。 ②平台等で小規模な舞台を設置できるようにする。 ③エントランスホールと一体的な運用が可能なように配慮する(エントランスホールと接する壁は可動壁とし、エントランスホール側の壁面のみアクリル(テープを貼り剥がすことができる仕様)とすることが望ましい)。 ④音楽や映像などにも使用できるような電気容量を備える。 ⑤冷温水の使用が可能な水場を設置し、通常は隠せるよう工夫する。 ・展示作品の搬出入にあたっては、台車も含めた動線を確保する。 ・部屋は閉じて鍵をかけることのできる空間とする。 ・直接外光が入らないような仕様とする。
備品庫	<ul style="list-style-type: none"> ・展示利用時などに控室や荷物置場として利用できるよう配慮する(ギャラリー展示スペースの半分程度の面積を確保できると望ましい)。

練習室	
関連諸室	留意事項
練習室	<ul style="list-style-type: none"> ・4名～7名程度の音楽練習などを想定し、大きさの異なる部屋を2～3部屋程度設け、完全防音仕様とする。 ・個人練習、軽音楽、バンド練習を想定とするが、1部屋はクラシック音楽向きの練習を想定する。 ・必要に応じて、ピアノやドラムセットなどの備品を配置する。 ・練習室への入口には前室を設ける。

会議室	
関連諸室	留意事項
会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・創作ワークショップや講座での利用を想定し、大きさの異なる部屋を2～3部屋程度設ける。 ・1部屋は半分に仕切って2つの部屋として使えるようにする。 ・創作ワークショップや講座利用以外にも、美術作品展示、楽屋等、多目的に利用できるよう配慮する。 ・多種多様なニーズに応えられるように、次の点に留意する。 <ul style="list-style-type: none"> ①フローリング仕上げとする。 ②音楽や映像などにも使用できる電気容量を備えるとともに、スクリーンも設ける。 ③水場を設置し、通常は隠せるよう工夫する。 ④天井高を3m程度とし、壁にピクチャーレールを備える。 ⑤ホール楽屋として使用できるように舞台からの動線等を考慮したレイアウトとする。 ・会議室に窓を設ける場合、遮光カーテンなどを備える。

エントランスホール	
関連諸室	留意事項

エントランス ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスホールは、“誰でもふらっと中に入りたくなるような開放的な雰囲気”を念頭に、区民が多様に使える、つながれるオープンなフリースペースとし、極力広いスペースを確保できることが望ましい。 ・エントランスホールは、ミニコンサート、作品展示等、多目的な活動に利用できるように配慮する。 ・施設利用者が交流できるような利用ができるように配慮する。 ・多種多様なニーズに応えられるように、次の点に留意する。 <ol style="list-style-type: none"> ①フローリング仕上げとする。 ②ギャラリーと一体的な運用が可能ないように配慮する。 ③壁にピクチャーレール、天井照明やライトレールを備えるとともに、天井は吊りものができるような仕様とする。 ④音楽や映像などにも使用できるような電気容量を備えるとともに、設置場所も使い勝手に配慮する。 ・ホールで公演等が行われない場合は、ホワイエと一体的に一つの大きな空間として使用できる仕様が望ましい。(16 ページ参照) ・通常ホワイエにあるバーカウンターは、ホールの利用がないときでも来館者が利用できるように、エントランスホールに設ける。飲食店営業許可を受けるために必要な食品衛生法の施設基準等を満たす仕様とする。
情報コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が文化情報を入手できるだけでなく、区内の文化団体等が情報を発信できるためのスペースが求められる。 ・市内及び区内等の文化関係情報を分かりやすく提供するとともに、ふらっと来た人が過ごせるよう、文化関係雑誌や新聞を設置する、机と椅子を適切に配置するなどの工夫をする。 ・利用者が自主的な活動のための作業ができるスペースとして、机、椅子のほか、コピー機(印刷機)、PCを利用できるようネット環境・電源等を備えておくことが望ましい。
授乳室	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室から視認できる位置に設置する。 ・授乳場所は、プライバシーの確保に配慮する。 ・前室を設け、おむつ交換スペースや給湯設備のある流し台等を設ける。
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者用トイレを設ける。 ・女性用トイレは法定数以上の数を十分に確保する。 ・男性用トイレ及び女性用トイレ内にベビーチェア付きの個室を設ける。 ・廊下から直接入れる多機能多目的トイレを最低2個以上設け、1個以上を音声案内付きとし、視覚弱者の方が使いやすい仕様とすることが望ましい。

事務室	
関連諸室	留意事項
事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の誰もが分かるような場所に設け、受付スペース、執務スペース、打合せスペースの構成を基本とする。 ・事務室の各スペースについては、次の点に留意する。 <ol style="list-style-type: none"> ①受付スペース <ul style="list-style-type: none"> 区民文化センターの“顔”として、お客様対応のしやすい場所に配置し、オープンな造りとする。受付カウンターで区民からの相談に応じることも想定する。 ②執務スペース <ul style="list-style-type: none"> 事務スタッフだけでなく、音響等専門スタッフ等が同時に業務を行うことができるスペースを確保するとともに、個人情報管理できるしつらえとする。また、執務スペース内には、スタッフの更衣室や給湯室・休憩スペースを設置する。 ③打合せスペース <ul style="list-style-type: none"> スタッフ同士の打合せだけでなく、区民への相談に応じられる十分なスペース(6人～8人程度)を確保するなど、オープンな空間とする。 ・将来様々な活用ができるようスペースに余裕のある造りとしておく。また、レイアウト変更など、フレキシビリティに配慮する。

施設全体**留意事項****【全般】**

- ・都筑区のシンボルとなるような、区民文化センターらしいデザイン性の高いものとする。

【ユニバーサルデザイン等】

- ・施設内は極力段差を避け、やむを得ず段差を設ける場合には、車いす利用者にとって危険が無いような配慮を行う。
- ・施設エントランスから受付（事務室）への動線上には、視覚障害者誘導用ブロックなどを設ける。
- ・聴覚障害者用設備を設ける。
- ・各部屋やトイレなど（完全防音仕様の部屋以外）の扉は、ストッパー付きのスライドドアとする。
- ・各部屋の出入口は、車いすでの出入りができる幅を確保する。
- ・子どもの利用を想定した仕様とする。
- ・「横浜市福祉のまちづくり条例」の整備基準は最低限遵守することを前提とし、よりよい環境になるよう配慮する。

【設備関係】

- ・諸室をつなぐ通路など利用者が利用するエリアには、情報提供や展示・啓発が行えるよう、掲示板やピックアップレールの設置が出来るように配慮する。
- ・各部屋等を案内するためのサインはあらかじめ設置する又は設置できるようにしておく。
- ・仕上げ材は長寿命で耐久性に優れ、かつ、清掃・補修等がしやすいなど維持管理に配慮する。
- ・各部屋の照明、空調の操作は、個々の部屋での個別操作も、事務室などで集中的な操作もできるようにする。
- ・将来的な対応を見越して、各種管路はあらかじめ余裕をみて設計する。
- ・ホール関係諸室も含め、インターネット（光ファイバー等）を快適に使用できる環境を確保する。
- ・後々の設備更新等を考慮し、シンプルで機能的なデザイン、設備を用いる。

【搬出入口】

- ・搬出入口は、ホール及びギャラリーへ搬出入しやすい位置（直結した動線を確保することが望ましい）に設け、荷下ろし及び車両の留め置きができるスペース（長さ12.0m、幅2.5m、高さ3.2m程度）を確保する。また、雨天時の搬出入に配慮する。
- ・搬出入口とホール、ギャラリーの階数が異なる場合には、荷物を運ぶための大型EV（12尺の材木が運べるサイズとする。奥行4m、幅2m、高さ3m程度）を設ける。大型EVへの搬出入、大型EVからホール及びギャラリーへの搬出入は無理のない動線（大型EVと同じ高さ）を確保し、段差なく作業できる仕様とする。

【環境への配慮】

- ・LEDや省エネ、断熱効果の高い素材の使用など環境面に配慮し、省エネ効果の高い仕様とする。

【その他】

- ・倉庫として利用できる面積を可能な限り確保する。

5 その他、敷地・建物全体において配慮いただきたい事項（特筆すべき事項のみを記載）

【基本的な考え方】

「区民文化センター」を「まちなかの文化施設」として捉え、一体的に開発・まちづくりを考えていただきたい。

- ・建物デザインは、このまちのシンボルとなる区民文化センターにふさわしいデザイン性の高いものとし、かつ、機能性を重視したデザインとしていただきたい。
- ・区民文化センターが建物の中にあるということを外側に醸し出すような文化的なおいのする外観（文化という日常とは異なる特別な空間へ続くわくわく感の演出）としていただきたい。
- ・区民文化センター入口へと誘導するサインについては、デザイン性に配慮した上で、わかりやすく、目立つところに設けていただきたい。また、「横浜市福祉のまちづくり条例」に従った上で、点字誘導や点字プレート、反転色でわかりやすい大きめの表示、外国人に配慮した多言語表示などについても配慮し、誰にとっても分かりやすく使いやすい建物としていただきたい。
- ・区民文化センターの催しをPRできるよう、デジタルサイネージ化した掲示板を外に向けて目立つところに設けていただきたい。また、掲示板等の表示は多言語で表示していただきたい。
- ・駅からの動線、みなきたウォーク・歴史博物館への動線を考慮した一体感のある建て方及び建物の工夫をしていただきたい。
- ・区民文化センターの観客動線（観客の行列等）が建物利用者の動線を妨げないようにしていただきたい。また、区民文化センター公演終了時の観客がスムーズに退出できるような動線及びスペースを確保するよう配慮いただきたい。
- ・グレーチングなどの設備は、搬出入口にトラックが出入りすることを想定した仕様としていただきたい。
- ・街づくり協定の通り抜け通路や広場、ポケットパーク、中庭などのスペースで文化的な活用ができるように工夫をするとともに、市民の憩いの空間とした造りを工夫していただきたい（例えば、野外イベントのできる屋根付きアトリウムやギャラリー、アートスペースなど）。
- ・区民文化センターのエントランス階には、文化と関係する店舗や都筑らしい飲食などができる賑わいスペースなどを設けていただきたい。
- ・区民文化センターへの交通手段は、地下鉄・バス等の公共交通機関の利用を基本とするが、利用状況を見ながら、駐車場をセンター北駅周辺において確保するよう配慮いただきたい。

IV 参考資料

1 区民文化センターの基本的役割、文化事業

■ 区民文化センターの基本的役割

区民文化センターに期待される基本的役割は以下のとおりです。

この基本的役割に、各区の特性に応じた役割を追加していただきます。

ア 文化活動のために施設を提供すること（貸館）

- ・区民文化センターが備える各室は、地域の施設の中で最も文化活動に適した仕様です。音楽、演劇、ダンス、美術などの文化活動の場となることを想定しています。
- ・区民が気軽に利用し、日常的に文化活動を行う場となることが貸館の目的です。
- ・場の提供を通じて、地域の文化活動の振興に寄与します。

イ 区民に芸術文化に触れる機会を提供すること（自主事業）

- ・自主事業が、地域にとっての「世界の窓」となり、地域の文化活動が発展するための起爆剤となり、オリジナルな文化活動を創造する契機となることを目指します。
- ・自主事業を行う意味は大きくは3つあります。
 - 1) 優れた芸術文化活動に、身近な場所で触れることで、地域住民が文化芸術の世界の広さ、多様さに触れるきっかけとなること。
 - 2) 自主事業へ様々な形で関わることによって、区民の文化活動の刺激となり、地域の文化芸術活動を活性化すること。
 - 3) 区民オペラ等オリジナルな作品の制作を通じて、地域独自の文化を創造すること。

ウ 地域文化を支える人材育成を担うこと（次世代育成、ボランティア等）

- ・区民文化センターは、地域文化をつくり、支える人材を育て、サポートします。
- ・地域文化の創造に寄与する新進アーティストの支援や、様々な文化事業を支えるボランティア等への参加を促します。
- ・地域での文化活動を主導する人材の育成をすすめます。
- ・区内の学校で芸術文化教育プログラムを提供します。

エ 文化団体・文化活動をする人の支援

- ・文化団体や文化活動をする人の相談に応じ、文化活動を支援します。
- ・区民文化センターで行われる利用者の催しの広報を支援します。
- ・区内の文化団体等の情報を集め、広く周知することで、団体相互の活動の活性化につなげます。

オ 地域のネットワーク形成に寄与すること（文化的commons）

- ・施設の中での活動だけではなく、文化関係に限らない地域の様々な施設や団体（町内会、福祉団体、商店街、他の公共施設等）と様々な機会を通じて連携関係を築くとともに、共同で事業を実施することなどを通して、地域のネットワーク形成（文化的commonsの形成）を牽引します。
- ・そのため、文化に限らず、地域の様々な団体や施設について、リサーチして把握します。
- ・施設外での様々なアートプロジェクトを支援するなど、地域文化のコーディネート役を担うことで、地域の様々なつながりづくりに貢献します。

カ 様々な区民の社会参加の機会をつくること（ソーシャル・インクルージョン）

- ・文化芸術に関心があり、施設に来場できる人だけを対象とするのではなく、区全域を対象とし、施設に来場できない人、文化活動への参加が難しかった人も対象として、事業展開を行います。
- ・文化活動によって、様々な境遇にある区民の社会参加の機会をつくります。

■ 文化事業

基本的役割と各区の特性に応じた役割を担う地域の文化芸術活動の拠点として、区民に多様な文化事業を提供していきます。

ア 施設利用

区民が文化芸術活動の発表や創作、練習できる場所

イ 情報発信

文化芸術活動の情報を発信し、区民同士の交流を促進する場所

ウ 鑑賞事業

区民が質の高い文化芸術を鑑賞できる場所

エ 普及事業

誰もが気軽に文化芸術に触れる機会を提供

オ 次世代育成事業

子どものための芸術文化、教育事業の提供、新進芸術家の発掘

カ 支援機能

文化団体や文化活動をする人などから文化芸術活動に関する相談受付や支援する機能

キ 連携機能

文化団体や文化活動をする人、地域の他施設など、地域のネットワークを形成していく機能
区内の他施設と連携した鑑賞や普及事業の展開（アウトリーチ事業）

ク 人材養成

地域の文化振興を担う人材を養成していく機能（プロデューサー、コーディネーターなど）

ケ 調査研究

区の文化振興につながる調査研究（情報の収集、蓄積、分析）を行う機能

2 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 委員名簿

役職	氏名	組織・肩書等
委員長	間瀬 勝一	公益社団法人全国公立文化施設協会 アドバイザー
副委員長	村田 輝雄	都筑区連合町内会自治会 会長
委員	恵志 美奈子	公益財団法人せたがや文化財団 劇場部 企画制作担当
委員	金子 進	都筑の文化 夢スタジオ管理運営委員会 委員長 第 22 回都筑区民文化祭実行委員会 委員長
委員	篠原 慎一	サントリーパブリシティサービス株式会社 文化ハピネス事業 部長
委員	坪池 栄子	株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー
委員	中村 雅子	東京都市大学メディア情報学部 学部長
委員	林田 育美	都筑多文化・青少年交流プラザ 館長
委員	三ツ山 一志	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリー 主席エデュケーター
委員	皆川 健一	タウンセンター活性化検討会 前委員長 港北ニュータウン・タウンセンター地区街づくり協定運営委員会 前委員長
委員	横手 美枝子	荏田南連合自治会 会長

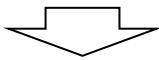
(委員長・副委員長以外の委員は五十音順)

3 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会 検討経緯

第1回（平成29年7月3日（月） 午後3時～午後5時40分）

議題

- 1 区民文化センター、整備予定地の概要、都筑区の地勢・特徴について
- 2 他の文化施設の利用状況及びアウトリーチ・ワークショップ等の事例
- 3 都筑区における区民文化センターに必要な機能について意見交換
- 4 区民文化センターニュース 第1号の発行について



委員向け施設見学会を開催（有志）

日時：8月7日（月）午前10時30分～午後1時30分

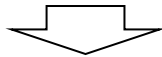
見学施設：磯子区民文化センター杉田劇場、

緑区民文化センターみどりアートパーク

第2回（平成29年8月29日（火） 午後3時～午後5時40分）

議題

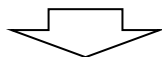
- 1 第1回委員会会議録の確認について
- 2 第1回区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの実施報告について
- 3 都筑区における区民文化センターのコンセプト・運営方法・施設構成について意見交換
- 4 区民文化センターニュース 第2号の発行について



第3回（平成29年10月2日（月） 午後3時～午後5時45分）

議題

- 1 第2回委員会会議録の確認について
- 2 第2回区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの実施報告について
- 3 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申（たたき台）に関する意見交換
- 4 区民文化センターニュース 第3号の発行について



第4回（平成29年11月28日（火） 午後3時～午後5時30分）

議題

- 1 第3回委員会会議録の確認について
- 2 横浜市都筑区における区民文化センター基本構想 答申（案）及び答申概要版（案）に関する意見交換、議決
- 3 区民文化センターニュース 第4号の発行について

※会場はいずれも都筑区役所5階特別会議室

4 委員会開催中に寄せられたご意見、アイデア等について

委員会開催中の8月6日(日)及び9月10日(日)に、都筑区役所主催のオリジナル企画として「区民文化センターについて考えるアイデアミーティング」が開催され、述べ82名の区民の方などが参加されました。委員会は、この2回のアイデアミーティングで出された区民のアイデア等の情報提供を受け、検討の参考としました。

また、そのほか、委員会開催中に、都筑区役所へEメール、FAX、郵送などにより寄せられたご意見等についても情報提供を受け、検討の参考としました。

【別紙1】第1回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録

【別紙2】第2回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録

【別紙3】委員会開催中に寄せられたアイデア等について

第1回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録

平成 29 年 8 月 6 日（日）午後 1 時～ 5 時 都筑区役所 6 階大会議室

参加者数：53 名

◆プログラム

1. 区役所からの情報提供（別紙 1 参照）

- ・新たな文化施設の実現に向けた進捗状況
- ・今回のアイデアミーティングの位置付けなど
- ・区民文化センター基本構想のスケジュール
- ・土地全体の活用と今後のスケジュール
- ・区民文化センターの「標準的な機能」

2. 「なぜ区民文化センターをつくるのか」（別紙 2 参照）

3. グループワーク①

- ・テーマ 1. 未来に向けてどんなまち〈都筑区〉にしていきたいか
- ・テーマ 2. （区民文化センターに）自分はどうかかわれるか
 - グループ A①②：舞台芸術系（ホール・リハーサル室など）
 - グループ B：美術創作系（ギャラリーなど）
 - グループ C①②③：文化事業の企画・実施

休憩

4. グループワーク②

- ・進行役（複数名）以外の方が別のグループ（C⇔A、C⇔B）に移動し意見交換

5. 発表

6. 本日のまとめ

◆区長挨拶

皆様こんにちは。都筑区長の畑澤でございます。本日はご多用の中、都筑区の区民文化センターを考えるアイデアミーティングに参加をいただきましてありがとうございます。都筑区は、ご存じのとおり区民の皆様の文化、芸術活動が非常に盛んなところでございます。日頃のご活動に加えて発表する場ということで、区民文化祭もあり、星空のコンサートもありということで、出演される方のみならず、その場を設定してくださっている方々も区民の皆様でございます。それから各地域にあります伝統的な文化芸能に携わっている方もおられ、この都筑区は様々なジャンルの文化芸術に触れあい、直接楽しめる、そのような環境にあると思います。この素晴らしい環境をつくっていただいているのも本日より皆様をはじめ、区民の皆様のおかげということで心より感謝を申し上げます。そして今回、いよいよ都筑区区民文化センター基本構想の検討が始まりました。区民の皆様のお身近な文化の拠点ということで、都筑区らしさを大切にしながら施設をつくっていきたくと思っております。基本構想検討委員会の委員の皆様をはじめ、今日ご出席の多くの皆様のご意見を聞きながら進めていきたくと思っております。本日は大きくテーマを二つに分けて進めますが、皆様の豊富なご経験、ご見識に基づきまして、幅広く意見交換をしていただければ幸いに存じます。17時までという長い時間になりますけれども、都筑区らしい貴重なご意見、アイデアをたくさんいただけますよう期待いたします。

◆区役所からの情報提供に対する質疑応答

質問：第1回の基本構想検討委員会の傍聴をしました。全体のイメージがまだよく分からないのですが、全体として何階の建物を構想されているのでしょうか。また、今日これから話し合う文化施設というのはその中の一部の話なのか、全体の話なのか。都筑区に住んで25年になります。都筑区における図書館の問題を考えております。

答え：まだハード的な仕様は決まっていません。今後、民間事業者に提案をしていただき、選考して決めていく方法で進めていきますので、何階というのは現在申し上げることができない状況です。

質問：では、何階の一部ということではなくて、建物全体が区民文化センターということですか。

答え：全体ではないです。全体の土地は1.2haありまして、床面積でいうとその中の約3,000㎡部分が区民文化センターということで考えています。どういう建物になるかは民間事業者の提案によります。ですので、複合施設になるのかも現在は決まっていない状況です。

意見：質問者がどんな方なのか、名前や活動内容を聞きたいので可能であればそうしてください。

質問：都筑図書館ファンクラブの者です。本日の説明の今後のスケジュールのところ、平成30年度に事業者の公募があり、平成31年度に施設の設計整備とあったと思います。数日前に開催されたサウンディングの説明会では、平成30年度の最後あたりで設計整備が始まると聞きました。本日の説明と年度が1年違っています。

答え：平成30年度に事業者が選定できれば、事業者が設計、施工を行ってまいりますので、事業者が選定されて市との契約が整い次第、設計に着手できると思っております。サウンディングのときの資料が合っております。

質問：近くに住んでいる者です。町内会の方から参加しました。この会の「立ち位置」がよく分かりません。初参加の人もおられるので、もう一度説明してください。

答え：今回、都筑区で検討しているのは、あくまでも区民文化センターについてです。区民文化センタ

一の標準的な機能というものは、ホールや練習室などが備わって概ね 3,000 m²の建物になります。今回、この約 3,000 m²の区民文化センターをどうするかというアイデアミーティングをしたいということで、お声掛けをさせていただきました。

◆グループワーク



★自己紹介カードを用いて、自己紹介。お名前と活動されていることを各自 1 分間で。



★グループごとに、アイデアをふせんや模造紙に書き出しながら、意見交換を行いました。

◆グループ発表

Aグループ①

舞台関係のAグループです。私は都筑区民文化祭の舞台関係をしています。夢スタジオの運営委員をしています。都筑区民文化祭実行委員をしております。文化祭は今年 21 回目を迎えましたが、参加が 5 回から 17 年間、クラシック専門に担当させてもらっています。

前半と後半に分かれてディカッションをしました。舞台の関係者が多いということで舞台に関する議論になりました。一つ基本的なこととして、1,500 席くらいのホールで、ピアノはスタンウェイ、さらに舞台の後方が開いて外が見えるような、オープンエアのステージにしてほしいとありました。搬入口に十分なスペースをとって、4 トン車 4 台くらい入れるようにしてもらわないと困ると言っていました。リハーサル室なのですが、基本的には舞台と同じだけのスペースがほしい。そこで簡単な発表会などもできるといいのではないかという意見が出ていました。

外観について、どんな建物がどんな規模でできるか分からないのですが、都筑区のランドマークとなるようなものを建ててほしい。今、都筑区のランドマークが都筑のまもる君になっています。一つの案として、建物の周りを森で囲んでその中に金属質な建物が建っていて、中の案内図のようなものが、外に向かってあって、区民の方がその場所の写真をその図の中に貼っていったらどうかという意見がありました。参考にしてほしいのものとして、リコー中央研究所の地下のオープン施設、図研の円形のホールなど出ました。他の意見で、フードコートがほしいとか、スポーツができる広場がほしいとかいろいろあったのですが、基本的には老若男女が常に集まっているような、何も催し物がないときには人が来ないというのではなくて、やっていない時も人が集まってくるようなそういう場所にしてほしい。そのためにはオープンスペースが大事で、某施設のような全部がオープンスペースというのではなく、ちゃんと考えられた、人が集まるオープンスペースをつくるべきだろうと、そのためには、総合庁舎についてもそうなのですが、規制とか禁止事項が多くて、せっかくいい場所であっても生かされていないという意見がありました。できれば運営する団体というのは区民の視点に立った、できる限り自由をという運営側の体制が必要という話になりました。以上です。



会場からご意見はありませんでした。

その他ふせんに書かれた意見

- ・個人でもグループでもいられる練習室、活動スペース
- ・地下（舞台下）に会議室のような控え室
- ・地下にリハーサル室
- ・奈落がほしい
- ・客席はフラットではない方がよい
- ・寄席ができる小規模な演芸場を
- ・練習場の壁は鏡
- ・あらゆる演出が可能な設備
- ・建物にはお金をかけず設備にかけてほしい
- ・美術バトン3本以上ほしい
- ・楽屋とホワイエ動線
- ・搬入したらそのまま舞台と直結
- ・屋上にプラネタリウム兼用のドーム型ホール
- ・屋根つき野外ステージ
- ・敷地内に点在するパオ型練習ルーム
- ・緑道の図面を壁面に貼る
- ・コミュニティ図書館をホールに併設
- ・複合施設なら図書館機能がほしい
- ・文化活動を有機的につなぎ活性化するための文化事業団をつくってほしい



Aグループ②

私は自治体の文化ホールに勤めておりまして、その視点から意見を出しました。やはり舞台芸術としては、本来であれば、みなとみらいホールが南の拠点であれば、北部にもそうしたホールが必要だろうということで、大きなホールが必要という意見が当然ありました。特に都筑区は子どもたちが多く、子どもたちのダンスやミュージカルをやっております。それを広く観ていただくような場所が今横浜にはないので、その意味で今からつくるのであれば、大きなホールがほしいという意見がありました。ただ300席というキャパが決まっているということです。たくさん出演者が出ることもあると思うのですが、出演者が300席のホールですと、裏方のトイレの数とか、出演者のバックヤードの充実、また女性客が多いので、表周りは女性トイレを多くしてほしいという意見が結構ありました。300席のキャパをできるだけ可動式のものにして、フラットでイベントもできれば、客席の人数によってせり上がってくるようにして、すると演劇とかダンスとかいろいろなユースに使えるのかなということで、がちつと組んだようなよくある音楽ホールではなくて、バラエティに富んだイベントができるような、多様な文化芸術に触れることができるようなホールにしてほしいという意見がありました。ロビーとステージの動線とか迷路になっていて、初めての利用者が迷ってしまうことが結構あります。分かりやすいロビーからの動線も考えてほしいという意見ができました。野外イベントができるオープンスペースの活用というのは我々のところでも出ていました。特に文化芸術に関連した本などがある図書スペースがあるオープンスペース、オープンスペースの中にギャラリー・アートスペースがつけられていると文化芸術の

香りがする施設になるのかなという意見も出ていました。搬入口とかトラックが止められなくてというのがどこのホールでもあるのですけれど、広い搬入スペース、10トン車が停まれるようにというのもありましたが、さすがに300席では無理ですが、大きなトラックが止められるスペース、そして荷下ろしをするスペースを一緒に考えないと、止められるけれど置いておく場所がないということにならないよという意見も出ております。できるかどうか分かりませんが、300席規模のホールが階層的に二つある、舞台面と同じだけのリハーサルスペースと、公演スペースの両方あると、練習のために使う方と公演に使う方が同時にできるので、稼働率はかなり上がるのではないかと。閉館時間がたいてい10時とかになっているのですが、お客さんが出た後に片づけをする時間が結構あるのですけれど、そこを開館時間が制限されると、平日など9時に催し物が終わって1時間では出なくてはいけない。これだとやれるものが限られてしまう。土日は混んでいるけれど平日は空いているという恐れがあるので、利用時間と搬出入の時間を分けて考えられると平日の利用が結構上がるのかなという意見も出ていました。子どもが多く、子どもたちの学校の生徒全員が入れるスペースということで、当初は300席ではなくて大きなホールが必要という話でした。今そのような場所がないので、中学校の吹奏楽部とか公演をしても親の方々に見てもらう機会が持てないというのは非常にまずいと思うし、都筑区が後からできるホールということもあるので、やはり北の顔になるようなそういう設計仕様にしてほしいという話でした。

私たちは300席ありきで話し合いをしたわけではなく、まずは自分たち区民がどういうものがほしいかということで、舞台の側から皆さん見ていただくと、やっぱり大きなホールがほしいと、本物が呼べる舞台がほしい。本物が呼べるイコール子どもたちが学校単位で足を運んで、子どもたちに芸術を見てもらって触れさせる機会がほしいということで、まず最初に1,000人、1,200人規模のホールがほしいということを前段に話し合いをさせていただきました。今合唱コンクールを隣の宮前市民館に行くとか、都筑はみなとみらいまで遠いですから、近隣の市の施設でやっているというのが都筑区の中学校の現状なので、ぜひ北部地域に学校単位で入れるホールがひとつあれば、オーケストラも本物が呼べるサイズということで、サイズなども貼ってありますのであとでご検討いただけたらと思います。

繰り返しですが、子どものまち都筑区ということで、今までの文化センターの流れで300席ということではなくて、今までにない文化センターができればということでみんなで話しました。



会場からの意見等

意見：こちらのグループで盛んに出された 300 席というのは、私たちは頭になかったのですが、それはかなり確実なことなのですか。

意見：こちらでも出ました。

意見：ここにチラシ（都筑区区民文化センターニュース第 1 号）もあります。第 1 回目の検討では、300 席を前提。3,000 m²を前提とはっきり書いてあります。

答え：大きなフレームとして、現在はそれを前提としています。

意見：なぜ 300 席なのかという説明が最初にあると考えられるのですが、他に 300 席だからというのでは。

答え：300 席というのは決まっているわけではありませんが、標準的な機能としては 300 席程度の区民文化センターが多いということと、トータルは 3,000 m²程度なので、そこにいろいろな機能を入れていこうとするとホールとして取れるのは 300 席程度というところから、標準例として提示しています。それをどういう形にしていけるのかはまだ決まっていますので、これから議論して詰めていくということになります。

意見：3,000 m²は変えられないのですか。

答え：3,000 m²程度の活用であるということはほぼその方向で進めていきたいと思っております。

意見：あんなに広い土地があっても 3,000 m²ですか。

意見：階層の問題もあると思う。何階にするのか。それによって変わるかもしれないし。前提条件によってやれることも違う。

答え：それもこの基本構想検討委員会で、基本構想を決めたものを条件に事業者に提案をもらうという枠組みになっているので、むしろこちらが前提で持ち込まなければいけないというのが今の状況です。そのようなご意見が多数あったということも委員会の方に情報提供しますので、最終的にどのような形があり得るのかは議論の素材としてご提供させていただきます。そこまでしか言いようがありません。

その他ふせんに書かれた意見

- ・舞台総合芸術ができる 最低 800 人～1,000 人入るホール
- ・劇団四季が呼べる
- ・大ホールと小ホールの二つがほしい
- ・小ホールならば天井高がほしい
- ・練習室は夜間利用ができて、見学が自由に行ける気楽な会場
- ・演奏者と観客が一緒に楽しめる交流拠点に
- ・会場探しが大変なので小ホールも数がほしい
- ・客席のバリアフリー



Bグループ

私たちBグループはギャラリーについて議論いたしました。Bグループは、都筑区民文化祭の展示部門の実行委員が多かったということもありまして、関心ごとがギャラリーのしつらえで、タイトルといたしまして、「事務局含め区民が手作りで企画運営している『都筑区民文化祭』の活動経験を通して見えてきたギャラリー設備への要望」としました。

ギャラリーですが、私たちは大きな空間にできるというのが要望です。230㎡から240㎡ぐらいの全部間仕切りを取ればそれぐらい大きなスペースをとりたいと思っています。毎年1月下旬から2月初旬に向けて約2週間都筑区民文化祭の展示を総合庁舎1階のホールでやっているのですが、それは通路という感じでもありまして、いろいろな設備、パーティションをつくれなとか、高さはいくらまでとかでかなり制約が大きくて、老若男女、障害者の方がなかなか一緒に展示ができない、規制が多すぎるというところから、今度の区民文化センターに期待をしています。その大きな空間を多目的に区切れるように、ふたつもしくは三つぐらいに区切れるような可動式のできれば電動のパーティションがほしいと思っています。そうすることによって、たくさんの点数を飾り付けたいという風に考えています。また、書道もそうですし、パッチワークとか大きな作品を飾りたいときは、今現在ではお断りをしています。大きな作品をつくっているグループは、出したくても出せないということがありますので、できれば高い天井にさせていただいて天井からつるせるようなしつらえにしてもらいたいと思います。展示部会の出展者もかなり高齢化しておりまして、大きな展示物のために脚立で上るのは危険になっています。電動の物が望ましいと思います。吊ったり架けたり以外にも展示物を置いて見せるということも多数ありますので、椅子とか机も40台は必要です。今はずっと立ってみているのですが、ちょっと腰掛けて観たいという人も出てきていますので、背もたれのないような椅子が用意できたらと思います。照明が今のところはとても天候に左右されるため大雪や雨の日は午後3時くらいで真っ暗になります。せっかくの作品展示も綺麗に見えない、せっかく1年かけて作られたものに申し訳ないというのが現状ですので、やはり照明については作品がよく見えるような、動かせるような照明、スポットライトを当てられるような照明があればいいと思っています。また、今、制約が厳しくて、作品を持ってきた際の箱などは全部いったん持って帰らなければなりません。電車で来られる方など大変ですので、備品などを収納できるある程度のスペースの部屋がほしいと思っています。また飲食ができるようなちょっとした控え室もあると助かります。大きな展示を飾りたいと思っていますので広い搬入口と地下駐車場からギャラリーの方につながるような動線確保が必要になってくると思っています。

今は、どんなことをやっているというのを紙で貼っているのですが、よくあるような外に向かって電光掲示板で、外を歩いている方に パソコンから収録したもので、今こんなイベントをやっていますということがお知らせできたらと思います。ホールにとってもいいのと、せっかく前を通ったのに知らなかったというふうにならないようにと思います。寒い季節は大雪が一回は来るので、できれば10月～11月に文化祭を開催したいなどいろいろ議論しました。そこで、プロでも使用できる設備が必要だということになりました。細かいことがいろいろ出ましたけれど、それを通して 文化を醸成して行って、区民の皆さん方でいろいろな交わりもできて、そうすると楽しく暮らせますし、しいていけばここにもっと住みたいというまちづくりにもつながっていくのではないかと考えております。

会場からご意見はありませんでした。

その他ふせんに書かれた意見

- ・ 都筑区民文化センターを創造都市の拠点に
- ・ 歴史博物館との連携・センター北駅～歴史博物館～遺跡公園～区民文化センターの野外展示
- ・ 自然豊かで、安全で楽しく歩けるまち
- ・ 防犯につながる明るい街並み
- ・ 年代を超えて交流・活動ができるまち
- ・ 年代、世代を超えて情報や知恵を共有し、学びあえる場所づくり
- ・ 定期的に行われるワークショップのプログラムづくり・幅広い年代が楽しめるカルチャーセンター
- ・ 電気容量を確保してほしい



Cグループ①

NPO 法人の代表をしています。いろいろな方がおられ、最初はこのテーマ通りに全然行かなくて、いろいろ考えている間になんとか文化施設のソフト面とハード面という風に分けて考えました。最終的にはどんなまちにしたらいいかということも話し合ってきました。

ハード面としては、皆さんも言っていたように、まちの中での大事なシンボルになるので、その施設だけではなくてやはり歴史博物館とか、みなきたウォークに通じるような一体感を持ったまちにしたらどうか、その中でここを文化ゾーンと名づけて、文化が行き交う、その真ん中に位置していたらいいのではないかという話が出ました。いろいろな方がいらっしゃったので、もちろん 1,500 人が入れるホールがあったらいいという意見もありましたし、図書館がこの場所にほしいという意見もたくさんありました。

ソフト面では区民が運営できるようなものをつくって、その人たちが企画なども出していけるようなそんなことができたらいいなという話が出ました。祭りのよさもここにいっぱい入って、毎年そういう大きなイベントができるようになればいなという話が出ました。FMの話が出たのですが、FMつづきを開局するまで考えていなくて、FM横浜のサテライトとかがいいという話も出ました。あと音楽学校の生徒さんたちが、音響などを担ってくれるといいのではないかという案も出ました。

私たちが話し合っ、今までの発表には出てこなかったのは、レジデンスステイの場所がつかれるとか、来た人が合宿をして練習ができるとか、何かしら簡易の宿泊施設ができたら楽しいね、夜通し稽古をして、その後泊まってみんなで話して、次の日公演というような話です。横にお風呂もありますしできるのではないかと、そういう宿泊施設があったら、各国からもやってきて、ここで文化をいろいろ発信してくれるのではないかという話が出ました。同じように広場の話も出ました。いろいろな団体や、美術など芸術文化、教育をやる中で、真ん中に広場になるものがあれば、自然とそういう人たちが交流できるようになるので、オープンスペースは大事なのではないかという意見が出ました。星空のコンサートとか楽しみにしていると思うのですが、雨が降れば出来ないの、オープンスペースでありながら屋根があるというアトリウム的なものができるといいと思いました。最後にどんな人たちに向けてというところでは、あらゆる人たちがあらゆる場所から集まって来て、学びが生まれるということ、あらゆる学びが生まれる場所というものになるのではないかということでもとまりました。



会場からご意見はありませんでした。

その他ふせんに書かれた意見

- ・多様なコンテンツを持つまち
- ・区民が主体的に参画できるまち
- ・若者が集えるまち
- ・文化を推進してきた人のところ、気持ちを伝えていく
- ・区民文化センターを中心に文化ゾーンをつくる
- ・緑道の中心だから、ぜひ地面の部分を残して、緑があるように
- ・世界一流のアーティストが呼べるような大ホール
- ・用がなくてもフラッと来れるオープンカフェ
- ・ファンクラブが企画する拠点
- ・継続的にイベント企画、運営の予算がつくように
- ・トリエンナーレ的なイベントの開催
- ・障害者も参加しやすい施設
- ・まちの中にあって自慢できるような素敵な建物（それ自体が文化のような）
- ・商業施設との複合ビルであったりマンションと複合された建物ではない方がよい



Cグループ②

32年前に越してきて、学生時代にプランニングで港北ニュータウンをやっていました。ボランティアを続けて32年です。今日は都市計画専攻の学生さんもいます。

まずどんなまちにということで、この都筑区って住みたいまちナンバーワンで、これからもそうであってほしい、それはそれで続けて行きたいし、かつ結構意識、民度も高い。その中でいつの間にか図書館が貧相だという話もありました。ではその民度をどう使っていくのだろうということで、あくまでも文化センターですから、図書館よりもいろいろな触れ合いとか、ライブラリーとかアカデミックという話もしていったのですが、その中で文化センターをどうするかという話になって、そこに向けて集中しましょうということで議論しました。いくつか簡単に報告します。まず都筑区らしい文化センターとは何だろうということです。やはりこのまちの顔ということ言うとグリーンベルトのまちということで、できればエントランスを含めて小川が流れている。しかも緑に太陽光が入り、観葉植物で植栽できますので、小川に沿ってグリーンベルトを歩いていくと奥にホールがある。結構クオリティが高いが大きなホールではない。我々がやるコンサートであれば150人くらいがやりやすいのかなと思いました。そのホールも音楽だけではなくて、例えば床が汚れてもいいホール、油絵、彫刻などができてもいいのではないかと話しました。いろいろな提案があると思うのですが、そのときに入り口付近が一番注目されるのではと思っています。できればみなきたウォークを通して、地下鉄の駅に向かって何か発表ができるオープンスペースがあってもよい。箱以外のオープンな場でのいろいろな発表、コンサート、それができるといい空間もあってほしい。星空のコンサートのような野外コンサートもできるといい。運営する人と情報発信こそ命なので、人では事業団をつくってはどうかと、要するに行政や民間に任せるのではなく住民も参加したいろいろな分野の組織があつればいいと。アイデアとしては、できればFMつづきのようなものをつくってもらったらどうか。その運営はせつかくあるので都市大学に。そこに情報メディア学科があるのでその研究室と一緒にサテライトスタジオをつくって、しかも中央大学付属の中高生もいるので、放送部に来てもらって、ライブ放送の勉強しながら文化を発信していく。区内だけでなく、区外、東京あるいは海外、そういうところへ発信ができることこそ都筑区らしいのではないかなと思ったのがわれわれです。FMつづきを呼びかければ、例えばシューマイの会社とか車のメーカーとかいろいろな企業が注目してくれると思う。そういう企画をしていくのが大事なのかなと思っているグループです。

少年少女合唱団を主宰しております。8年9年続けているのですが、いろいろな意見を聞いて楽しかったです。シンボリックなもの、ホール自体がシンボルのようなものになるといいのではないかという話も出てきました。

早稲田大学の建築学科の学生です。緑動の景観をテーマにして卒業論文を書いていて、その中で住民協働ということでこの港北ニュータウンを特徴的だということで、こういった住民の方々が意見するような場で、どのような意見があるのかということの本日体感したいなということで参加しました。自身も仲町台の緑道沿いに住んでいますが、研究を進めていく段階で緑道景観の、特に集合住宅をメインにやっているのですが、そういう意味でアドバイスをしてくださる方がおられたら声をかけてください。ありがとうございました。



会場からご意見はありませんでした。

その他ふせんに書かれた意見

- ・芸術的な本が読めるカフェ
- ・本を読みながら音楽が聴ける
- ・用がなくても行く場所がある
- ・子どもが自由に入れるエントランス
- ・子どもが自由に入出りできる図工室
(アトリエ)
- ・いろいろな創作活動ができるフリースペース
- ・珈琲やお酒が飲めるコンサートホール
- ・何をしているか見えるオープンホール
- ・美術と音楽がコラボできる場所に
- ・何をやっているか見えるように区切り過ぎない
- ・多世代を呼ぶには多世代が運営側にいる必要がある
- ・一発イベントだけでなく継続した大小のイベントを
- ・いろいろなジャンルの音楽のコラボ企画
「音楽でもっとつながろう！」



Cグループ③

都筑区に来て6年目で、飲料メーカーで社会人2年目をしています。

どんなまちにしたいかということで、世代交流、多世代がバランスよく住めるまち。人と人がつながっていくまちにしたいという話がありました。子どもが多いということで、子どもが住みやすい、子どもを育てやすい、子どもたちがまたこのまちに住みたいと思えるまちにしたいという話が出ました。一番重要なのは、安心・安全面で、地震や最近の天候のこととかありますので、その部分で安心・安全 明るい都筑区にしたいという話がありました。それを踏まえて区民文化センターではこんなことをしたいということを話していきました。

普段、都筑におります。

区民文化センターでどんなことをしたいかと言う話の中心はその中身です。大きな規模のホールがほしい。例えば合唱コンクールとかブラスバンドの発表を学校単位でできる規模のものがほしい。ホールだけでなくカフェも併設している、カフェがあるとつづきらしくていいという意見もありました。われわれのところでは最初から300席規模のホールということで議論しましたので、大きな規模を望むというよりは、この都筑の中でどういう団体がホールを欲しがっているかということから、ダンスなどの団体からすると広い練習場がほしい、音楽だけだとそんなに広い練習場でなくてもいい、という両方がうまく共存できるような練習場ができると嬉しいという話をしました。オープンスペース、あれだけ広い場所なので、オープンスペースの活用というのは、区民文化センターを考える時に一緒に考えてほしいと話しました。普段屋根つきの広場があれば、ふらりと来た人たちもそこで昼食が食べられる。区民文化センターの中ではないかもしれませんが、全体を考える時に、広場の機能をぜひ検討していただきたい。情報発信については、今我々は紙媒体でやっていますが、若い世代はSNSです。われわれの頃は紙媒体を作るにもホームページをつくるにも技術が必要でしたが、今はもうFBはほぼ誰でもやっている。広報の手段もどんどん変わっていく。区民文化ホールの中の広報も、もともと幅の広い発信の仕方ができる新しい時代に期待しました。隣に立派な歴史博物館がありますが、そこが持っているいろいろな機能もうまく活用する。市民は意外とその中身を知らないで、今歴史博物館でやっていることを知り、講堂をうまく使ったりとか、一体となる文化という概念でくれば、そういう勉強も進むではないかと話しました。図書館の話も出ました。図書館については「図書館」というのではなくて、文化センターにふさわしいような情報コーナーであれば、図書館の機能と文化ホールが共存できるような場所にできると嬉しい。プロもアマも両方が使えるような、小規模であっても機能が高機能のもの、例えば、舞台の幅は狭くても奥行きがあるとか、裏の動線もしっかりと作ってもらう。使いやすい小ホールであればきっとプロにとっても、小さな作品の発表のためにはいいのではないかなと思いました。新しい時代の区民ホールの企画集団ができないかということで提案します。指定管理者も自主事業をやりますけれど、例えばアートNPOのような裏方が、区民が主体で企画をしていく。ギャラリーや舞台の裏方というのは、今職業としてはなかなか成立しないということもあるのですが、若い世代には、舞台のことを一生懸命専門学校で勉強している人がいっぱいいることをこの間知りました。若い世代は、他の職業に就いたとしても、もうひとつのジャンルで働くというのが若い人が多いようで、ボランティアではなくて、プロの技術を勉強してきた若い人たちが入ってくれるような企画集団ができると面白いなと勝手に思っています。最後に社会包摂の概念。社会包摂というのはこれからいろいろな世代、障害のあるなし、あるいは国の違い、多様な価値観を認め合ったかたちでやっていかなければいけない。アウトリーチにしても学校にしてあげるのではなく、ここにすれば自然と垣根のない交流ができるようなそういう場所になると素晴らしい。それを区民文化センターが持つ機能として、活動する人たちがそう思

って活動することで、また新しい組み合わせや融合が生まれる、といった幅を持った活動がこれから求められるのかなど。我々は考えてこなかった概念ですが、新しい時代の区民文化センターが、都筑の中にはそれだけ多様な人たちがいますので、垣根のない交流ができる拠点になれば嬉しいと思って議論しました。

星空のコンサートの運営をやっております。普段は夢スタジオのスタッフとして夢スタジオにおります。

その場所で、今皆さんが練習している稼働率というのは、ほぼ95%で、空くひまがないほど市民の方たちが使っています。ですから文化センターができたならそういう方たちの練習場となるよう、ぜひぜひ皆さんに気持ちを汲んでいただいて、そんな文化センターをつくって頂きたいと思っています。



会場からご意見はありませんでした。

その他ふせんに書かれた意見

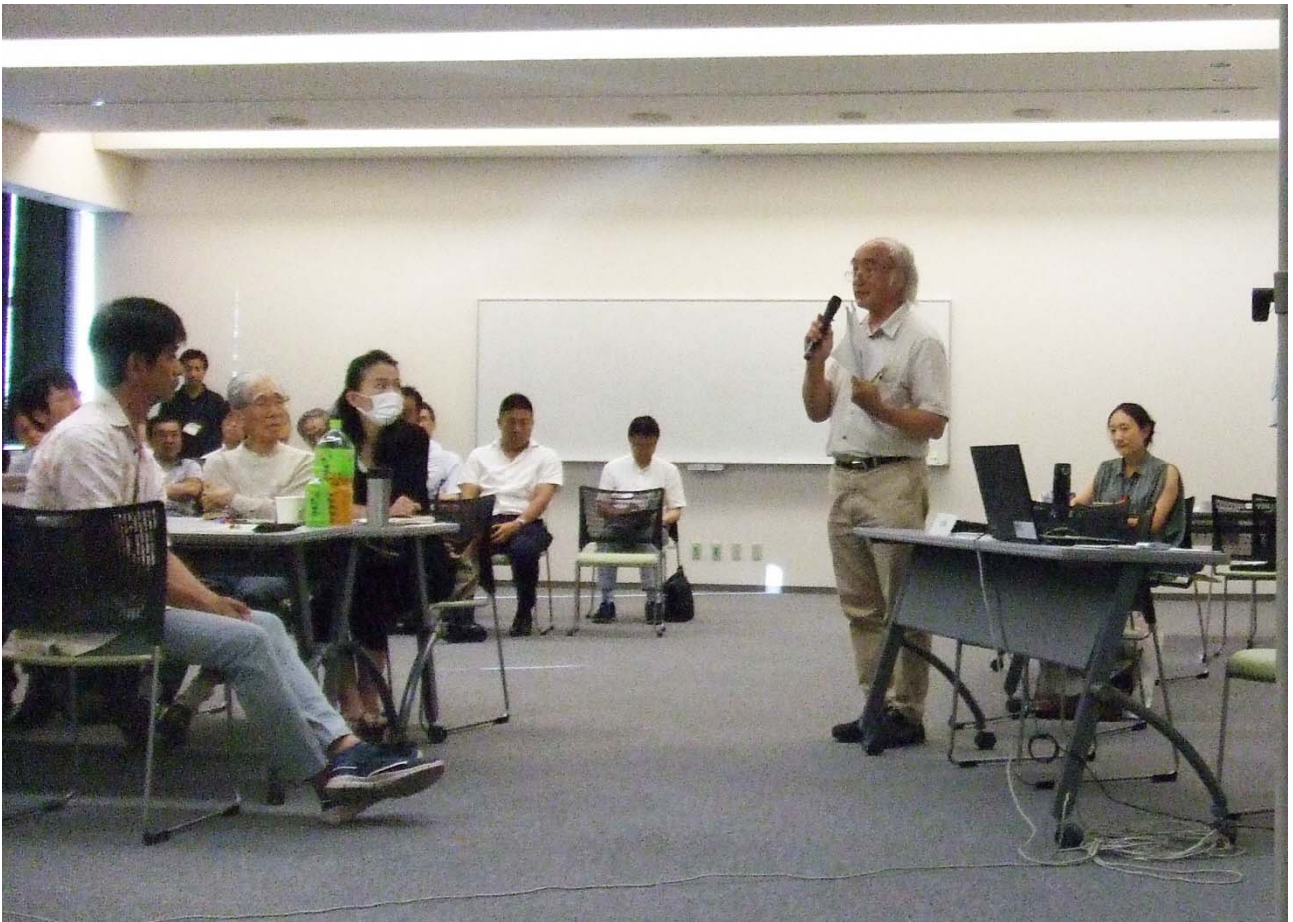
- ・若い世代の価値観が生かせるまち・誰もが気軽に参加できるように
- ・楽しく伝統・文化・歴史を実感できるまち
- ・自然あふれるまち・みなきたウォークからのつなぎ
- ・専門性の高い人が子どもたちに教える場
- ・アマも地域のプロも活動できる場
- ・ハードルを下げてどんな人でも来れる場
- ・映画は歴史博物館の講堂を利用
- ・区民文化センターに早渕川の博物館を設置
- ・つづき地産地消カフェ



その他意見（自己紹介カードより）

- ・長期的な視点に立った運営を
- ・区民が優先的に利用できることが何より希望ですが、費用がかかりすぎないことも願いです
- ・建設までスピード感を持って進めてほしい
- ・商業施設の中に区民文化センターがあると、周辺の商業地との競合でシャッターフロアになってしまう恐れがある。独立してあるほうがよい。
- ・さまざまな文化に関わる人が、知り合い交流できるような、分断しないオープンな空間の仕掛けを
- ・都筑の郷土がわかる部屋をつくってほしい

◆まとめ



みなさんお疲れ様でした。非常にたくさんのご意見、ご要望も含めて出させていただきました。どのようなことが議論されたのかを簡単にお話させていただきます。

どんなまちにしたいかというのは、皆さんが個別の文化活動をやってきて日頃から感じておられる結果であり、公会堂やいろいろな文化施設を利用する中から生まれた、こういう施設が不足しているのほしい、あるいはこういう設備がほしいというご意見だと思います。

施設の機能とか内容に関するご提案が今回は区民文化センターということもあってたくさん出されましたので、これから整理をしないといけないと率直に感じました。やはり最終的には「都筑らしさ」をどう区民文化センターの中に盛り込んだ施設をつくるかということが大事になると思います。

舞台芸術系のご意見だと大きな施設もほしいという話もありながら、少し小さなホールをつくって、日常の練習機能を充実したものにするのか、大人数が収容できる大きなホールで高度な芸術鑑賞ができる施設を中心にいくのか、そこは両方考え方が出てきたという印象を今日は持ちました。

その一方で設備については、公会堂でも意外と音響の質が悪いというご意見もアンケートなどでも出ていますけれど、やはりホールの音響のよさだとか、ギャラリーでは照明など高機能の設備は最低条件だというご意見が出ていました。

規模の問題もありました。大きな展示スペースをつくって小さく区切っても利用できるという、限られた空間の利用の仕方についての考え方も出されました。それは今後大きな問題の一つと思います。ホールの規模については、大規模なものをというのも 3,000 m² という基本的な枠組みの中では難しいけれども、リハーサル室の考え方とリンクをさせるような形で、質の高いホールをつくるというのも一つの道かなと思います。これは今後検討委員会の方でも充分議論をしていただく内容となります。

施設全体に対しての問題提起、ご意見では、例えば搬出入の入口をどこにとるか、歩行者側をメイン入口にして、幹線道路のほうは自動車の搬入口という区分けが必要というご意見もありました。カフェ機能の提案も各テーブルで幅広くありましたが、ロビーに併設されるようなものか、一部屋つくるとその分他の機能が削られることとなりますので、いっそのこと商業業務施設の中に併設されるとなれば、その機能の分はそこに預けてもいいのではないかというようなご意見なども出ていました。

全体デザインに関わる話では、3,000 m² の施設の中だけで完結するのではなく、広場とか野外ステージなど、敷地利用のあり方と関連付けた計画もすべきだというご意見も出されましたので、そのあたりをどのように盛り込めるかが課題となります。周辺にある歴史博物館との役割分担、連携をどこまでどういう形で進められるかということも皆さんの発表にあったとおりです。

また、例えば外に電光掲示板で、中でやっていることを流して集客を図るとか、あるいは今日やっているホール情報を外にPRできないかといった提案もありました。施設内でつくるのか、併設された商業業務施設でつくってもらうのかという問題もありますが、いいアイデアです。

いずれにしても外観については、ランドマークになるようなものをつくるべきではないか、また、森の中にいるようなことが実感できるようなつくり方など、この都筑の特性を反映することも非常に大事ではないかというご意見もありました。

そういうハードの問題に対して、ソフトの面では、区民主体の企画運営ができるような団体をつくる、あるいはファンクラブのようなものをつくって、区民あげて取り組めるような運営が非常に大事ではないかということ、利用時間や搬出入の時間のずれを考慮した開館時間の設定も工夫をする必要があるのではないかというご意見がありました。

情報発信のところでは、「FM都筑」のようなものを新たに作ってそのスタジオ第 1 号をここにつくる、あるいは隣接したところにつくる、そして都市大などと連携を進めてみるというご意見がありました。また、図書館機能そのものをここに導入するのは難しいけれども、文化に関わる専門性の高い機能として整備しつつ、情報発信機能を強化していくべきというお話もありました。

今日皆さんから出されたたくさんのアイデアやご意見は、整理をしたうえで皆さんの方にもお戻ししますけれど、委員会の方にも提示をして、議論の素材として密度の高い検討を進めていただきます。ありがとうございました。

話し合った項目	アイデア、意見（発表、ふせん、自己紹介カードから）
都筑区をどんなまちに	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かで、安全で楽しく歩けるまち ・楽しく伝統・文化・歴史を実感できるまち ・多様なコンテンツを持つまち ・区民が主体的に参画できるまち ・年代を超えて交流・活動ができるまち ・若者が集えるまち ・若い世代の価値観が活かせるまち・誰もが気軽に参加できるように ・多世代がバランスよく住めるまち。人と人とがつながっていくまち ・子どもが住みやすい、子どもを育てやすい、子どもたちがまたこのまちに住みたいと思えるまち ・防犯につながる明るい街並み、安心・安全明るい都筑区
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・文化を推進してきた人のこころ、気持ちを伝えていく ・老若男女が常に集まっているような、催し物がないときには人が来ないというのではなくて、やっていないときも人が集まってくるような場所 ・用がなくても行く場所がある、グループにとっても個人にとっても居場所となるように ・さまざまな文化に関わる人が知り合い交流できるような、分断しないオープンな空間の仕掛けを ・年代、世代を超えて情報や知恵を共有し、学びあえる場所 ・あらゆる人たちがあらゆる場所から集まって来て、あらゆる学びが生まれる場所 ・自然と垣根のない交流ができるようなそういう場所（社会包摂の概念） ・ハードルを下げてどんな人でも来ることができる場 ・障害者も参加しやすい施設 ・専門性の高い人が子どもたちに教える場 ・アマも地域のプロも活動できる場 ・地元の活動を支える場所 ・バラエティに富んだイベントができ、多様な文化芸術に触れることができる ・美術と音楽がコラボできる場所に ・何をやっているか見えるように区切り過ぎない ・演奏者と観客と一緒に楽しめる交流拠点に ・都筑区民文化センターを創造都市の拠点に ・定期的開催されるワークショップのプログラムづくり・幅広い年代が楽しめるカルチャーセンター ・自然あふれるまち・みなきたウォークからのつながり ・区民文化センターを中心に文化ゾーンをつくる。文化ゾーンと名付けて、文化が行き交う、その真ん中に位置 ・このまちの顔に。ホール自体がシンボルのようなもの

<p>こんな区民文化センターで活動したい（ハード）</p>	<p>①ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1,500 席くらいのホール 北部の拠点となるような大きなホールが必要 ・ 学校単位で足を運んで、子どもたちに芸術を見てもらって触れさせる機会を（1,000 人～1,200 人規模のホールを） ・ 合唱コンクールとかブラスバンドの発表を学校単位でできる規模のもの ・ 本物が呼べる舞台、劇団四季が呼べる、世界一流のアーティストが呼べるような大ホール ・ 舞台の後方が開いて外が見えるような、オープンエアーのステージ ・ 奈落がほしい ・ 寄席ができる小規模な演芸場を ・ あらゆる演出が可能な設備 ・ 300 席のキャパをできるだけ可動式のものにして、フラットでイベントできるように。客席の人数によってせり上がってくるようにする。バラエティに富んだイベント、多様な文化芸術に触れることができるように ・ 舞台総合芸術ができる、最低 600～1,000 人入るホール ・ 客席はバリアフリーで ・ 本を読みながら音楽が聴ける ・ 客席はフラットではない方がよい ・ 大ホールと小ホールの二つがほしい ・ 小ホールならば天井高がほしい ・ 会場探しが大変なので小ホールも数がほしい ・ 大きなホールではなくてもクオリティが高い 小規模であっても機能が高機能（150 人規模くらいが使いやすい） ・ 舞台は奥行きを十分とり、バトンの数を多く、袖を広くしてほしい ・ 美術バトンは 3 本以上ほしい ・ 床が汚れてもいいホール、油絵、彫刻などができてもいい ・ 珈琲やお酒が飲めるコンサートホール ・ 何をしているか見えるオープンホール <p>【楽屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽屋の数は多くしてほしい ・ 地下（舞台下）に会議室のような控え室 ・ 裏方のトイレなど出演者のバックヤードの充実
	<p>②音楽ルーム (リハーサル室)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台と同じだけのスペース（簡単な発表会などもできる） ・ 地下にリハーサル室を（例えば、300 席ホールに対して 300 席のリハーサル室）
	<p>③ギャラリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全部間仕切りを取れば大きな空間（230～240 m²）にできる。大きな空間を多目的に区切れるように、可動式のできれば電動のパーテ

	<ul style="list-style-type: none"> ・イシヨンがほしい ・100点以上の展示が可能のように。あざみ野アートフォーラムのようなギャラリーが理想 ・老若男女、障害者の方が一緒になって展示できる ・書道やパッチワークなどの大きな作品を天井からつるせるようなしつらえ（高い天井） ・吊ったり架けたり以外にも展示物を置いて見せるということも多数あるので、椅子や机が40台は必要 ・ちょっと腰掛けて観たいという人がいるため、休憩用の背もたれのないような椅子が必要 ・動かせるような照明、スポットライトを当てられるような照明 ・備品などを収納できるある程度のスペースの部屋 ・飲食ができるようなちょっとした控え室 ・プロでも使用できる設備 ・電気容量を確保してほしい
④練習室	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でもグループでも使える練習室、活動スペース ・音楽を身近に感じていただけるよう誰でも入れる練習室 ・練習場の壁は鏡 ・練習室は夜間利用ができて、見学が自由にできる気楽な会場 ・ダンスなどの団体からすると広い練習場がほしい、音楽だけだとそんなに広い練習場でなくてもいい、という両方がうまく共存できるような練習場
⑤会議室等 (アトリエ、フリールーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自由に出入りできる図工室（アトリエ） ・いろいろな創作活動ができるフリースペース
⑥情報コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・文化センターにふさわしい情報コーナーがあり、図書館機能と文化ホールが共存できるような場所
⑦エントランス	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスを含めて小川が流れている。小川に沿ってグリーンベルトを歩いていくと奥にホールがある。太陽光が入り観葉植物が植栽できる ・子どもが自由に入れるエントランス ・開放的なエントランス
⑧トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様用の女性トイレを多く設けてほしい
⑨搬出入口	<ul style="list-style-type: none"> ・搬入口に十分なスペース（4トン車4台くらい） ・広い搬入スペース、大きなトラックが止められるスペース、そして荷下ろしをするスペース
⑩空間のつなぎ方 (動線)	<ul style="list-style-type: none"> ・搬入したらそのまま舞台と直結 ・楽屋とホワイエ動線 ・ロビーとステージの動線を迷路にしない（分かりやすいロビーからの動線）

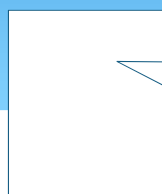
	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場からギャラリーの方につなげるような動線確保 ・舞台裏の動線もしっかりと作って
⑫施設全体（外観）	<ul style="list-style-type: none"> ・都筑区のランドマークとなる このまちの顔 ・建物の周りを森で囲んでその中に金属質な建物が建つ ・中の案内図のようなものが、外に向かってある ・緑道の図面を壁面に貼る ・歴史博物館とか、みなきたウォークに通じるような一体感を ・まちの中にあって自慢できるような素敵な建物（それ自体が文化のような） ・屋上にプラネタリウム兼用のドーム型ホール ・敷地内に点在するパオ型練習ルーム ・商業施設との複合ビルやマンションと複合された建物ではない方がよい
⑫施設全体（オープンスペース）	<ul style="list-style-type: none"> ・何も催しがないときも人が集まってくるようなオープンスペース ・規制とか禁止事項が少ないこと ・野外イベントができるオープンスペースの活用 ・何か発表ができるオープンスペース ・文化芸術に関連した本があるなど、図書スペースがあるオープンスペース ・ギャラリー・アートスペース ・真ん中に広場になるものがあれば、自然と文化活動に関係している人たちが交流できる ・オープンスペースでありながら屋根があるというアトリウム的なもの、屋根つきの広場、屋根つき野外ステージ ・緑道の中心だから、ぜひ地面の部分を残して、緑があるように
⑫施設全体（カフェ）	<ul style="list-style-type: none"> ・用がなくてもふらっと来ることができるオープンカフェ ・ホールに併設したカフェがあると都筑らしくていい ・都筑地産地消カフェ ・芸術的な本が読めるカフェ
⑫施設全体（ライブラリー）	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ図書館をホールに併設 ・文化センターにふさわしいような情報コーナーであれば、図書館の機能と文化ホールが共存できる
⑫施設全体（その他）	<ul style="list-style-type: none"> ・建物にはお金をかけず設備にかけてほしい ・簡易の宿泊施設（レジデンスステイができる） ・単館施設を望む ・商業施設の中に区民文化センターがあると、周辺との競合でシャッターフロアになってしまう恐れがある。独立してあるほうが良い ・複合施設なら図書館機能がほしい ・1フロアを図書室、学習室としてほしい ・区民文化センターに早渕川の博物館を設置

		<ul style="list-style-type: none"> ・都筑の郷土がわかる部屋をつくってほしい（日本の文化・歴史に子どもが接することができる場所） ・建設までスピード感を持って進めてほしい
こんな区民文化センターで活動したい（ソフト）	a.施設利用（貸館）	<ul style="list-style-type: none"> ・開館時間は、利用時間と搬出入の時間を分けて考えてほしい（その日のうちに搬出入できれば利用しやすくなる） ・区民が優先的に利用できることが何よりの希望、費用がかかりすぎないことも願う
	b.情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・電光掲示板で、外を歩いている方に、催し物のお知らせを ・FM横浜のサテライト ・運営する人と情報発信こそ命。FM都筑、都市大学に情報メディア学科があるのでその研究室と一緒にサテライトスタジオ、中央大学付属の中高生もいるので、放送部に来てもらって、ライブ放送の勉強 ・区外、東京あるいは海外、そういうところへ発信ができることこそ都筑区らしい ・幅の広い発信の仕方（SNSの活用など）
	c.鑑賞事業	<ul style="list-style-type: none"> ・本物に触れる機会を
	e.次世代育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の一流と子どもが接することができる場に
	g.連携機能	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史博物館との連携・センター北駅～歴史博物館～遺跡公園～区民文化センターの野外展示 ・歴史博物館が持っているいろいろな機能もうまく活用する ・映画は歴史博物館の講堂を利用
	j.その他	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的にイベント企画、運営の予算がつくように ・トリエンナーレ的なイベントの開催 ・一発イベントだけでなく継続した大小のイベントを ・いろいろなジャンルの音楽のコラボ企画「音楽でもっとつながろう！」 ・祭りのよさも参考に、毎年、大きなイベントができるように ・都筑の文化 夢スタジオを拡大した事業を継続してほしい
	k.区民主体の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・区民の視点に立った、できる限り自由を尊重する運営側の体制 ・文化活動を有機的につなぎ活性化するための文化事業団をつくってほしい ・住民も参加したいろいろな分野の組織による事業団をつくってはどうか ・区民が主体で企画をしていく区民ホールの企画集団 ・ファンクラブが企画する拠点 ・施設を運営する（NPO等）と協力関係、提言ができるグループ（施設ファンクラブのようなもの）が正式にできることを望む ・市民感覚を生かした区民文化センターに ・長期的な視点に立った運営を

		<ul style="list-style-type: none">・多世代を呼ぶには多世代が運営側にいる必要がある・音楽学校の生徒さんたちが、音響などを担ってくれる・単なるボランティアではなくて、プロの技術を勉強してきた若い人たちが入ってくれるような企画集団
--	--	--

当日の資料を一部修正（著作権を伴う写真等を削除）しています。

13時スタート。
自己紹介カードにご記入
しながらお待ちください。



- お名前、
- 現在の活動内容
- 今日、言いたいこと！ など

区民文化センター について考える アイデアミーティング

8月6日(日)13時～17時
都筑区役所 6階大会議室

本日のプログラム

《13時スタート》

- 1 区役所からの情報提供
- 2 「なぜ区民文化センターをつくるのか」
・・・文化観光局 鬼木主任調査員
- 3 グループワーク①
・・・休憩・・・

《おおよそ15時くらい再スタート》

- 4 グループワーク②
- 5 発表
- 6 本日のまとめ

1 区役所からの情報提供

新たな文化施設の実現に向けた進捗状況

ようやく、
都筑区の文化施設整備に向けた検討が
はじまりました。

検討している文化施設は、
「区民文化センター」です。

検討を進めている場所



新たな文化施設の実現に向けた進捗状況

- この7月から、
『**基本構想検討委員会（市の附属機関）**』
- ・コンセプトや
・大事にする機能、施設構成など
『**基本構想**』について11名の委員の皆様
に、ご議論いただいています。

今回のアイデアミーティング

皆さまのアイデアを
「**基本構想**」の参考にするため、
基本構想検討委員会へ届ける。

構想の段階から、
参加できる機会を。

文化を通じて、
出会い、話す機会を。

↓
都筑区ならではの活用。
区民発意による新たな文化の創造。

区民文化センター基本構想の スケジュール

- **基本構想**は、
29年11月28日第4回委員会で、
まとめていただく予定。
- ※基本構想検討委員会の内容は、
「区文ニュース」等でご確認いただけます。

この土地全体はどうなるの？



土地全体の活用

- 土地全体は、民間事業者からの提案を受けて、**活用内容と事業者を選考した上で、選定**します。
- 「区民文化センターの整備」は、提案を受けるにあたって、市から民間事業者に提示する**前提条件**となります。

※「区民文化センター」を含む土地全体の活用内容を民間事業者から提案を受けることとなります。

土地全体の今後のスケジュール

- 29年度 ①区民文化センターの
基本構想検討
②土地全体の公募要項作成
- 30年度 ①土地全体の事業者公募
②事業者選定
- 30年度～ 設計、工事、竣工

※当日の資料を一部修正しています。

区民文化センターの 「標準的な機能」

区民文化センターとは

- * 「**地域に根ざした個性ある文化の創造に寄与する**」ことを目的に設置している文化施設
- * **区民に身近な地域の文化活動拠点として、区民の文化芸術活動やまちづくりに貢献**するもの

本市文化施設の種類

専門文化施設	横浜みなとみらいホール、横浜美術館、横浜能楽堂など
市域文化施設	市民文化ホール（関内ホール）、市民ギャラリー、市民ギャラリーあざみ野など
地域文化拠点	区民文化センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 区民が身近に文化芸術を鑑賞、活動の場を提供 ・ 文化芸術活動の普及啓発、アウトリーチ活動、人材育成 等

公会堂と区民文化センター

公会堂 ※都筑公会堂： 3,136.11㎡	多目的な集会施設（市民の集会、その他各種行事のために設置） ・ 貸館としての施設提供 【参考】都筑公会堂の講堂は600席、音響反射板有り
区民文化センター ※約3,000㎡	地域の文化振興の拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 貸館に加え、鑑賞や創作、体験等の自主企画事業、アウトリーチを実施 ・ 文化芸術の普及・啓発を担う。専門人材が常駐し文化活動への相談にも対応

ホール

コンサートや演劇の上演など

多機能ホール(緑区・みどりアートパーク)



(磯子区・杉田劇場)



音楽系ホール(東区・リリス)



演劇系ホール(東区・テアトルフォンテ)



音楽ルーム(リハーサル室)

小編成の音楽・ダンス等の練習・発表など

音楽ルーム(大スタジオ)(東区・リリス)



リハーサル室(青葉区・フィリアホール)



音楽ルーム(神奈川区・かなっくホール)



リハーサル室 愛称:コスモス(磯子区・杉田劇場)



練習室：3室程度

少人数の音楽練習など

青葉区・フィリアホール 練習室2(アップライトピアノ) 戸塚区・さくらプラザ 練習室2(ドラムセットほか)



鶴見区・サルビアホール 練習室1(アップライトピアノ) 練習室2(ドラムセットほか) 練習室3(ドラムセットほか)



ギャラリー

美術作品の展示など

神奈川区・かなつくホール 鶴見区・サルビアホール



港南区・ひまわりの郷



会議室：2室程度

創作ワークショップ・講座など

磯子区・杉田劇場 会議室A+B



鶴区・みどりアートパーク 会議室A+B



情報コーナー

パンフレット・書籍など文化芸術に関する情報提供

磯子区・杉田劇場 青葉区・フィリアホール



旭区・サンハート



文化事業の企画・実施

自主事業、相談・育成、アウトリーチ等の文化活動支援など

旭区・サンハート(歌deライブ)

港南区・ひまわりの郷(鑑賞) 泉区・テアトルフォンテ(いずみ歌舞伎) 磯子区・杉田劇場

都筑区区民文化センター

区民文化センターに備わった
「標準的な機能」

↓

皆様の発想と行動で、

**都筑区ならではの活用。
区民発意による新たな文化の創造。**

皆さまがこれからも「住み続けたい」と
思える都筑区づくりに、

「文化」の力でできること、
共に考えていきましょう！

2「なぜ区民文化センターをつくるのか」

文化観光局文化振興課
施設担当課長(主任調査員) 鬼木 和浩

グループワーク

テーマ①
未来に向けて
どんなまち(都筑区)に
していきたいか

テーマ②
(区民文化センターに)
自分はどうかかわれるか

3 グループワーク①

- A 舞台芸術系
(ホール・リハーサル室など)
- B 美術創作系 (ギャラリーなど)
- C 文化事業の企画・実施

3 グループワーク①

進行役の皆さま、よろしくお願いいたします。

3 グループワーク①

グループの中で、

「自己紹介カード」を用いて、
1分で自己紹介

3 グループワーク①

14:45まで

テーマ①

未来に向けて、どんなまち(都筑区)にしていきたいか

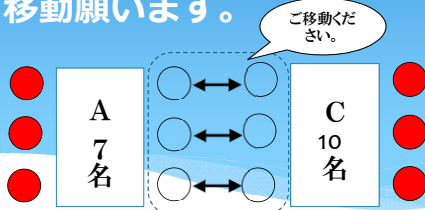
テーマ②

(区民文化センターに)
自分はどうかかわれるか

休憩 15:00まで
お茶をどうぞ

4 グループワーク②

進行役(●)以外の方は、
別のグループ(C⇔A, C⇔B)
にご移動願います。



4 グループワーク②

進行役の皆さま、よろしくお願いいたします。

4 グループワーク②

グループの中で、

「自己紹介カード」を用いて、
1分で自己紹介

4 グループワーク②とまとめ 16:00まで

テーマ①

未来に向けて、どんなまち(都筑区)にしていきたいか

テーマ②

(区民文化センターに)
自分はどうかかわれるか

まとめの時間です。
16:00まで

5 発表

6 本日のまとめ

次回の アイデアミーティング

- 9月10日(日)
都筑区役所 1階多目的室

⇒本日お申込みいただけます。

当日の資料を一部修正（著作権を伴う写真等を削除）しています。

区民文化センターについて考える
アイデアミーティング

「なぜ区民文化センターをつくるのか」

日時：平成29年8月6日（日）13時
場所：都筑区役所

文化観光局文化振興課施設担当課長（主任調査員）
鬼木和浩

なぜ都筑区に
区民文化センターを
つくろうとしているのでしょうか？

地域で文化活動を行うことで、
自分たちのまちを手に入れるため

なぜ文化活動が
自分たちのまちを手に入れることに
つながるのでしょうか

横浜市の区民文化センターの構想は
昭和60年（1985年）までさかのぼります

横浜市文化基本構想（1985年・昭和60年）基本理念1
地域に根ざし、自然と調和した個性ある文化をつくる

これからの横浜が21世紀に向けて豊かな市民社会として発展し続けていくためには、今までの都心部に重点をおいた街づくりや文化活動から、地域の個性や文化的風土を大切にした街づくりや文化活動を展開していく必要がある。

地域にこそ新しい文化創造のエネルギーがあり、日々その個性が育っているからである。そしてそれがまた横浜市全体の文化や街づくりに新たな個性を加え、市民のエネルギーを活性化していくことにつながるであろう。

自分のまちが個性ある存在となることで
愛着や誇りを醸成

横浜市文化基本構想 基本理念2
市民の主体性を活かした市民・企業・行政の共生による文化をつくる

文化とは、もともと人間がつくりあげるすべてであり、その土地に住む人々が生活の中で、幾世代も超えてつちかかってきた伝統でもある。従って、文化それ自体は、市民一人ひとりの自主性によって営まれるべきものである。

行政は、そうした市民の自由な文化・創造活動についての問題提起や動機づけ、文化活動の場や機会の提供などの条件整備、さらには、文化的な生活環境づくりを最大限に推し進め、支援する必要がある。

文化をつくるのは市民自身

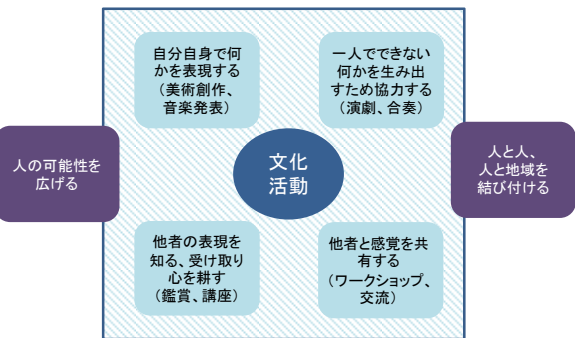
自分のまちが
個性ある存在となることで
愛着や誇りを醸成

文化をつくるのは市民自身

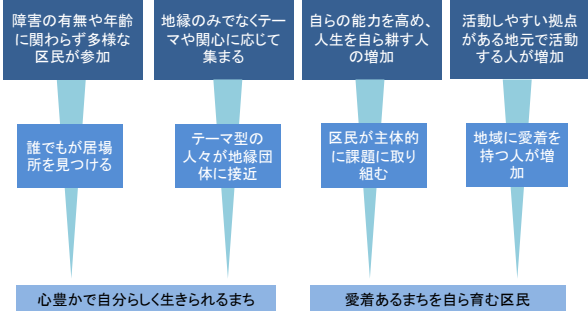
区民文化センターを構想

なぜ文化活動なのか

文化活動の特徴



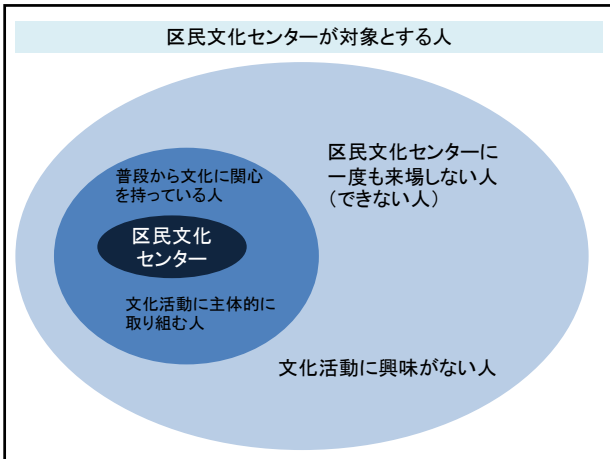
区民文化センターでの様々な文化活動



区内

区外



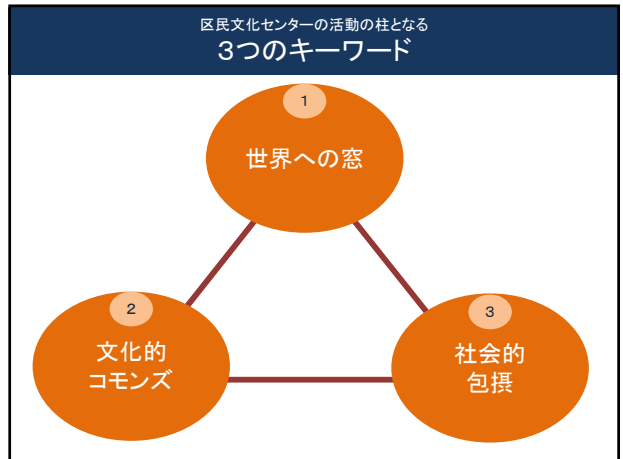
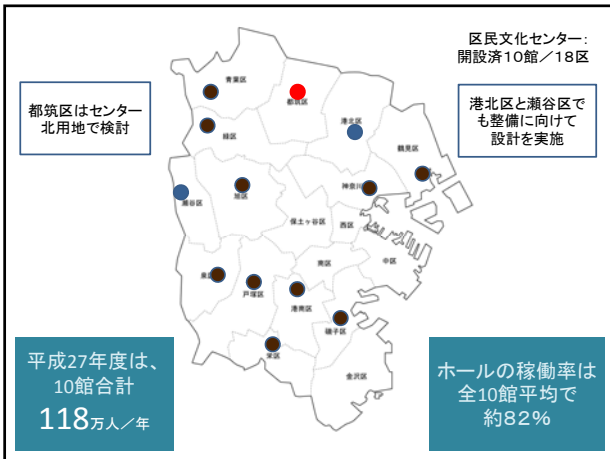


平成2年に第1号を開館して以来、平成25年度までの23年間をかけて

10館を整備

旭H2→青葉H5→泉H5→港南H9→栄H10→神奈川H16→磯子H17→鶴見H23→戸塚H25→緑H25

主に駅前開発事業を契機に整備



1 世界への窓

鶴見区民文化センター サルビアホール 弦楽四重奏演奏会

栄区民文化センター リリスギャラリーでの展示の様子

世界の多様な表現に接することで、人間精神の無限の可能性に気付く。

1 世界への窓

文化の体験によって、自分自身の新たな一面を知り、成長する。

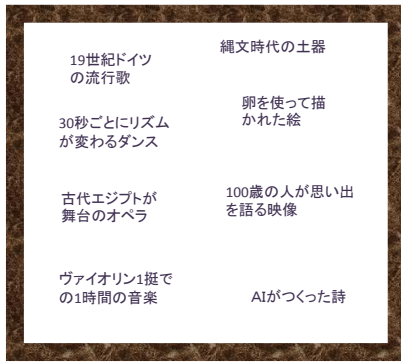
鶴見区民文化センター サルビアホール アート作品のワークショップ

子どものための芸術の学校 戸塚区民文化センター さくらプラザ

磯子区民文化センター 杉田劇場 練習室

1 世界への窓

文化は、世界に開かれた窓である



多様な表現や価値観に触れることができる

2 文化的コモンズ

コモンズ

入会地(共有地)
(例:森、漁場等)

2 文化的コモンズ

文化的コモンズ

区民文化センター

地区センター

町内会

地域ケアプラザ

高校の学校開放

区役所

コミュニティカフェ

商店街

公会堂

地域伝統芸能

図書館

地場産業

まちづくり団体

文化団体

神社仏閣

2 文化的コモンズ

文化的コモンズの特徴

地縁型コミュニティと
テーマコミュニティとを結ぶ

エリアは限定されないし、
成員も限定されない
(いつでも開かれ、文化以外の分野も多彩)

放っておくと、弱体化する

2 文化的コモンズ

文化的コモンズ形成の事例

大岡川アートプロジェクト(吉野町市民プラザが主催者に参画)
野外でのアートイベントを、地元町内会、こども会、アーティストらとともに開催。年間を通じて地域との関係を構築。

2 文化的コモンズ

文化的コモンズ形成の事例

小学校狂言鑑賞教室(久良岐能舞台・磯子区)
近隣の小学生を招き、能舞台での狂言を鑑賞。独特の言い回しについての解説も。

2 文化的コモンズ

文化的コモンズ形成の事例

本郷特別支援学校へのアウトリーチ(栄区民文化センター リリス)
学校へアーティストが出向いて演奏

3 社会的包摂

社会的包摂
(ソーシャルインクルージョン)

文化活動には、あらゆる人が参加できる

子ども、若者、高齢者、障害者、失業者、外国人等
あらゆる人が文化活動に参加することで、
地域で孤立しない、支え合いにつながる関係をつくる

3 社会的包摂

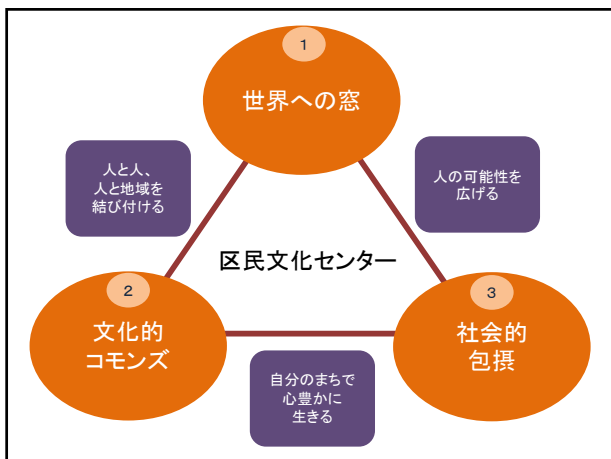
社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)の事例

横浜美術館での「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」の様様
視覚障害者と健常者が一緒に美術作品鑑賞を行う。

3 社会的包摂

社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)の事例

おやしカフェ(神奈川区民文化センター)
公募で集まった素人おやじたちがカフェでパフォーマンスを披露



区民文化センターを中心とした
様々な文化活動

地域に根差した個性ある文化を創造

私の知らない、
私らしく生きる私

ここにしかない、
私たちの都筑区

なぜ都筑区に
区民文化センターを
つくろうとしているのでしょうか？

地域で文化活動を行うことで、
自分たちのまちを手に入れるため

第2回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録

平成 29 年 9 月 10 日（日）午後 1 時～3 時 30 分 都筑区役所 1 階 多目的室（福祉保健センター内）

参加者数：29 名

◆プログラム

1. 区役所からの情報提供（別紙 1 参照）

- ・横浜市都筑区における区民文化センター基本構想のコンセプト（案）検討状況

※初参加の参加者も意識しての説明

- ・本日の進め方
- ・基本構想検討委員会からのアイデアの一例
- ・区民文化センターの標準的な機能構成関係模式

2. グループワーク

1) 3000 m²の限られたスペースの中で多様な活動を行うための

①区民文化センターの標準的な機能の活用方法としてどんな工夫が必要ですか？

②どんな施設上の工夫が必要ですか？

2) 区民の皆様の多様で多彩な活動に対応できる運営・管理体制とするためには、どんな工夫が必要ですか？

休憩

3. 発表

4. 本日のまとめ

◆資料（別紙 2 ※第 1 回アイデアミーティングの記録は前回委員会で配付したため省略）

1. 配付資料

- ・横浜市都筑区における区民文化センター基本構想のコンセプト（案）
- ・第 1 回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティングの記録
- ・都筑区 区民文化センターニュース 第 2 号

2. 各机上資料

- ・区民文化センターの標準的な機能
- ・区民文化センターの標準的な機能（写真）
- ・標準的な区民文化センター機能構成 関係模式

◆グループ発表

グループ①

みなきたウォークが近いから連動しようというのと、縦の線で歴史博物館のようにいろいろな歴史があるから、それも含めて連動しようよ、あるいはまちに開けたカフェもあっていいという意見が出されました。われわれも同感です。素晴らしいメンバーがそろいましたので、いろいろな意見が出ましたが、ある程度まとまったかなと思います。まず、課題としてあったのは、いろいろな機能についての工夫で、順番でホール、音楽ルームについて考えたのは、ホール 300 人程度について、ふと年間 50 日ぐらい土日があるわけですから、52 回ぐらいホールでイベントがあったとして、その前に音楽ルームでリハしたり練習したりする。1 回発表するには、練習を 4 回くらいする。では、練習室は 4 倍くらいいるのかなと話しました。あるいは、違う意見で、ホールで発表しなくても、練習室で普段の活動、例えば子どもたちの練習やダンスなどに、練習室は違う使い方もある。管理としてどの様な使い方をするのだ、というところから話を進めていきました。ホールについて、できれば固定席がいいと、いやそうではなくて港の見える公園のイギリス館などでは、椅子がないのです。150 席くらい素晴らしいパイプ椅子を置くのです。だったら公会堂は固定席で 600 席、こちらは 300 席利用者が自由に椅子を置くスペースであってもいいと、ただしスロープだったらいいと。ホールについては基本的に 高度な音響や照明は必要ですけれど、自由に使えるホールがあってもいいのかなと。次の音楽ルーム、リハーサル室ですけれども、小ホールとしても使えるスペースであってもいい。ホールとの違いは、床がフラットであればいい。あとはわれわれ色々な団体や、教室を運営している音楽関係の団体等も、50~60 人のお客様で発表会をしたいというニーズが結構ある。であれば音楽ルーム、リハーサル室は、あるときは小ホールとしても使えるような機能を持つて欲しい。については ホールとほぼイコールの照明、音響の機能が必要となってきます。次に練習室について言うと、25 m²とかありましたが、使い勝手をイメージして下に会議室がある練習室、会議室は色々な文化人なり地域の人が、都筑の歴史を語ったり、早淵川の歴史を語ったりするわけですが、この会議は練習室でやってもいいのでは、ここで区分けをするのではなくて、練習と会議ができる部屋が 4~5 あればいいという風に思いました。唯一の違いは防音なので、練習・会議室の一つか二つは防音で、それは小さくてもいい、バンドが練習できればいい。30~40 m²あればいい。それ以外の練習・会議室は、できれば 60 m²ぐらいで、色々な会議をしたり、練習もできる多目的スペースの方が使いやすいのではないかな。実際、夢スタジオをわれわれが運営して、非常に稼働率がいいのです。あの大きさだからです。ここで、25~28 m²等で切ってしまうと少し使いづらい。できれば 60 m²ぐらいの練習・会議室があればいいと思います。エントランスについて、この表で抜けているのですけれど、ギャラリーの話になったときに、すぐにエントランスに振りました。要は みなきたウォークに面してエントランスを設けた場合に、受けとして、そこそが一番ギャラリーにな



る。ギャラリーというスペースを設けるのではなく、エントランスをギャラリー化する。これが一番のこのスペースの工夫かなと思います。ここではカフェが敷地内にあってもいいし、高架下にあってもいい。以前から高架下にオープンなカフェテラスがある、というのはわれわれのイメージなのですが、南商業振興会さんとアイデアをためておったのですが、そこと連動しながらエントランスで迎えるという。そういう意味ではエントランスはほぼ、みなきたウォーク側に向いて欲しいというのがわれわれの希望です。エントランスをギャラリー化ということは、写真展があったり、絵の展示会など、一つの工夫として、照明が自由に天井からもってこれるような機能的な工夫だけしてもらえれば、ギャラリーとしてエントランスを使えると思っています。あと、事務室という運営上のテーマがあったので、唯一事務室については、いかに市民、区民が入るかということ。事務室ですから指定管理者を置いたら入ってはいけないはずなのだけれども、例えば、指定管理者を応募する契約書に、今流行の社外取締役、ではないが、市民、区民の「社外取締役」を。例えば公募に応募する際には、都筑区民を4人でも5人でもそういう規程を設けて、必ず市民を外部相談役とか外部アドバイザーとして設けることを、契約書に盛り込んでおけば、指定管理者はそれで応募する。今、都市みらいが公会堂を運営していますが、そこのあるスペースには、社外取締役である市民が出入りできるような状況を、はなから入れておくことで運営に工夫ができるのではないかなと思ったりしました。要は開かれた文化ホールと、あくまで日々、区民、市民で埋まっているような文化施設と考えた場合、このような切り口もあるのかなと思いました。繰り返すと、ホールがあって、音楽ルーム兼リハーサルルーム兼小ホールがあって、練習・会議室の3つのゾーンだけがある。そこは会議もあればいろいろな練習もできる一部防音のあくまでもフローリングの。広い土地への展開について、最後にはお願いですが、1.2haあって、3000㎡のプランがあるのですが、残りのスペースにも、文化的な意味あいを理解する企業、あるいは理解するような展開を考えて欲しいということを応募要項の中に入れてもらったらありがたいと思いました。あくまで要望です。

文化といえば図書館。歴史も川も図書もバロメーターなので、すぐそばに歴史博物館も早淵川もあり、そのような文化との連携もあって欲しいという意見が出ました。

歴史博物館の奥に資料館があります。ほとんど誰も行きません。われわれが思っているエントランス・ギャラリーの一番の先頭は、都筑の歴史を語るために、歴史博物館に管理をお願いするのです。このスペースは、歴史博物館から毎週資料を、週代わりで52回置き換える。エントランスに週代わりで都筑の歴史が展開される。それを5年位すれば、歴史博物館も活性化するのではないかな。区民にとって

は、こんな資料があったのだということを目の当たりにするのだから、文化施設の入り口として非常にいいのではないかと、事業としても連携するということを考えました。



その他ふせんに書かれた意見

- ・ 絵画と音楽のコラボ 使うスペースを併用
- ・ コラボがしやすい設備
- ・ ホールの集客やギャラリーなどの集客がゆるやかにつながるように全館がつながる
- ・ 着脱可能な反響板など多機能に
- ・ 会議室というネーミングではなくていいのではないかな？
- ・ 練習室を使い、いつかホールで演奏したいという夢
- ・ 夜も使える練習スペース（本番ではなく）
- ・ 情報コーナーの充実を図る 市民の求めている資料を置く
- ・ 企画図書スペース
- ・ 文化コモンズ 地域の声 オープン 定期的なミーティング

グループ②



トップバッターのグループ①にほとんど包括的に言われてしまいました、すごくかぶっています。最初に議論となったのは、文化の話だったのですが、実は防災もすごく大切な視点ではないかと。やはり文化センターができたとしても、それが防災拠点にもなるぐらいの強固な文化施設を造ってもらおう。すると、そこはまさに拠点になる。防災も文化ということで、例えば災害時にはそこに避難ができる、あるいは炊き出しもできるような給食センター

もあるというような話も出ました。防災拠点になると地元の人にとっては誰もが非常に馴染みになる。という、今まで議論したこととは違った視点で議論させていただきました。施設の中身の話では、やはり人が呼べる施設でありたいということで、エントランス、ギャラリーは一般の人がふらっと入ってくるようにということです。具体的には、エントランスでギャラリーという、これまではその場を多目的に使うことはなかったのですが、メンバーの中に照明、音響の専門家がいて、そういう施設は最初に造りこむのではなくて、持ち込むことによっていろいろな演出ができる、ということからすると、天井に吊り物ができるバトンがあり、電源が確保されていれば、いくらでも演出ができる。これは簡単でお金がかからない割にはすごく使いやすいアイデアだと思います。あとエントランスはみなきたウォークから、普段から人がアプローチできるその向きが一番望ましい。今駐車場があったり、色々なものがありますけれど、あれを取り払い、もしくは立体的に使う。ホールは2階につくって、1階にカフェとエントランスとギャラリーをつくる。今の立地のところからすると、大勢の人があそこに入って、一斉に出てくると結構混雑する。そのためにみなきたウォークの南にも北にも両方に分散させるような仕

掛けを建物と一緒に考えてもらうといいのではないかと。次に、文化センターを拠点にしたいということが望みなのですが、例えば拠点を運営するひと、指定管理者もそうですし、われわれ市民側も、こうして集まっている皆さんも横のつながりができて、そういう団体が、市民の活動の中から湧いてくるような形で、ひとづくりができるということがいいのではないかと。指定管理者の中でも、多目的に使おうとした時に、受付に相談に乗れる集団が欲しいのです。プロ的な人であっても、全くの素人であっても、こんな風に演出したい、どうだろうかということを経営に乗れるような、そういう指定管理者になるのか、われわれ市民団体の中にそういう団体が立ち上がるのか、色々形はあると思いますが、そういう相談ができる集団がいることが、豊かな文化が育っていくのではないかと思います。

ひとつおまけで、清掃が今、結構大変なので、いろいろなホールを使っていますが座席まで掃かされる清掃は都筑しかないの、コロコロでラメまで取られるホールは今都筑しかないの、清掃が楽になるような業者をお願いします。それですごく解散までの撤収に時間がとられるのです。そこが楽になるような指定管理者さんをお願いいたします。

最後に、ギャラリーもエントランスのところにといいことで話題になったのは、座・高円寺です。あそこは細かい部屋はつくらずに、大きな部屋をその目的に合わせて区切りながら使う、そのようなかたちで、あまり部屋を小分けに作らないほうが返って使いやすいのではないかと。これも座・高円寺で感じたのですが、普通エントランスのところ立派な事務所と受付があるのですが、座・高円寺の場合は受付はできているのですが、事務所は立体的に、高さのある空間の中2階にあります。そのように空間をうまく使えば、平面図だけではなくて、立体的に使うことで倉庫や事務所も納めて、その分を市民活動スペースに少しでも割いてもらうような工夫が欲しいと話しました。あとギャラリーにはぜひ、今都筑はダンスに熱心なグループが多いので、ダンスの図書だけではなくて、物品等も含めて置いて、都筑に行ったらダンスの物がみんな揃っているというような、何か特色を持ったギャラリーやアンテナショップのようなものを置いておくと、それも特色になるのかなと思いました。

最初に盛り上がった防災では、給食センターが残った部分にプラスアルファで入らないかと。横浜市は今給食がないのですが、文化センターには入らないけれど、余った部分にできると、横浜市のお母さんも助かる。何か災害があったときに炊き出しもできる、炊き出しができる施設というのは初めてのことでなるほどと思いました。アンテナショップについても、ダンス関係、体操関係の図書とか練習着とかで知られているダンス専門店がセンター北にあり、それができたことによって私たち舞台関係はとても助かっています。せっかくこういうものがあるのだから、専門的に演劇とかダンスとか、そういう文化ものがここに来れば見れるように。大学時代演劇の論文を書く時に、その専門書が近くの図書館になくて、神奈川県民図書館までわざわざ行くのですけれど、貸し出されていないなど苦労しました。この都筑に行けば専門書がある、見ることができる、専門のものが買えとなれば、劇団四季もありますし、ダンス人口も多いので、ダンス関係の人は都筑に集まってくるのではないかといい、そんなところになればいいと思いました。



その他ふせんに書かれた意見

- ・ホールは安全に避難できる場所に
- ・ホールの座席 立体化
- ・みなきたウォークへの動線処理に横断歩道の高架化
- ・ギャラリーに専門書を置く
- ・ミーティングルームは多目的の大きな部屋

グループ③

私たちのところは舞台関係の者ばかりでしたので、どうしてもホールですとか音楽ルームですとかそちらの方の話が中心だったのですけれども、ホールに関しては、イメージ的には段々(傾斜)があるので、



どうしても2層になる。2階建てになったホールのホワイエからエントランスが見下ろせるような、エントランスが吹き抜けで開放的になっていて、エントランスはみなさんが入れるようなスペースで、そこには図書コーナーですとか、本を読みながら珈琲が飲めるような空間にしてはどうか。ガラス張りでホワイエがあれば、エントランスから見上げれば、コンサートをやっていると、何か催し物をやっているのだと分かるような、そんなイメージをしました。その

エントランスに情報コーナーというのを置いて、地元の情報に詳しい人をボランティアでいていただき、そこで来た方に都筑のことを、まちのことをいろいろ説明していただけるといいなと話しました。ホールに関しては、公会堂のイメージとは違って、反響板を下ろさずに建物の壁自体が反響板になっている常設のものがいいなと考えています。舞台の方、ダンスの方も使えるようにロスコが使える、たくさん機材が使えるようにして、照明も置いてほしいです。ホールには本格的なコンサートができるように、コンサート用のグランドピアノが選べるように。ヤマハとスタンウェイの2種類選べるところが結構あるのです。プロの方も来ていただけるようなコンサートホールにしたいと思っています。ホールのホワイエは明るく日差しが射し込めるようなイメージで、いいホールでホワイエを明るくしていただけると、みんな都筑のホールはいいホールだなと思ってもらえるかなと。ギャラリーの方は、ギャラリーだけではなく、可動式の扉が開くとピアノが出てきて、ギャラリーでもちょっとしたコンサートがやっているといいなと考えました。「ここ、舞台になるじゃない」という、いろいろなところで舞台ができるような、ギャラリースペースにして欲しい。よくヨーロッパでは、展示などをする時に、バック

ミュージックライブをする、それが普通のことなのです。そういったことができるようなギャラリーであるといいなと思いました。音楽ルームに関しては、ホールが300席であるならば、リハーサル室でもちょっとしたコンサートができるように、100席レベルの音楽ルームがあり、そこはフラットで、椅子を置けばコンサートができ、そのくらいのスペースがありますと、ダンスなどのリハーサルをする時に、ホールの舞台と同じ大きさでリハーサルができる。もし舞台がほしければ、可動式の舞台を置けば舞台が作れる。そうすると舞台を大きくすれば席は少なくなり、小さくすれば席は多くなる。そのようにいろいろなものに使えるような音楽ルームであるといいなと考えました。事務室に関しては、エントランスと同じ階ですぐ横で、オープンなスペースにして、誰でも入れるような事務室にして欲しい。活動センター的な機能があればいい。活動センターよりも



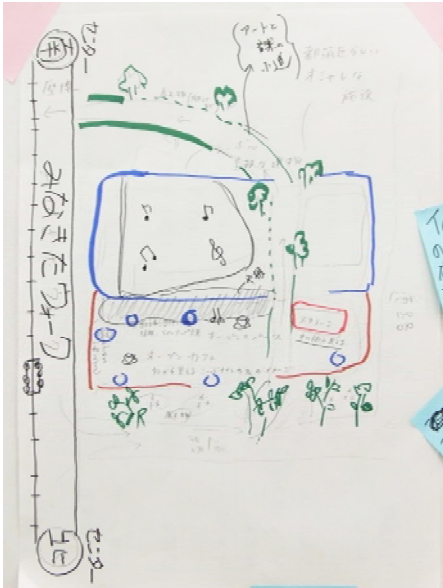
っと専門的な機能をおいて、PCが使える、ちょっとしたプレゼンができる機能などがあるイメージです。そこには密室感はなく、誰でも入れるようなオープンな事務室にしてほしいです。練習室は音楽ルームと兼ねて、大小で、ピアノがある部屋、ドラムがある部屋という風にあればいい。次に指定管理者については、皆さんのご意見と同じで、専門的知識があってアドバイスがもらえるような管理者がいいなと、味方になってくれるような指定管理者、決して敵ではないという。今までのイメージでは「敵」という感じが多かったので、ぜひ私たちの味方になってくれるような、上から目線ではない指定管理者がいいです。区民優先的な配慮をしてくれる運営をしていただきたい。自主事業など一緒に企画とか、一緒にやりましょうというような密接な関係を持てる管理者がいいです。私たちもできる限り運営に協力したいと思えるような、運営に関するオープンな情報提供をしていただきたいと思います。

その他ふせんに書かれた意見

- ・図書コーナーは、子どもや学生がゆっくりくつろげる
- ・ピアノを音楽ルームからギャラリーに移すための床などの工夫
- ・多目的で可動式のもの傷みが速い

グループ④

日ごろは都筑区のアマチュアオーケストラで代表をやっております。私たちのグループは、星空のコンサートの実行委員なので、大きなオープンスペースとカフェということで考えました。星空のコンサートがこの大きなオープンスペースで、満天の下で、できてしまえばということです。絵を描いてしまったのですが、向きに関してはみなきたウォークへ向いて、このように作り、入り口にアートと音楽の小道があり、歴史博物館に通じるという。この向きについては他のグループでもいろいろ出ていましたが、傾斜もありますし、私たちが考えたのは歩いてくる人を優先する入り口の方がいいだろうと、人と車は分けた方がいいだろうということは考えました。例えばこういう向きだとして、ここに大きなオープンスペースがあって、こちら側に建物がある。その何階になるのかよく分からないのですが、とりあえず1階にあるといいなということで、ここにはカフェとかギャラリーとかエントランスが並んでいて、そこがオープンスペースにつながられる、開放できるようなものがある、前回どこかのグループが言っていたようにスクリーンがあって中の様子がわかるものがあったり、オープンスペースに出るところには、透明な屋根なんかもあって、万が一雨でも少しはしのげる。普段はカフェとして外側で飲食ができたりということも考えられる。いろいろな設備関係も、私たちは詳しくないのですが、オープンスペースでも色々なイベントが可能に、星空のコンサートが可能に、照明が得られるとか、電源がちゃんととれるとか、そういう物が整っているということです。まわりは緑で囲んであるのですが、中は見えるようにしておく、アートと音楽の小道には彫刻とかが並べられる。建物の色々なところにそういう美術作品が飾れるようなところがあるのいいのではないかとこの絵を作ってみました。続きましてホール関係なのですが、前提的に本格的な文化芸術ということになると、やはり1000人規模でないといけないのではないことは踏まえたうえで、300人という風になると、ステージはなるべく大きいものであったり、音響設備なども本格的なものがほしいという意見がありました。その一方で、ステージも大きくしたり小さくしたりできる、客席も取り外し可能ということにも考え付くと、音響的には



はだんだん落ちていくのですけれど、そのせめぎあいかなという。もうひとつはリハーサル室にもう一つ小さなホールをつくらせるとすると、そこで機能面で一つを音楽的なものにして、もう一つを演劇的な用途に使えるようなという切り分けもある。両方ともすごい音響でという考え方もありました。あと、トイレは女性のほうは男性の2倍以上にする。お客さん側も出演者側もトイレは女性を大きくするというです。それからホールの照明や音響の専門家が必要になります。練習室には必ずピアノ、アップライトでも可能ですが、置いてある



方がいいということが出ていました。管理運営の方ですが、その指定管理者が、アートマネジメントができるような、なるべくすべての芸術について公平に扱っていただけるような、そういう人を選ぶというのは大変なことだと思うのですが、なるべくプロフェッショナルなサポートができるような人がやればと考えました。当然イベントをやるのが区民ということで、つながりを作るということも大切なのですが、区民の運営をする人たちも、色々なグループの運営もありつつさらに色々なイベントの運営もやらなければならないということで、広報だとか資金集めなどを相談できるようなことがあればいいという風に考えました。



あと、とても具体的な話で恐縮なのですが、カフェが必要なと考えた時に、都筑区ならではの特徴のある食べ物、都筑区の有名な食べ物って小松菜らしいのですが、小松菜キッシュなどどうかと、そういう特徴のある物を出せる喫茶店、あそこに行けば都筑区ならではのものが食べられる、そのようなものがあればいいなと思いました。私たちの中で一番思っていたのは、このおしゃれな小道がつながっていると、そこを散歩したり歩いたりする時に、ここに芸術の森が、ブラムスの小道ではないですが、そんな風に歩けると全体的にきれいになるのではと思っています。

最後に一つだけ、意見交換のときに一体的な開発ということを前提なのですが、ぜひこの区民文化センターの建物を、いわゆる民間の建物とちょっと区別する、独立させるというか、屋根とかそういったもので、ここに文化施設があるところを外からも分かりやすい、そういうことで象徴的なイメージが伝わるといいなと思います。これは業者の提案のときの前提条件としてです。建物の中に入れてしまうと、外観から見ると非常に分かりづらい。入ってみれば分かりますが、その面ではそれが一つの、大きな言い方をすればランドマークのような意味あいになるのかもしれませんが、まずそういう象徴的なイメージが伝わるような設計をぜひお願いしたいという感じで意見交換をしました。

私たちの中では、前提があつたのですけれど、その中でもできる限りオープンスペースの部分をうまく活用しながら、この施設を見たときに、入ってくるところも今どこか分からないのですけれども、都筑区らしいおしゃれな雰囲気をかもし出せればいいなというのがありまして、全体的におしゃれな雰囲気で出来上がって、都筑区らしさというのも出したいし、一般的に見ても素敵だと思えるような施設にできればいいと思いました。管理運営に関しても、実際に地元の方であったり、ここにおられる方も専門的な知識がおありだと思うので、一緒にできれば素晴らしいと思うのですけれど、その一方では皆さんそれぞれの団体を抱えていて、大変な部分もあるので手が回らない。なので、常駐する専門的な人がいたほうがいいのかという話と、皆さんと一緒に活動できる開けた事務所のスペースがあればいいなという話になりました。

その他ふせんに書かれた意見

- ・都筑区の文化施設をつなぐ意識のある指定管理者
- ・情報コーナーは区民文化センターのような自由度
- ・公会堂との連携機能
- ・都筑チャンネルで案内
- ・カフェの中に小さな演奏スペース
- ・外からカフェが見えてふらっと立ち寄れる
- ・区民手づくりグッズの売店

グループ⑤

私たちは9人だったのですが、その中で6人が区民文化祭の展示の実行委員ということもあって、話し合いの内容が、やはりギャラリーの方に特化しがちということもありましたので、そこを前提にお話させていただきます。今、都筑区民文化祭を1月下旬から2月の初旬にかけて、通路のようなホールでやっているのですが、そこではやはり照明の問題とか、ファンデーションとか全部人力でやっています。あとは寒さとかそういったことでいろいろと今回のセンターづくりには期待をしております、期待をこめてギャラリーでどんな設えが必要かをまず相談いたしました。160㎡で100点以上展示をクリアした上で、可動パネルも電動であってほしいと思っています。設え的には机、椅子など25から30は最低でも必要だと思います。また、壁に作品を飾るためのピクチャーレール等。そして高い天井、今は大きさの限られた物しか飾れないのですが、もう少し大きな物も展示したいという声が寄せられていますので、それを天井から飾れたらいいなと思います。暗いと1年かけて作った発表される方が残念です、可動式の照明とかスポットライトが当てられる設えが欲しいと思っております。ギャラリーは一般的には平面が多いのですが、ちょっと工夫を凝らしてスロープをつくったりとか、螺旋階段をつくったりとかして、立体的に展示ができるような設えをすると、点数も多くなり、観に来た方も楽しんでいただけるのかなと思っています。また、ギャラリー機能には、ちょっと腰をかけられるような機能があればいいと思いました。今の話はギャラリーに特化した話ですが、あとは全体の文化祭などでも必要だといつも思っている、キッズルームのような託児機能があると、お子さん連れの方などは、ちょっと子どもを預けて舞台を見たり、展示の鑑賞をしたりとかができると思っています。また、160㎡はさほど広くないのでそこで荷物を持ったりしますと展示物に触れて破損してしまったりとか可能性もあるので、荷物を預けたり荷物を置けるようなロッカーとかクローク的な機能があるといいと思っております。エントランス機能は、常に人が行きかえるような場所ということで、ここはコピー機を置いたり、バリアフリーにして、いつでも誰かが来て休憩できると、子どももそこで遊び、おしゃべりしたり、色々なグループがいろいろな目的に使えるかなと思っています。繰り返しになりますが、ギャラリー機能は160㎡以上欲しいのですが、そこもエントランスと一体化ではないのですが、できれば分割できるよう



な機能にしておいて、例えば展示が 100 点以下の場合、1/3 ぐらいを区切って、他を別のグループに使ってもらう、もしくはワークショップに使えるというような、多様に使える設えがあってもいいと思いました。そして、全体を通してなのですが、センターを考えたときに、色々な目的で自由に区民が活動できるそういった場にしたい、誰もがここに来れば、ふらっと来てもお話をしたりとか、知らない方でもお声をかけ合って、仲間づくりができるそんな場にしたいなというのがありまして、文化の押し付けではなく、区民誰でもが利用し、文化活動が自由にできる会議室、集会室はそういう位置づけがいいという意見がありました。最後に運営管理体制になりますが、なるべく市直営の、または区の管理をお願いしたいなというご意見も出されました。やはり市民とか区民の声を存分に吸い上げていただくような運営をしていただけるのは民間だと不安という声が出されました。

ギャラリーの方が半分以上占めていましたので、報告もそちらに重点がおかれましたが、私はもう少し大きな問題をどこかで議論していただきたいということです。ひとつは 3000 m²の問題ですけど、厳格に守れとはおっしゃっていない。私は 2 回の委員会もアイデアミーティングも出ています。3000 m²はもう少し緩和できないのかという検討委員からの意見が結構出ているのです。これは、われわれだけではとてもできることではないと思いますので、区の職員含めて事業者との交渉になるのではないかと



と思いますけれど、検討委員会の重要な課題であるという風に思っておりますので、ぜひそこは 3000 m²の壁を取っ払っていただきたい。1 割り増しぐらいがせいぜいかも分かりません。それは交渉次第ということにおそくなるのだろうと思いますのでぜひよろしくお願います。それから私は今都筑区の図書館問題を考える会の代表をしています。5 年くらいになるのですが、今ある図書館についてはコメントしませんが、少なくとも今の都筑区の図書館では体をなしていない。少なくとも今度の大ホール

に反対するということではありません。それを前提に話をしたいのですが、検討委員会でも意見が出たのですよ。報告は全くなかったですが、図書館がどうしても無理だというならば、少なくとも図書室くらいは作れないでしょうかという意見が出ました。エントランスの方に新聞とか雑誌を置いて見られるようにするという意見も出ていました。私は全体がどうなるかによりますけれど、つくろうと思えばつくれるのではと思っています。ぜひ 3000 m²の枠を少し超えて、40~50 人は学習し、情報を仕入れられるようなそういう部屋をつくらせていただきたいということでもあります。アイデアとしては、今もう情報化時代ですから、PC が自由に使える、Wi-Fi 機能がきくようなものにしていただきたいというのが提案です。それから 3000 m²の問題に関わりますけど、それではあの 12000 m²のうち 3000 m²の残りは一体どういう形で利用されようとしているのか全く見えてきません。これは業者との話になるのか、区側で案を出すのか分かりませんが、重要だと思うのです。その辺は区側と、どこになるのか分かりませんが間に業者と十分議論して、これも検討委員会の課題ではないかという風に思うのですが、検討委員会はそこまで踏み込めないというところがあるのかもしれませんが、残りのところをどうするのですかということです。ぜひ区民にもよく分かるように利用の仕方を考えていって頂きたいと思

います。業者にどういう人が入るのかによって違ってくると思いますがぜひオープンな情報を流していただきたいと思います。

その他ふせんに書かれた意見

- ・展示備品などの収納スペース
- ・収納スペースはギャラリーを借りている期間中使える
- ・子どもから高齢者まで利用できるプログラムづくり
- ・子どもだけでも利用できる場所づくり
- ・駐車台数を多く、特に障害者用を多く確保する。駐車料金は無料に
- ・子ども、青少年、勤労世代、退職者などが自由に使える場
- ・社会教育、生涯学習の拠点として、学習室、会議室、集会室の充実を

◆まとめ

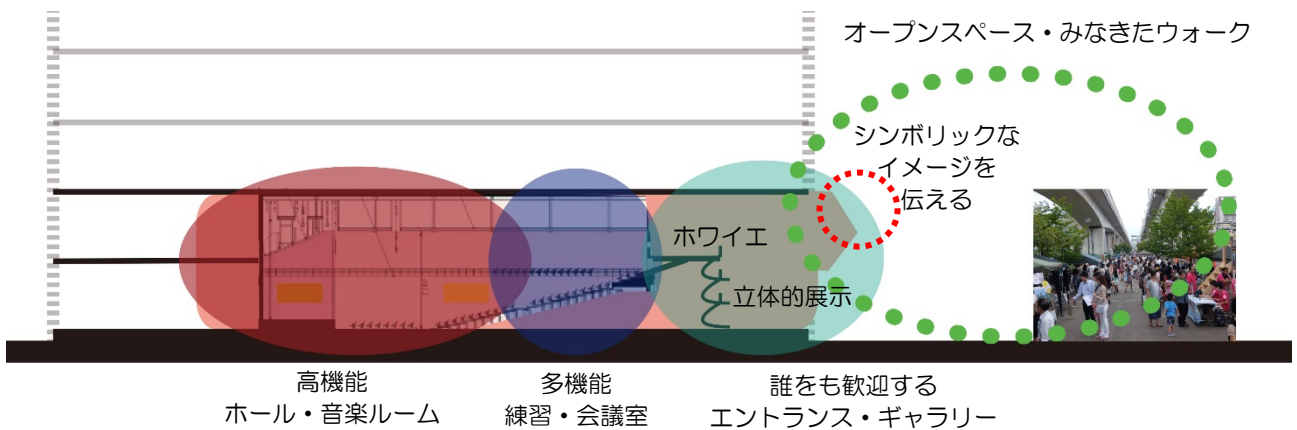
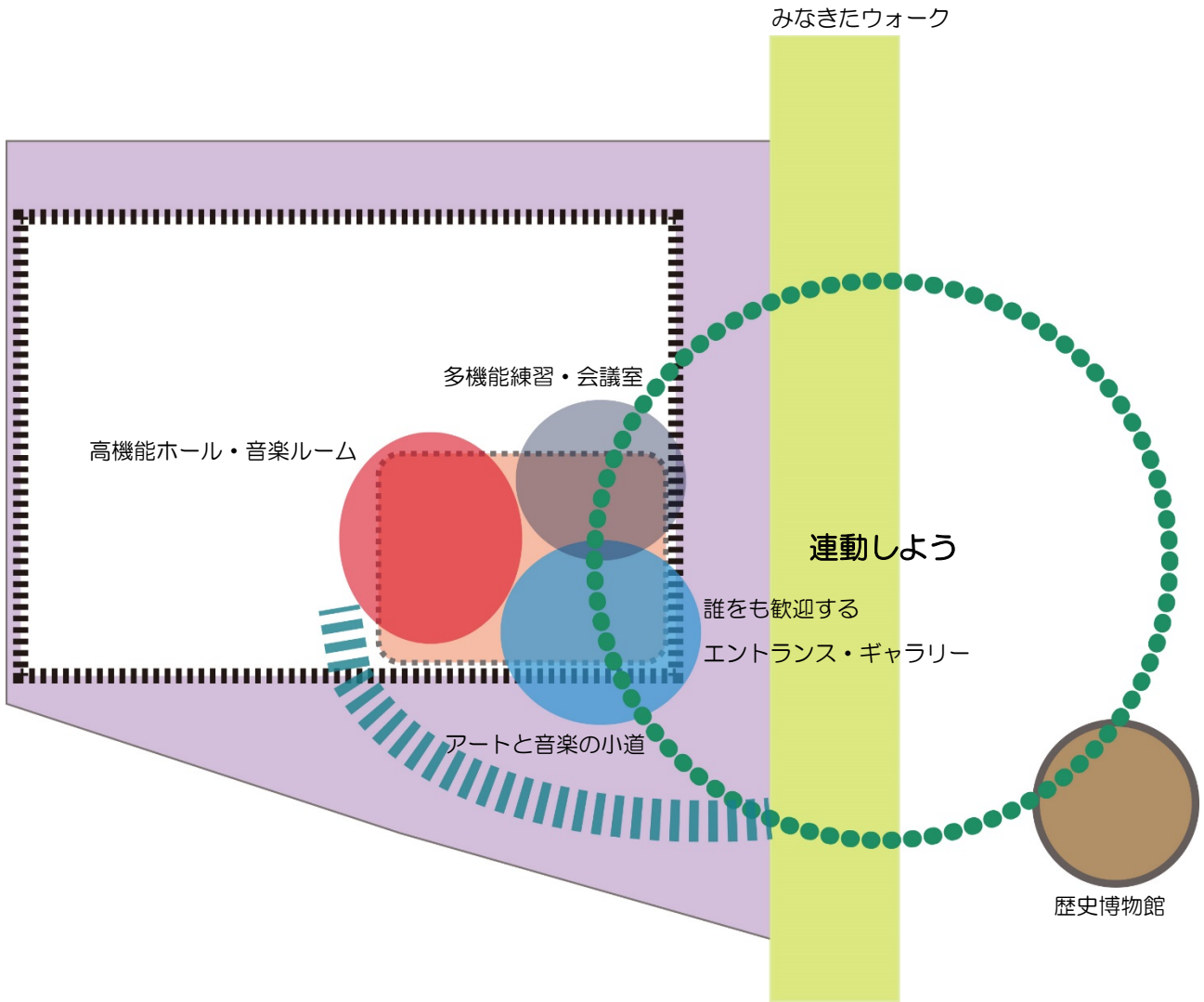


どうもありがとうございました。熱心な意見交換をしていただきました。かなり色々なご意見が出ました。施設空間をもう少し有効に使うことによって、活動に必要な機能をもっと拡充できるのではないかと、具体的なご提案もかなりされましたので、そこは大きな検討材料かなと思いました。特にメインの、だいたい 300 席程度といわれているホールについては、かなり高機能で専門性の高い専用ホールの機能を持ちながら、場合によるとイベントでも使えるようなというご意見も中にはありました。むしろ音楽

ルーム、リハーサル室については、イベントホールのなかたちで多目的に使えるようなというご意見が全般的に多かったと思います。日常利用は、やはり圧倒的に文化活動の盛んな都筑区ならでは、そのニーズに応えるために練習室だけでそのニーズに応えるというのは難しいだろうということで、完全防音の整った練習室というのは最低限の量は必要だが、会議室も練習利用ができるような、場合によっては踏み込んでギャラリーとかエントランスでも一部で色々なダンスをしたり、防音設備がいらぬものについてはそういうところでも練習ができるようなというご提案もありました。情報コーナー、図書の機能についても文化振興という話に関わると同時に、誰もがふらっと来れるような図書コーナー風の機能も持っているのではないかとご提案も含めて多様なご意見を頂いたと思います。事務室についても、基本は指定管理で民間企業がメインになりますけれど、情報提供のオープン化を含めて、もう少し区民が事業に参加をできる、あるいは企画面でも充分区民の皆さんの力が発揮できるような機能であるとか、場合によると、「居る場所」がどこかにできないかなと感じましたけれど、そのように少し踏み込んだ提案もあったところです。エントランスについては、かなり多くのところが、みなきた側で、歩

行者の道がメインのエントランスというかたちで、アートと音楽の小道のような提案もありましたけれど、歩行者が、ここが区民文化センターだと思えるような、あるいはアートの色彩も持ったシンボリックなエントランスができるというお話も具体的にありました。特に管理運営上の問題で言うと、事務室の機能だとか、あるいはエントランスだとか、情報コーナー、会議室とかギャラリーまでを、かなり区民運営的なかたちが可能な限りできるようなにできないのかということが大きな提案の一つであったと思います。これを空間の中で今後どう落とし込んでいくのかということが大きなテーマかなという風に思いました。以上色々なアイデア、ご意見がございましたので、これについても第1回のアイデアミーティングと同じように、きちんと取りまとめた上で、委員会の方に諮って、活発なご議論をさせていただこうと思っております。以上、だいぶ超過して申し訳ありませんでしたがこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

◆空間イメージのまとめ



◆施設運営のポイント

①指定管理者

- ・専門的知識があってアドバイスがもらえる、受付で相談に乗れる管理者
- ・区民で運営をする人たちの広報、資金集めなど、プロフェッショナルなサポートができる
- ・文化的な意味合いを理解し、アートマネジメントができる
- ・運営に関するオープンな情報提供

②区民の参加

- ・区民が事業に参加をできる、あるいは企画面でも充分区民の皆さんの力が発揮できるような機能
- ・区民運営的なかたちが可能な限りできる
- ・必ず市民を外部相談役とか外部アドバイザーとして設ける
- ・誰でも入れるようなオープンな事務室
- ・活動センター的な機能

③事業連携

- ・エントランス・ギャラリーの一番の先頭は、都筑の歴史を語るために、歴史博物館に管理をお願いする

◆諸室規模についての提案

諸室	室数	規模
音楽ルーム(リハーサル室)		50～60席＋ステージ、100席
練習室&会議室	4～5	30～40㎡&60㎡
ギャラリー		160㎡
(図書室)		40～50人

当日の資料を一部修正（著作権を伴う写真等を削除）しています。

13時スタート。

区民文化センター について考える アイデアミーティング

9月10日(日)13時～15時
都筑区役所 1階
福祉保健センター内多目的室

本日のプログラム

《13時スタート》

- 1 区役所からの情報提供
都筑区における区民文化センター基本構想の
コンセプト（案）検討状況
- 2 グループワーク
- 3 発表
- 4 本日のまとめ
※15時くらいの終了を予定しています。

1 区役所からの情報提供

2 グループワーク

検討を進めている場所

この土地(1.2ha)の
一部
(延床3,000㎡程度)

- 29年度 ①区民文化センターの基本構想検討
②土地全体の公募要項作成
- 30年度 ①土地全体の事業者公募
②事業者選定
- 30年度～ 設計、工事、竣工

グループワーク

- * 区民文化センターの施設規模は、**おおよそ3,000㎡**です。
- * 区民文化センターには、**標準的な機能**が決まっています。

* 区民の皆様の多様で、多彩な活動を行うためには、**柔軟性のある施設の活用と運営**をしていく必要があります。

グループワーク

1 3,000㎡の限られたスペースの中で多様な活動を行うための

- ① 区民文化センターの標準的な機能の活用方法としてどんな工夫が必要ですか？
- ② どんな施設上の工夫が必要ですか？

2 区民の皆様の多様で多彩な活動に対応できる運営・管理体制とするためには、どんな工夫が必要ですか？

限られたスペースの中で、多彩な活動を展開するためにどんな工夫が必要か？

〔基本構想検討委員会でいただいたアイデアの一例〕

※写真は全てイメージです。

例1: エントランスの活用

床をフローリングにしておく、親子室や造形活動にも

照明や壁の様を工夫しておけば、展示空間にも

新聞や雑誌などがあると、ふらっと来た方の居場所やミーティングルームにも

例2: ギャラリーの活用

床はじゅうたんからフローリングへ

シンクを用意しておく...

絵の具遊びやワークショップにも活用できます

例3: その他のアイデア

★通常、ホール内にあるパントリーコーナーをエントランスに出してみたら、ふらっと来た方も利用できるのでは？

**例4:多彩な活動に対応できる運営・管理体制
のために必要な事務室機能の充実**

★地元の皆様と指定管理者とが
つながれる、連携できる仕組みを
建物の中に組み込むことが必要

⇒そのために、「事務室」には、どんな「ひと」が、
どんな活用をするでしょうか？
そのような活用をイメージしたら、どこにあるのがい
いでしょうか？

皆様のアイデアを
お願いします。

3 発表

1グループ3分+質疑応答

4 本日のまとめ

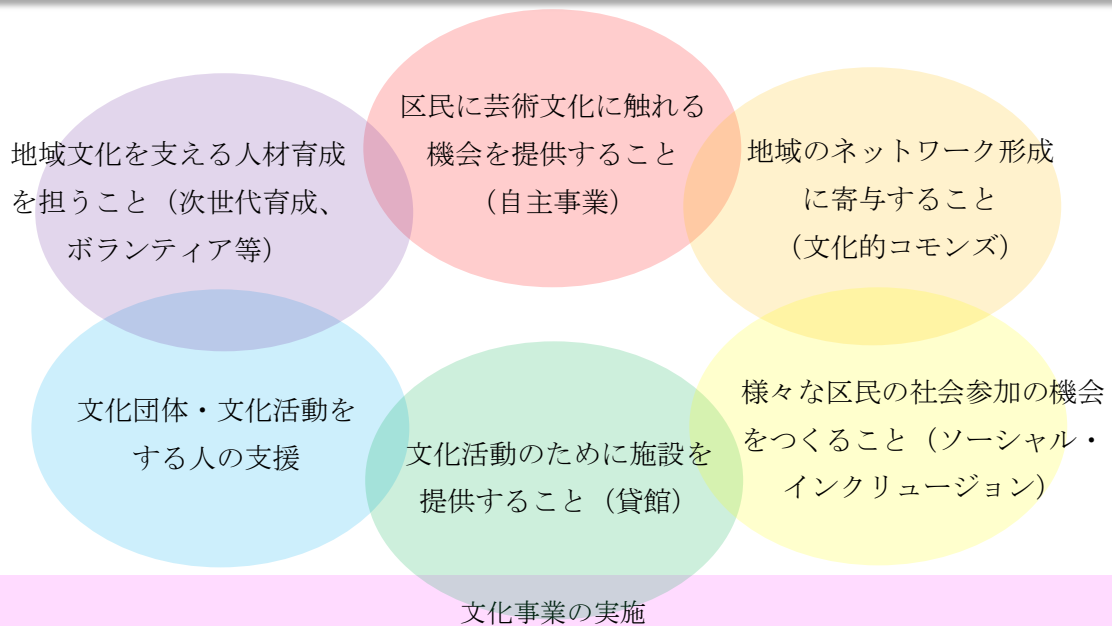
1 都筑区の区民文化センターのミッション(目指すこと)

都筑に根差した個性ある文化の創造

- ① 文化に触れる機会を、一人でも多くの区民に提供します
- ② 都筑の新たな魅力をつくります
- ③ 地域独自の文化や活動、新しい価値や表現を生み出すきっかけをつくります
- ④ 心の充実が得られるまちになるよう、区民と一緒に取り組みます

2 ミッションの実現に向けて重要な方針

多様性に対応できる、柔軟性を大切にした施設



施設利用／情報発信／鑑賞事業／普及事業／次世代育成事業／支援機能／連携機能／人材育成／調査研究

【基本構想検討委員会で出された主な意見】

- ・ 区民中心に文化を生み出す喜び、創り上げていく喜び、つなげていく喜びを大切に
- ・ 誰もが自分の活動に最適な空間がほしい。自由度のより高い施設 (ハード・ソフト) が求められている
- ・ 区民が「こうしたい」と思ったときに、柔軟に伝えていく「運営者」が必要
- ・ 建物のづくり・使い方なども、型にはめない柔軟性が必要
- ・ 利用する人たちと、それを受けとめる側の建物や運営者とのやり取りが「らしさ」になっていく
- ・ 区内の社会資源をつなぐことに積極的にかかわり続けていく
- ・ ソーシャルインクルージョン (社会包摂) = あらゆる人が来ることのできる場所にする

3 施設構成(約 3,000 m²)

【ポイント】

- 区民文化センターの施設規模は、おおよそ 3,000 m²
- 区民の皆様の多様で、多彩な活動を行うためには、柔軟性のある施設の活用をしていく必要がある
- あらゆる人が利用しやすいよう、バリアフリー仕様とする

【基本構想検討委員会が出された主な意見】

- ・ ちょっとした工夫で、その部屋でできる活動の幅が格段に広がる
- ・ ホールとリハーサル室は一体的に運営するにしても、その他を「市民活動スペース」として捉え、より多様な使い方ができるように必要な工夫を考えてみてはどうか
- ・ 搬出入口には駐車スペースを確保。ホール、ギャラリー等への搬出入経路は極力短く、シンプルにする
- ・ 文化施設にとって「劇場に来たぞ」というワクワク感を高揚させるエントランス、動線は重要
- ・ 区民文化センターは1階(低層階)に配置。みなきたウォークからふらっと立ち寄れる、自然に文化施設に入り込めるような動線に
- ・ エントランス近くに打合せができ、図書や雑誌などがあるフリースペースがあると良い
- ・ カフェなどが1階にあれば、人は自然と入ってくる
- ・ 部屋の配置の工夫次第で、窓を開放して屋外と一体的に利用するという考え方もある

4 施設運営(運営体制)

【ポイント】

- 区民の皆様の多様で、多彩な活動に対応できる運営・管理体制

【基本構想検討委員会が出された主な意見】

- ・ 指定管理者には地域と連携し、地域の中に溶け込む形で運営してもらうことが必要
- ・ 区内の社会資源、既にある施設なども含めて補完するという視点が必要
- ・ 区民、区内の社会資源、既にある施設などをつなぐことに積極的に関わる中で、情報収集も進み、情報発信につながっていく。また、区民が主体的に活動できる環境づくりにもつながっていく
- ・ 指定管理者の個性を発揮できる余地を残しておくことは必要
- ・ 地元の人たちや団体と指定管理者とがつながれる・連携できる仕組みを、建物の中に組み込んでつくってしまうことが重要。市民感覚を生かした企画など、区民主体の展開を期待できる

5 その他

委員会開催中に寄せられたアイデア等について

第1回横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会開催以降、事務局には区民の方などからメール・文書等で12件のアイデア・ご意見が寄せられました。

※主な内容を項目別に掲載しています。

項目	アイデア、意見（メール、文書等から）
都筑区をどんなまちに	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内で完結する消費のまちから、自らも参加・体験できる魅力的な施設が点在するまち、それらを辿ることを楽しむまち、そして全体の消費力がアップするまちへ ・本が仲立ちをして交流が生まれるまちへ（横浜北部に、本をたくさん積んだブックバスを走らせたい）
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちからお年寄りまで遊べる空間があると素晴らしい ・若い世代につなぐ将来性を備えてほしい。今の活動も大切であるが、次世代の主役になる団塊ジュニア世代や、その次の新社会人世代の価値観が大切な要素 （新しい時代の価値観のイメージ） ① パラレルキャリア：若いときから本業と社会貢献の2本立てに生きがいを求める活動。国内外を問わず。 ② ボランティア活動への参加意識：ひとつの職場に固執せず、異なる価値観の世界にも参加。残業はしないで夜は別のコミュニティ活動に参加。 ③ 占有からシェア意識への変化：個人で占有するのではなく、車は持たずにもシェア、事務所もシェアオフィス。固定的なものを持たずに、そのときに必要なものをシェアする意識が強い。 ④ 情報に対する意識：新聞は定期購入しない、必要な情報はWebから、情報の共有意識も高い。情報センターの意識も紙媒体とSNSの共存（デジタルとアナログ情報）、HPでの広報も過渡期。 ・高齢になるとなかなか遠くに行かなくなる。高齢の方も障害のある方もふらっと立ち寄れて休憩できる、居場所のような場所になってほしい。ハッキリした目的がある人だけが来る施設ではなく、休憩しに来て、「今日こんな催しがあるんだ、ちょっと参加してみようかな」といった流れも生まれるような施設になると良いと思う。 ・バリアフリーの点で横浜市の最先端をいく施設になるといい ・障害者と地域とが直につながれる場になってほしい ・新しい時代の文化活動拠点となってほしい （「世界への窓」「文化的コモンズ」「社会包摂」の実現には、公益的な施設が担うべき機能、役割がある。ただし、活動している人たちが意識を共有できる地道な活動が必要。ユニバーサルデザインなど勉強会などの開催／だれにでも活用できる場でなければならない。多様な

	<p>価値観を共有し、受け入れることのできる個人の意識の改革／多様な価値観を共有できる拠点とすべく、具体的なパイロット活動を行政と区民で試行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの方が増えてきたため、いつでもふらっと立ち寄れて、おしゃべりできるスペースがあると良い。区民に親しまれる区民文化センターになってほしい ・子どもたち（特にティーンエイジャー）がたくさんのいい芸術に無料で触れられる場所になってほしい。幼児子育て世帯のもう一つ上の世代の親子にも居場所をつくってほしい
<p>こんな区民文化センターで活動したい（ハード）</p>	<p>ホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・300名程度でクラシックの演奏会でも対応できるよう音響重視 ・落ち着いたウッディ調のホール ・譜面台は無料貸出で30台以上必要 ・席は座りやすく、お年寄りが階段を転ばないように（お客が一番困るのは、暗い中、階段が急なことと自分の席番が分からないこと、それから冬場は特に服がかさばり、椅子が窮屈なこと） ・エレベーターは障害のある人にとって大切 ・舞台は奥行き・袖を広く ・舞台は間口15m、奥行き15mとすることで、時代と共に変化する複合的なジャンルの演出が可能 ・中規模ホールでありながらプロも、アマも満足できる特色ある演出が可能な中小劇場を目指す ・バトンは数多く ・お客様の椅子をゆったりするといった工夫を ・照明器具、音響機材は出来るだけ新しいものを ・都筑区ではダンスが盛んで、やっている人も大勢いるので、ステージの面積を広くした方が良いのではないか ・ホール座席の階段（傾斜）を上り下りしやすいように、手すりをつけてほしい ・客席は300席＋車いす席、舞台は間口8間（14.4m）、奥行5間（9.0m）とし、プロも使える十分な舞台エリアを確保してほしい ・都筑の交通の便のよさを生かし、プロも満足できる小規模でも、高機能な舞台装置を整備。機材を持ち込むことの余裕を持った仕様に ・8Kのスーパーハイビジョンのパブリックビューイング出来る設備をホールに持たせてほしい（8Kの受信設備、8Kの高輝度プロジェクター、大型スクリーンが必要。研究・開発を手伝った経緯があるため、詳しい情報が必要であればボランティア対応可能） <p>【親子室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇場内奥には小さな子供たちがお母さんと一緒に見られる部屋は必ず必要

	<p>【楽屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さくてもトイレを備えつけてほしい ・できるだけゆったりとくつろげる空間を数部屋 ・畳の楽屋はあまり好まれない。足が伸ばせるから、お年寄りも椅子の方が楽 ・声を出す防音のある個室がほしい（歌手や芝居をする人には欠かせない場所）
音楽ルーム (リハーサル室)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台近くに広めのリハーサルルームを ・音楽だけでなくバレエ、ダンスやヨガ、太極拳などの練習もできるように壁面鏡を設ける。鏡はカーテン等で塞ぐことも考慮 ・小ホール機能を兼ねられるように 15m×10m=150 m²、予備室（ピアノ室、イス、卓倉庫）がほしい ・「都筑の文化 夢スタジオ」の利用状況から、都筑では圧倒的に練習場が不足。少し大きなダンススタジオ機能（150～200 m²程度）、少人数の音楽スタジオなどニーズに合わせて
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいものから大きな作品まで多様なサイズの展示に対応 ・作品は見せ方の演出で価値が向上する。照明効果、展示場入り口の展示効果、展示作品とクラシック演奏や映像作品とのコラボ演出などの工夫ができることを期待 ・多彩な演出ができるギャラリー（照明装置、遮光、簡易舞台（仮設）、スクリーンと映写装置など）が新しい創造を生む ・10m×20m=200 m²、ワークショップ準備室（流し、倉庫）、電動移動仕切り壁がほしい
練習室	<ul style="list-style-type: none"> ・練習室は大小3つ程度あり、ピアノも置いてほしい ・音を派手に出せる稽古部屋がほしい
会議室(アトリエ、フリールーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・工作をする工房があるといい ・(練習室及び会議室について) 都筑区では多くの団体が活動していて、活動の場の確保に苦労している。多くの団体が使えるフリースペースがあると良い。部屋数も極力多く用意されていると良い
情報コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシックや落語などの CD の視聴コーナーをつくるか、貸出を行ってほしい
エントランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ロビーはどなたも使え、お茶など飲めるエントランスで、市民の写真や絵を飾れたら素晴らしいと思う ・ホワイエ、エントランスは明るい吹き抜け空間（大型展示も可能）とし、みなきたロード側からもよく見えるガラス張りにしてほしい。読書、談話スペースも確保
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレは女子を多く 6対4くらいにしてほしい ・視覚障害者はタッチパネルや手をかざすだけのスイッチを認識しづらい。センサー式ではなく、ボタンなど触って分かるものにしてほしい。

	<p>また、音声案内を取り入れるのも有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的トイレの中に小便器を設置してほしい。難しければ、男性用トイレにおいて、手すり付きの小便器を出入口の最も近くに設置してほしい（出入口から最も離れた奥側に設置してあることが多いが、出口に向かう途中で人にぶつかったり、個室に入ってしまったたり、トイレ内で迷うことがある） ・手荷物を置けるようにしてほしい
空間のつなぎ方 (動線)	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出入口はホールの近くに配置しホールへの搬出入が素早くできるように
施設全体 (外観)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールへの誘い＝非日常感・ワクワク感の演出（地下鉄からの視認性を高めたランドマークとなる“なにか”のある景観／みなきたウォーク高架下のモール化を促し、連動するミニショップ・プレゼンエリア／待ち合わせ、休憩を退屈させないコンテンツエリア）
施設全体 (オープンスペース)	<ul style="list-style-type: none"> ・半屋外ゾーンの設置＝周辺施設からの浸み出しを受け止める工夫（周辺施設から外へ出てみる働き掛けができる縁側の空間／みなきたウォークに“顔”を向けたゆとり空間／パブリックビューイング画面が地下鉄車内からもうかがい知れる中庭的な広場／広いアトリウム内に植物園＋カフェでオアシスを創り出す） ・屋外イベント、一般広場として日常も使えるオープンスペース（芝生）がほしい。近隣（北側にマンションが多い）への騒音を考慮、南側に向けて木製の屋外舞台もほしい。できれば、建物の屋上（緑化）もオープンスペースとして開放してほしい
施設全体 (カフェ)	<ul style="list-style-type: none"> ・少しお茶が飲める茶店があり、長めの椅子やテーブルがあるといい（お客が早めに来て困るのは楽に座る椅子がロビーにないこと）
施設全体 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かの記念館のように絵画や銅像に凝るのではなく、質素にシンプルにして、利用者がくつろげる空間づくりにこそお金をかけ、気を配ってほしい ・これまでの都筑区のタウンセンター地区のまちのづくり（広い道、マッシブな大規模商業施設）を踏襲するのではなく、より「ひと」に近づいた施設がこれからの時代求められていく ・ミニコンサートやクラフトショップなどに利用できるアルコープをレンタルスペースとして配置し、市民のプレゼンテーションに活用 ・中学生や高校生が落ち着いて学習できるスペースをつくってほしい（可能なら図書館の併設や、学習室・研修室・パソコンルーム・子ども専用図書スペースを設けるなど） ・障害者が地域とつながれる仕組み・視点を取り入れてほしい。視覚障害者の伝統的な職業として按摩マッサージ指圧・はり・灸があるが、就労は厳しい状況。区民への保健サービスの一環として、施設内で鍼灸マッサージを施術できると良い。多目的に使える部屋があれば、障害者団体が手づくりのパンやお菓子などを販売することもできる。曜日によって

		<p>使い方を考えても良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に避難場所として使えるようにしてほしい ・事務室は指定管理者と市民団体が交流できる空間を確保 ・団体交流室（相談室）がほしい ・区民文化センター前の地下鉄高架下はみなきたロードとのつながりをつくる貴重なスペース。まちの賑わいづくりにつながるスペースとする <p>【バリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内に、障害者スポーツ文化センター横浜ラポールにあるような点字ブロックもしくはエスコートゾーンをつける ・部屋の入り口はストッパーのかかる引戸にほしい ・各案内表示は見やすく大きめに反転色はわかりやすい表示にする ・エレベーター内にカメラをつけて、中の様子が分かるようにしてほしい。カメラがあれば、緊急時に手を振って知らせることができる <p>【アクセス、立地面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダウンタウンの回遊性＝人の流れとたまりを生み出す工夫（隣接する駐車場の移転／みなきたウォークの道路との交差部分の幅広横断歩道設置／横浜市歴史博物館、吾妻山方面の賑わい感創出のため、みなきたウォークとの舗装の一体化） ・渋滞解消・軽減のための工夫（南側道路の拡幅、搬出入車両・一般車両の進入は北側歴博通りからの一方向に絞る） ・隣接して横浜市歴史博物館、遺跡公園、都筑民家園などの文化施設があり、都市施設として駅前芝生広場、駅と歴史博物館を結ぶシンボルロード、センター北と南をつなぐみなきたロードがある。センター地区を有機的に活用することが、「都筑らしい文化」を生むことにつながる。都筑ブランドとしての「センター地区文化ゾーン」の位置づけ、育成を
--	--	---

こんな区民文化センターで活動したい（ソフト）	施設利用（貸館）	<ul style="list-style-type: none"> ・公平にホール、練習室を貸し出してほしい ・いかなるジャンルの方でも、都筑区の方を優先してほしい。この辺が判然としないと、都筑区の文化施設を真から愛することはできない ・舞台公演の前日は24時間利用可能にし、簡易宿泊施設を併設（複合施設側への要望もあり）。大型企画公演などに対応して1週間の利用を可能にするなど、運用面の柔軟性確保
	連携機能	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に「スポーツと文化」「食と文化」の融合も都筑らしい文化の創造につながると思う ・アウトリーチ活動は上から目線の活動ではなく、プロとアマ対等な立場で文化創造に寄与できるように（プロジェクトチームがコーディネータ役となる ・東京都市大学など地域の大学の持てる力（情報系、環境系）とのタイアップ（FM局の設置、放送媒体を運営できる人材育成を） ・センター地区に所在する民間企業、商業などと連携し、将来に続く都筑の文化を共有（単なる資金協賛から一緒に都筑の文化を創る） ・都筑にはまだ眠っている文化財、歴史がある。楽しく実感できる歴史や文化を再発見することで、古代から続く都筑郡の文化を生かした取り組みが、子どもたちにも地域に愛着をもたらす都筑にしかできない文化活動になる
	人材養成	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台技術者も積極的に育成。出演者だけでなく、裏方の人材も育成することで、安く借りだけの舞台ではなく、指定管理者と共に市民もホールを大切に使い続ける運営を目指す（アートNPOがこの部分も実施することも効果的） ・まだ、職種としては確立していないが、ギャラリーの演出専門家の育成も今後必要な人材となる
区民主体の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は専門家に教えてもらいながら、ゆくゆくは住民が主体となって運営することになっていくべき。都筑区の住民、都筑区のコミュニティを生かすことを考えれば、スタッフも住民に必要とされ、都筑区のために役に立っているのだと生きがいや実感が持てるのでは（地区のコミュニティと密接な関係を持っているスコットランドの「ダンディー・レップ・シアター」などは、客席が430席ぐらいで、人気があつて年間の観光客が何十万人と観に来ている） ・つなぎ役、プロデュース機能の受け皿となる公益性を担保された活動主体（たとえば、アートNPOなど）が組織できることで、若い世代も巻き込んだ都筑らしい展開が期待できる。任意団体、協会では参加団体の共益、共助的な色合いになり、若い世代の共感が得にくい。これからはNPOなど公益性と透明性が確保できる団体が好ましい。指定管理者と対等な立場で連携して活動できる団体が誕生することを期待 	

	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者制度の導入により、劇場付きの熟練したスタッフがどんどん減っていると思う。息の合ったスタッフがいなくては、舞台に立つものが、安心して表現できない ・ 文化ホール完成までの期間に、公共施設を上手に使いこなすソフト集団（市民参加のアートプロジェクトチーム）を官民合同で育成できることが理想。将来アートNPOとして独立、区民文化ホールの指定管理者とよりよい連携ができる集団を目指すことが、将来の都筑らしい文化の拠点となる。5年間の期限付きで人材育成という視点で行政からの支援をお願いしたい ・ 指定管理者の選定や運営委託、設計・施工を行う業者の選定においては、透明性を確保すること
--	-----	---

都筑らしさを大切にした身近な文化活動拠点の整備を目指して、検討を進めています

都筑区 区民文化センターニュース 第4号

発行：平成29年 月 日

センター北駅前の中川中央一丁目9番1、2に、区の文化活動拠点としての「区民文化センター」を整備する予定です。現在「横浜市都筑区における区民文化センター基本構想検討委員会」を開催し、区民文化センターに求められる機能や施設構成、施設運営の方向性などの検討を行っています。

〔10月2日に、第3回委員会を開催しました〕

事務局から、9月10日に開催した「第2回 区民文化センターについて考えるアイデアミーティング」の開催報告を行い、その他、FAXやメールなどで寄せられているご意見等について情報提供しました。

その後、第2回委員会での議論を踏まえながら、横浜市都筑区における区民文化センター基本構想のコンセプト（方針）、施設の運営、施設の構成などについて意見交換を行いました。

◆都筑区の区民文化センターのミッションと、ミッションの実現に向けて重要な方針について

第2回委員会で、委員の皆様から出された「区民中心に文化を生み出し・創り上げつなげていく喜びを大切に」「自由度の高い施設、誰でも来ることのできる場に」といった意見から、下記の「ミッション」を掲げました。

都筑区の区民文化センターのミッション（目指すこと）

「都筑に根差した個性ある文化の創造」

- ① 文化に触れる機会を、一人でも多くの区民に提供します
- ② 地域独自の文化や活動、新しい価値や表現を生み出すきっかけをつくります
- ③ 心の充実が得られるまちになるよう、区民と一緒に取り組みます
- ④ 都筑の新たな魅力をつくります

第3回委員会では「ミッション」の実現に向けて重要な方針を議論し、下記のとおり掲げることとしました。

都筑区の区民文化センターのミッションの実現に向けて重要な方針

「多様性に対応できる、柔軟性を大切にした施設」

その1 文化事業の提供・展開 の重要な方針

区民文化センターに期待される6つの基本的役割を担う、区民に最も身近な「地域の文化芸術活動の拠点」として、区民に多様な文化事業を提供し、展開していきます。

6つの基本的役割

- ★ 区民に芸術文化に触れる機会を提供すること（自主事業）
- ★ 地域のネットワーク形成に寄与すること（文化的commons）
- ★ 地域文化を支える人材育成を担うこと（次世代育成、ボランティア等）
- ★ 様々な区民の社会参加の機会をつくること（ソーシャル・インクルージョン）
- ★ 文化団体・文化活動をする人の支援
- ★ 文化活動のために施設を提供すること（貸館）

下記の内容は、第3回委員会でいただいたご意見を参考に、第3回委員会資料の内容を整理したものです。

その2 施設運営・管理 の重要な方針

区民の個性を尊重し、区民の多様で、多彩な活動に呼応し、区民の誰もが利用しやすい運営・管理を行います。→運営・管理体制をつくるための考え方を5本の柱にまとめました。柱の中には「みなきたウォーク」「歴史博物館」「都筑民家園」などの周辺施設との連携・協働した運営という考え方も含まれています。

運営・管理体制をつくるための考え方

- (1) 区民主体の仕組みづくり … 区民が利用しやすい運営方法の構築、誰もが鑑賞できる環境の確保、区民とつながれる仕組みづくりなど
- (2) センター機能としての役割の発揮 … 様々な情報の収集・提供など
- (3) 専門人材の配置と人材育成 … 区民への専門的なアドバイス・支援など
- (4) 安心・安全の確保 … 安全な施設利用への配慮・ルールづくりなど
- (5) 公共施設としての役割の発揮 … すべての区民を優しく受け入れる、公平な施設提供など

その3 施設構成 の重要な方針

区民の多様で、多彩な活動に対応できるよう、柔軟性のある施設の活用ができる仕様とします。

また、子どもを含むすべての利用者が安心、安全かつ快適に利用できるよう、バリアフリー化、利便性、安全性、防災性（避難誘導の容易さなど）に配慮するとともに、ユニバーサルデザインの視点、多言語による表示を取り入れます。→使いやすく、柔軟性のある施設をつくるための考え方をまとめました。

使いやすく、柔軟性のある施設をつくるための考え方

- ホール、リハーサル室（音楽ルーム）、ギャラリーは専門性の高い仕様とする一方で、リハーサル室（音楽ルーム）、ギャラリー、会議室などは音楽、ダンス、展示、映像発表など多目的な用途で使用できるよう設備面で工夫を行います。
- 「みなきたウォーク」「歴史博物館」「都筑民家園」など周辺の施設や環境とつながりやすい空間づくりを行います。 など

※答申（たたき台）の詳細内容は、下記ホームページに掲載しています。

◆委員から出された主な意見

- アイデアミーティングでは「みなきたウォーク」と区民文化センターのエントランスの関係が非常に大きく扱われていて、一つのポイントだろうと思う／「ここに区民文化センターがある」と分かる雰囲気のある建物外観がよい
- 運営にかかわりたいという区民の想いの強さが「都筑らしさ」の一つではないかと感じる。区民が運営にかかわることのできる仕組みづくりについて、答申に盛り込んだ方がよい
- 各部屋の使い方の柔らかさ（多様性）に、都筑の区民文化センターの特徴が出てくるのではと感じている
- 一般的には、客席数に対して大きく間口と奥行きが同等の舞台面を実現できれば一つの特色になる／舞台面が広ければ、お客様に舞台面上がってもらうプログラムや様々なパフォーマンスなどに使える
- 区民の皆様がどんな暮らしを望んでいるかを念頭に「まちなかにある文化施設」に求める条件を盛り込むべき

〔11月28日に、第4回委員会を開催しました〕

予定していた4回全ての委員会を終了しました。確定した答申の概要について、次号のニュースでお知らせします。

※答申は確定後、市に提出されます（下記ホームページにも掲載します）。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

多くのアイデア・ご意見をお寄せいただき、ありがとうございました！

第1回委員会開催以降、区民の皆様からは、「区民文化センターについて考えるアイデアミーティング」において、また、文書（FAX・Eメール・郵便）にて、たくさんの方の区民文化センターについてのアイデア・ご意見等をお寄せいただきました。ご意見等は委員会の進行にあたり参考とさせていただきます。改めてお礼申し上げます。